

選択的評価事項に係る評価

# 自己評価書

平成18年6月

奈良県立医科大学

## 目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	3
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	5
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	11

## I 対象大学の現況及び特徴

### 1 現況

(1) 大学名 奈良県立医科大学

(2) 所在地 奈良県橿原市四条町840番地

#### (3) 学部等の構成

学部：医学部(医学科、看護学科)

研究科：医学研究科(地域医療・健康医学専攻、  
生体情報・病態制御医学専攻、生体分子・機能再建医学専攻)

附置研究所：なし

関連施設：附属図書館、附属病院、  
教育開発センター、先端医学研究機構、  
看護短期大学部

#### (4) 学生数及び教員数(平成18年5月1日)

学生数：学部825人 大学院85人

(医学科575人、看護学科250人)

教員数：320人

### 2 特徴

#### [沿革]

本学は、昭和20年4月に設立された奈良県立医学専門学校を起源とし、昭和22年7月に奈良県立医科大学(旧制、新制としては昭和27年4月開設)となり、現在までの60年にわたり、県立の医学の単科大学として「医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与する」という理念に基づき、教育・研究・地域貢献(診療)を大学の3つの柱として、約4,000人におよぶ卒業生を地域の医療機関等に輩出するとともに、臨床課程の医学生や看護学生の教育の場としての目的もある22の診療科や900床の病床等を有する附属病院を運営すること等により地域医療の中核を担ってきた。

#### [組織]

大学の組織は、学長をトップに、最終決定機関として、医学科教授会議、看護学科教授会議をまとめる教授会があり、主な組織として医学部、附属病院、附属図書館、教育開発センター、先端医学研究機構、事務局がある。また、学長、教授8名及び事務局長を構成員とする部局長会において大学の管理運営に関する調整を行っている。

また、大学院として医学科の教員が兼務する形で医学研究科が置かれており、平成16年度の看護学科の設置により学生の募集はなくなったが、看護学科の教員が兼務する看

護短期大学部(平成18年度末で閉校予定)を併設している。

医学部は、6年制の医学科と4年制の看護学科からなり、それぞれ一般教育と専門教育(医学科は基礎医学教育と臨床医学教育)に分かれるとともに、一部の必要な授業においてはそれぞれの学科の教員が補完している。

#### [国際交流]

国際交流の面では、毎年150名にもおよぶ教員を学会、研究及び研修を目的として海外へ派遣するとともに、海外からも研究者や学生を受け入れており、平成7年8月にはタイ国チェンマイ大学と、平成15年12月には中国福建医科大学と学術交流協定を締結し、研究者や学生の学術交流を行っている。

#### [公開講座]

平成7年3月の本学の開学50周年を契機に、地域貢献の一環として、県民を対象として医学や医療の知識をわかりやすく伝えるため、公開講座「くらしと医学」を開催し、毎年、奈良市と橿原市において、約1,200名を超える聴講者の参加を得ている。

#### [大学連合]

平成13年3月に奈良県内の大学が連携・協力する組織として結成した「奈良県大学連合」の一員として情報の発信、公開講座、地域社会・自治体・産業界等との連携等を実施してきている。

#### [大学改革]

大学としてのさらなる発展を目指して幾多の取組や改革を行ってきており、近年では、平成16年4月に次のような大きな改革を実施している。

#### (看護学科の設置、大学院の再編整備)

まず、看護の部門におけるより質の高い看護専門職者の養成と、医学と看護学の連携の強化を図るため、平成8年4月に設置された3年制の奈良県立医科大学看護短期大学部を4年制の医学部看護学科とし、医学科との2科体制とするとともに、昭和35年4月に設置された大学院(医学研究科)も、今日の急速な医療技術の進歩と医学研究の高度化、研究領域の拡大、ならびに地域社会の医療ニーズに対応するため5系から3専攻7領域に再編整備した。

#### (教育開発センター、先端医学研究機構の設置)

また、転換期にある日本の医学教育において本学の医学教育の充実と発展を図ることを主目的に教育開発センターが設置されるとともに、がんに関する治療や研究が全学的なものに進化したことを受け、昭和43年4月に設置された附属

がんセンターを廃止し、これからの時代の要請に応え、より独創的な研究成果を發し、かつ臨床応用することにより地域社会に貢献するため先端医学研究機構が設置され、その研究単位として平成16年4月に「医療情報学分野」と平成18年4月に「生命システム医科学分野」が設置され、現在新たな研究単位の検討に入っている。

(6年一貫教育の導入)

教育開発センターを中心に、学務委員会のカリキュラム部会でも検討され、平成18年度からは、医学科の6年間を通じて、それぞれの学年に適した一般教育、基礎医学教育、臨床医学教育を実施するために「6年一貫教育」のカリキュラムが導入された。

(寄附講座の設置)

また、平成18年4月には、地域社会への貢献のための産学連携を推進するため、大和ハウス工業株式会社の協力を得て、“住まいを医学する”をキャッチフレーズに、6年間の寄附講座「住居医学講座」を開設した。

(教員の任期制の導入)

なお、教育開発センター、先端医学研究機構の研究単位においては、組織の活性化のため6年間の基本とする教員の任期制を導入している。

(公立大学法人化に向けて)

加えて、平成16年4月からの国立大学の法人化に伴い、本学も、時代の変化と社会の要望に応え、さらなる発展を目指して改革を押し進めることにより、県民の信頼と付託に応えるとともに、大学に所属する全教職員が誇れる職場とすべく、全員一丸となって平成19年4月からの公立大学法人化の準備に取り組んでいるところである。

## II 目的

### (選択的評価事項Aに係る目的)

本学の目的において、選択的評価事項Aに係る部分は次のとおりである。

〔大学学則第1条〕 昭和28年1月16日奈良県規則第2号

奈良県立医科大学は、医学及び看護学を教授研究するとともに、倫理的観念をかん養し、もって文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

〔大学院学則第1条〕 昭和35年4月1日奈良県規則第22号

奈良県立医科大学大学院は、医学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めてひろく文化の発展に寄与するとともに、専門分野に関する高度の研究指導者及び技術者を養成することを目的とする。

〔大学の目的〕 平成6年3月8日教授会決定 平成17年12月13日教授会一部改正

2 研究面では、医学、看護学およびこれらに関連する独創的・先端的研究を学際的・国際的に推進することを主眼とし、大学院では、研究・教育・臨床のいずれの領域においても指導者となり得る人材の育成を図るとともに各専門分野の高度の研究を推進する。

〔先端医学研究機構に関する規程〕 平成16年7月13日 教授会決定

第2条 研究機構は、奈良県立医科大学において、これからの時代の要請に応える独創的な研究成果を発し、かつ臨床応用等を行うことによって地域社会に貢献するとともに、高度な医学研究用及び教育用設備機器類を有効活用できるように配置し医学の研究及び教育の向上を図ることを目的とする。

### (選択的評価事項Bに係る目的)

本学の目的において、選択的評価事項Bに係る部分は次のとおりである。

〔大学学則〕 昭和28年1月16日奈良県規則第2号

第1条 奈良県立医科大学は、医学及び看護学を教授研究するとともに、倫理的観念をかん養し、もって文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

第36条 大学において、医学に関し特定の事項を研究しようとする者があるときは、選考により研究生又は専修生として入学を許可することがある。

2 前項の研究生及び専修生については、別に定める。

第46条 学長は、大学に教授上余力がある場合には、選考の上委託学生、聴講生及び外国人学生を入学させることができる。

2 学長は、大学において特定の授業科目の履修を願い出る者があるときは、大学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学させることができる。

3 委託学生、聴講生、外国人学生及び科目等履修生に関して必要な事項は、学長が定める。

第50条 大学に公開講座の施設を設ける。

2 公開講座に関し必要な事項は、学長が定める。

〔大学院学則〕 昭和 35 年 4 月 1 日奈良県規則第 22 号

第 1 条 奈良県立医科大学大学院は、医学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めてひろく文化の発展に寄与するとともに、専門分野に関する高度の研究指導者及び技術者を養成することを目的とする。

第 29 条 学長は、他の大学院の学生が本大学院の授業科目を履修することを願い出たときは、当該学生が在学する大学院と協議の上、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 学長は、他の大学院の学生が本大学院において研究指導の一部を受けることを願い出たときは、当該学生が在学する大学院と協議の上、特別研究学生として入学を許可することができる。

第 30 条 学長は、外国人特別学生として本大学院に入学しようとする者に対しては、第 21 条第 1 項の規定にかかわらず、選考の上許可することができる。

〔大学の理念〕 平成 6 年 3 月 8 日教授会決定 平成 17 年 12 月 13 日教授会一部改正

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

### III 選択的評価事項A 研究活動の状況

#### 1 選択的評価事項A 「研究活動の状況」に係る目的

本学の目的に於いて、選択的評価事項Aに関係する部分は次のとおりである。

**【大学学則第1条】** 昭和28年1月16日奈良県規則第2号

奈良県立医科大学は、医学及び看護学を教授研究するとともに、倫理的観念を涵養し、もって文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

**【大学院学則第1条】** 昭和35年4月1日奈良県規則第22号

奈良県立医科大学大学院は、医学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて広く文化の発展に寄与するとともに、専門分野に関する高度の研究指導者及び技術者を養成することを目的とする。

**【大学の目的】** 平成6年3月8日教授会決定 平成17年12月13日教授会一部改正

2 研究面では、医学、看護学これらに関連する独創的・先端的研究を学際的・国際的に推進することを主眼とし、大学院では、研究・教育・臨床のいずれの領域においても指導者となり得る人材の育成を図るとともに各専門分野の高度の研究を推進する。

**【先端医学研究機構に関する規程】** 平成16年7月13日 教授会決定

第2条 研究機構は、奈良県立医科大学に於いて、これからの時代の要請に応える独創的な研究成果を発し、かつ臨床応用等を行うことによって地域社会に貢献するとともに、高度な医学研究用及び教育用設備機器類を有効活用できるように配置し、医学の研究及び教育の向上を図ることを目的とする。

## 2 選択的評価事項A 「研究活動の状況」の自己評価

### (1) 観点ごとの分析

**観点A-1-1： 研究の実施体制及び支援・推進体制が適切に整備され、機能しているか。**

#### 【観点到係る状況】

本学の教員は学長、寄附講座教員を含めると322名である(A-1-1-1)。教員は研究と教育に専念することが本来の業務であり、臨床系の教員はそれに加え、医療行為も併せてその業務となしている。その医療行為を通じて医学における教育・研究にも貢献している。

本学の共用研究施設には、動物実験施設、組換え DNA 実験施設、ラジオアイソトープ(RI)実験施設、大学院中央研究施設を備えた総合研究施設がある(A-1-1-2)。総合研究施設には、生物パターン解析装置、DNA 解析装置、DNA シーケンサー、マイクロディセクションシステム、プロテインシーケンサー、生体分子相互作用測定装置、顕微鏡画像解析装置、共焦点レーザー顕微鏡、自動細胞解析装置、顕微鏡写真撮影装置などの最新の機器が設置されている(A-1-1-3)。それぞれの実験施設には管理者(3名の助教または講師)が配属されていて、事前に管理者から教育を受け登録された研究者により1日24時間利用することができる。

動物実験施設の利用登録者数は44講座の675名で、年間の実験申請件数は700件である。組換え DNA 実験施設の利用登録者数は37講座の176名で、現在登録されている実験申請件数は115件である。RI 実験施設の利用登録者数は39講座の221名である。平成5年から現在までに総合研究施設で数多くの研究がなされ、極めて質の高い多くの成果が得られている(A-1-1-4)。

更に、共同研究、文部科学省・厚生労働省の科学研究費の申請、企業との連携、知的財産戦略(発明)の推進、総合研究施設や学内LANの管理のために研究支援室(6名の県職員)が設置されている(A-1-1-5)。

#### 【分析結果とその根拠理由】

共用研究施設の動物実験施設、組換え DNA 実験施設、ラジオアイソトープ(RI)実験施設は大学全体の研究の中核をなしており、その施設に配置されている大型機器も最先端のことが多い。それらの利用度は極めて高く、そこに配置されている研究者3名によって、それぞれの施設の管理が十分に行われていると判断する。

しかし、大学院中央研究施設は位置的に総合研究棟の中ではなく、基礎棟の各階の研究室に分散しており、その機器の管理は基本的に研究室の管理教室が担当している。したがって、故障とか、最新式の機器への更新が遅れているのが現状であり、更なる工夫が必要であると判断する。研究支援室に研究費の申請から、機器の選定、物品の購入、事務的処理に渡る広範囲な実務が任されている。研究の広がり発展に応じて、更なる人的要員も含め拡大することが期待される。

**観点A-1-2： 研究活動に関する施策が適切に定められ、実施されているか。**

#### 【観点到係る状況】

県から年間169,447,000円が講座費として各講座に分配されている。それが各研究室の研究活動の基本となしている更に、この総合研究施設に施設管理費として56,780,000円、消耗品費として3,469,000円、その他を含め総額75,593,000円が予算配分されており、研究を支援する施策がとられている。先端的研究施設として、大学の中核をなし、その利用密度も極めて高い。

学術研究のより一層の推進を図るため、学術研究情報及び関連事務等の情報処理を効率的に行うことを目的として、研

究用コンピューターネットワーク(以下「ネットワーク」)が設置され、現在、2,800名が利用登録している。

民間団体等が募集している研究助成については、研究支援室から各講座等に対し通知するとともに、学内ホームページにも載せ、研究助成の獲得を支援している。

**【分析結果とその根拠理由】**

大学が県から支援されている研究費は他の国立・公立の医科系大学または医学部に比較して、基本的には十分な支援がなされていると判断する。

**観点A-1-3： 研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点等を改善するためのシステムが適切に整備され、機能しているか。**

**【観点到に係る状況】**

総合研究施設の円滑な運営のために、動物実験委員会、組換えDNA実験安全委員会、RI委員会、大学院中央研究施設委員会が設置されている(A-1-3-1, A-1-3-2, A-1-3-3, A-1-3-4)。各委員会は年数回開催されている。医学の研究医療行為が倫理的に配慮されているかを審査するために、学長を委員長とし6名の外部委員を含む14名からなる「医の倫理委員会」(A-1-3-5)が設置されており、年平均11件の申請が審査されている。また、平成13年度に、試料提供者その家族または血縁者の遺伝情報を含む個人情報などの人権が守られているかを審査するために、外部委員4名を含む8名の委員からなる「ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会」(A-1-3-6)が設置され、年平均8件の申請が審査されている。

自己点検・評価は平成5年、平成11年、平成17年度に3度実施されている(A-1-3-7, A-1-3-8, A-1-3-9)。教授、助教授、及び講師は平成13年度に外部の点検・評価を受けて、その評価結果が公表されており、それぞれの研究者が大学の中でどのような能力のレベルかを知ることとなった。更なる努力の目標を自覚したと判断する。

また、更なる研究を推進するための研究施設への要望を総合研究施設の各委員会で分析し、成果をあげるべき対応を行ってきた。最新の大型研究機器の導入や、遺伝子組換え動物の飼育、実験が動物施設で大きく広げられてきたこともその一端と言える。

**【分析結果とその根拠理由】**

研究を推進するための研究施設への要望をそれぞれの委員会で検討し、対応を行っていて、また、教員の自己点検・評価が6年毎に定期的実施されているので、システムが適切に整備され機能していると判断する。

**観点A-2-1： 研究活動の実施状況(例えば、研究出版物、研究発表、特許、その他の成果物の公表状況、国内外の大学・研究機関との共同研究、地域との連携状況、競争的研究資金への応募状況等が考えられる。)から見て、研究活動が活発に行われているか。**

**【観点到に係る状況】**

平成11年から平成16年までの6年間の学術論文総数は8,532篇(年平均1,422篇)であり、欧文原著論文2,629篇、和文原著論文3,312篇、欧文の総説・著書195篇、和文の総説・著書2,396篇である。学術論文総数、原著論文総数、欧文原著論文総数、論文のインパクト総数の各年次推移及び部門別欧文和文論文数年次比較は資料に示されている(A-2-1-1, A-2-1-2, A-2-1-3, A-2-1-4, A-2-1-5)。提出された平成11年から平成16年までの教室・個人業績リストから、大半の講座に於いて学内外の大学や研究施設、及び国外の研究施設との共同研究が、現在も活発に進められている現状が確認されている。

**【分析結果とその根拠理由】**

本学の研究員は1名当たり年平均3篇の学術論文を発表している。平成11年から現在までに出版された原著論文のうちでインパクトファクターが10以上の原著論文数は50篇であり、年平均7篇である(A-2-1-6)。研究活動のスケールアップと国際化、人的交流の促進など、共同研究のメリットが最大限生かされていることは高く評価できる。学術研究の向上のためには、学内外との交流を更に活発化し、より独創的で先進的な研究を今後ますます発展させる必要がある。

**観点A-2-2： 研究活動の成果の質を示す実績(例えば、外部評価、研究プロジェクト等の評価、受賞状況、競争的研究資金の獲得状況等が考えられる。)から見て、研究の質が確保されているか。**

**【観点到に係る状況】**

生物学の大西武雄教授は宇宙環境の生物影響について、米国のスペースシャトル及びロシアの宇宙ステーション・ミールを利用して研究し、平成13年に宇宙生物学会の学会賞を、ハイパーサーミアがん治療に於いてがん抑制遺伝子の遺伝子型が治療成果の先行指標となることを発見し、平成16年に国際ハイパーサーミア腫瘍学会のThe Tsutomu Sugawara Awardを受賞している(A-2-2-1, A-2-2-2)。

化学の大崎茂芳教授はマイクロ波を用いて高分子線維の配向を迅速で簡便に測定できる装置を開発し、マイクロ波方式を確立した(Nature 誌に掲載)。

小児科学の吉岡章教授は長年の血友病の研究により日本赤十字社の昭和天皇記念学術賞を平成17年に受賞している。

皮膚科学の宮川幸子教授は平成11年に「新生児エリテマトーデスの発症要因に関する研究」で日本女医会吉岡弥生賞を受賞している。

放射線腫瘍医学の長谷川正俊教授は平成18年に日本医学放射線学会のSilver Medalを受賞している。

ドイツ語の友田和秀助教授は平成18年に日本独文学会賞を受賞している。

生理学第一講座の豊田ふみよ講師は脊椎動物で初めて雄のアカハライモリからペプチド性のフェロモンである「ソデプリン」を同定している(Science 誌に掲載)。

耳鼻咽喉科学の細井裕司教授、阪口剛史助手は平成15年度から17年度まで文部科学省の「独創的革新技術開発研究提案公募制度」に於いて、民間企業が行う研究の分担者として、普通の補聴器では聞こえない重度難聴者のための超音波補聴器の開発に加わって研究を行ってきた。また、平成17年度から平成19年度まで、「戦略的情報通信研究開発推進制度」で総務省から委託を受け、発声障害者の音声コミュニケーション手段の研究を行っている。

泌尿器科学の平尾佳彦教授は、平成17年度から平成18年度の2年間、文部科学省の「知的クラスター創成事業」として、約8,700万円の補助金を受け、医療用スマートデバイス&システムの研究開発と事業化で、産学連携での新産業の創出を目指した研究を行っている。更に、先端医学研究機構のRI実験施設の森俊雄助教授は、平成17年度から平成18年度まで経済産業省の所管する「地域新生コンソーシアム研究開発事業」で、管理法人である民間企業から再委託を受け、血中薬物濃度モニタリング用ナノ構造バイオニクスデバイスの研究開発を行っている。

本学の教員と研究員は現在までに最近5カ年間に、国際学会賞10件、国内賞8件、国内学会賞21件を受賞している。平成15年から平成17年までの3年間で、国外での招待講演は平成15年度6件、平成16年度2件、平成17年度2件行われている(A-2-2-3)。ドイツ、オーストラリア、アジアなどの多くの国から本学の研究者の招待講演が行われてきた。

また、外国から本学への外国人客員研究員を平成13年から平成17年までに14名と留学生を4名受け入れている(A-2-2-4)。

一方、平成13年から平成17年までに42名の教員が研究のために国外に長期の派遣が行われている(A-2-2-5)。競争的資金獲得として、文部科学省の科学研究費の交付状況は平成12年度から平成18年度までを比較すると、交付

件数が平成 12 年度 69 件で、平成 18 年度 95 件と 1.4 倍に増加している(A-2-2-6)。また、科学研究費の総額も1億1千万円から1億 9 千万円に増加している。厚生労働省の科学研究費の交付状況は1年当り 11 件から 16 件で、科学研究費の総額が 3 千万円から 2 千万円に減少している(A-2-2-7)。しかし、民間財団からの研究助成は、平成 13 年度 1 億円から平成 17 年度1億 3 千万円余に増加している(A-2-2-8)。平成 18 年度には寄附講座「住居医学講座」が開設され、住居と医学(健康)について、新しい分野の包括的研究を目指している(A-2-2-9)。

**【分析結果とその根拠理由】**

それぞれ独自の特徴が生かされた質の極めて高い研究成果が見られ、数多くの受賞実績が認められる。中には高く評価されている賞がある。しかし、大学を特徴づけるまでの一連の著名な成果が望まれる。研究テーマが大学を象徴するほどの研究へと醸成させることを期待したい。

文部科学省の科学研究費については、採択件数及び交付額とも傾向としてはほぼ順調に伸びている。新規課題の採択率は概ね 20%前半であり、全国平均に近い。しかし、大型研究補助金の獲得件数が少ないのが現状である。一方、厚生労働省の研究補助金は増額されてはいないが、民間団体からの研究助成はゆるやかに伸びていると判断する。しかし、これらの研究は個々の研究者の能力に依存しているので、それぞれの額は大きくはない。大学として特徴をもった研究を育成し、COE などの更に大きな競争的資金を確保することに努力することが望まれる。

**観点 A-2-3： 社会・経済・文化の領域における研究成果の活用状況や関連組織・団体からの評価等から見て、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われているか。**

**【観点に係る状況】**

本学教員は国関係では、厚生科学審議会専門委員、厚生労働省医薬品食品衛生審議会専門委員、中央薬事審議会臨時委員、薬品食品衛生審議会専門委員などを務めている。また、県関係では、奈良県科学技術振興指針策定委員会委員、健康奈良 21 計画策定委員会委員、奈良県における食品の安全・安心の確保のための基本方針策定検討委員会、奈良県公害審査委員会委員、奈良県社会福祉審議会臨時委員、奈良県社会保健福祉審議会委員、奈良県精神保健福祉審議会委員、奈良県身体障害者審議会委員などを務めている(A-2-3-1)

整形外科の高倉義典は人工関節で、内科学第一講座の斉藤能彦と輸血部の藤村吉博は共同で、急性心筋梗塞で、耳鼻咽喉科学の細井裕司は骨導超音波補聴器で、地域健康医学の車谷典男はアスベスト(石綿)で、化学の大崎茂芳はクモの糸で新聞報道されている。その他の研究者も多く新聞報道・テレビなどで報道され、本学の名を有名にしているとともに研究成果が広く紹介されている(研究活動実績票別紙様式 3)。

**【分析結果とその根拠理由】**

国関係及び県関係に於いて、多数の重要な審議会委員を務めていて、行政に対して十分に社会貢献していると判断できる。

本学における研究成果は新聞、テレビ、雑誌などを通じて大学の存在、大学での研究の成功が広く社会に紹介されていると判断する。

**(2) 目的の達成状況の判断**

目的の達成状況が良好である。

**(3) 優れた点及び改善を要する点**

**【優れた点】**

提出される論文数も多く、また、質も高く、オリジナリティも高いと判断される。各研究室がそれぞれ研究機器の購入に努力しているが、競争的資金獲得に成功しても、大型の最新機器の購入には難しさがある。その状況を打破するためにも大学全体が使用できる総合研究棟が建設されて 13 年になる動物施設、RI 施設、組換え DNA 施設を中心として、それに関係する大型最新機器をはじめ、実験に必要な基本的機器の充実に努めてきた。この施設の充実度は他大学の研究施設と比較しても目覚ましいものがある。しかも、その使用頻度は多くの本学の研究者・院生・学生に解放されており、大いに利用されている。

**【改善を要する点】**

研究施設の研究機器は日進月歩の新機種の開発が見られる。その多くが最先端のコンピュータ制御による機器であり、数年で新たな機能を搭載した新機種の開発が目覚ましい。しかも、新機種の機能はその機種を利用した研究の質に大きく影響する。したがって、常に新しい機種の購入に心がける必要があり、研究者からの期待も大きい。そのような声に応えるためにはそれ相応な予算が必然となる。資金の獲得に努力するのはそれらの機器の利用者のみならず、管理者にもその責務が大きい。時代の流れにたゆまぬ努力で対応していくことが当然のことである。

**(4) 選択的評価基準Aの自己評価の概要**

大学全体の研究に対する取り組みは高いものがある。大学の奨励会が推進する年間約 10 題の研究シンポジウムには極めて著名な講演者が選ばれ、それぞれの質の高い発表に対しての学内の大学院生・研究者の参加意欲が高い。総合研究棟の研究施設も客観的に見て先端的大型機器に恵まれており、その利用度も高い。また、新規の機器の導入にあたっては広く大学にその利用法の講習会が持たれ人気が高い。20 年ほど前の学位取得論文と比較すると、最近のものはその殆どがレフェリー審判のある一流英文雑誌であることから研究に対する姿勢が大きく発展してきたと判断する。多くの研究室での更なるレベルの高い研究を期待したい。

また、競争的資金獲得に関しても多くの研究室から複数の申請がなされ、徐々に獲得金額も増えつつある状況にあることから、好転的發展を遂げていると判断できる。また、従来の既存の基礎医学の講座がそれぞれ 1 名ずつの教員の枠を持ち寄ることで、先端医学研究機構として革新的研究を担う新しい研究機構を設立した。平成 18 年度より同機構に教授が就任し、新しい研究単位がスタートした。今後、続いて第二、第三の研究室のスタートが計画されている。旧体制からの改革が実現化され始め、最先端の医学研究の創生が期待されている。大学全体の改革が緒についたと判定できる。大学における研究成果が広くジャーナリズムに紹介され、大学の存在と研究レベルの質の高さが紹介されている。

## IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

### 1 選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本学の目的に於いて、選択的評価事項Bに関係する部分は次のとおりである。

#### 〔大学学則〕 昭和28年1月16日奈良県規則第2号

- 第1条 奈良県立医科大学は、医学及び看護学を教授研究するとともに、倫理的観念を涵養し、もって文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。
- 第36条 大学において、医学に関し特定の事項を研究しようとする者があるときは、選考により研究生又は専修生として入学を許可することがある。
- 2 前項の研究生及び専修生については、別に定める。
- 第46条 学長は、大学に教授上余力がある場合には、選考の上委託学生、聴講生及び外国人学生を入学させることができる。
- 2 学長は、大学において特定の授業科目の履修を願い出る者があるときは、大学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学させることができる。
- 3 委託学生、聴講生、外国人学生及び科目等履修生に関して必要な事項は、学長が定める。
- 第50条 大学に公開講座の施設を設ける。
- 2 公開講座に関し必要な事項は、学長が定める。

#### 〔大学院学則〕 昭和35年4月1日奈良県規則第22号

- 第1条 奈良県立医科大学大学院は、医学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて広く文化の発展に寄与するとともに、専門分野に関する高度の研究指導者及び技術者を養成することを目的とする。
- 第29条 学長は、他の大学院の学生が本大学院の授業科目を履修することを願い出たときは、当該学生が在学する大学院と協議の上、特別聴講学生として入学を許可することができる。
- 2 学長は、他の大学院の学生が本大学院において研究指導の一部を受けることを願い出たときは、当該学生が在学する大学院と協議の上、特別研究学生として入学を許可することができる。
- 第30条 学長は、外国人特別学生として本大学院に入学しようとする者に対しては、第21条第1項の規定にかかわらず、選考の上許可することができる。

#### 〔大学の理念〕 平成6年3月8日教授会決定 平成17年12月13日教授会一部改正

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

## 2 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

### (1) 観点ごとの分析

**観点B-1-1：** 大学の教育サービスの目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい、計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が周知されているか。

#### 【観点到る状況】

本学は、「医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与すること」を理念としている。その中で、教育サービスを地域社会に提供し、人類の福祉に貢献することを重要な要素としてとらえ、本学における医学研究や医療技術の成果、知識及び情報を広く社会に開放し、社会の要請に応えることにより、本学が社会的にその機能を果たすことは必要であり、当然のことである。

この目的に基づいて、教育サービスを提供する上での具体的な方針は以下のとおりである。

「方針 1」本学が創出・蓄積した医学知識・情報を地域社会のみならず社会全体に広く開放する。これは、すべての社会的貢献に共通する方針であり、社会との連携を密にすることにより、本学が社会的にその責務を果たしていく。

「方針 2」国際交流の一環として、受け入れた留学生等に対して医学知識・医療技術の習得や医学研究に関する教育を受ける機会を提供する。これは、医学知識・医療技術の習得や医学研究のための高度の教育を受けたいという外国人の要請に応えるものである。

「方針 3」若者の、医学や看護学をはじめとする理系の学問分野への関心を高める。これは大学の雰囲気と医学教育・研究にふれる機会を提供することにより、医科大学への進学意欲を喚起することを目的とする。

「方針 4」県内の中学・高校の生徒に対し、医学や看護学の学問分野への関心を高めることを目的に、出前講義や高校主催のキャリアガイダンスに講師を派遣する等により、高校教育を支援する。

「方針 5」その他、個々の状況に応じて広く社会の要請に対応する。

「方針 6」正規課程の学生以外として、「研究生」「専修生」「博士研究員」「委託学生」「聴講生」「外国人学生」「科目等履修生」等の受入や「公開講座」の開催については、学則により制度として定められており、この制度に基づき積極的な役割を果たしていく。

#### 【分析結果とその根拠理由】

観点にかかる状況に述べるとおり、本学の教育サービスの目的を達成するにふさわしい方針が定められている。

また、社会との連携・協力、社会サービスに関する基本方針と教育サービスの具体的な方針は、一部ではあるが、本学のホームページでも公開されるとともに、必要なものは県の広報にも掲載しており、計画や具体的な方針が社会に対し周知されている。

**観点B-1-2：** 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

#### 【観点到る状況】

観点B-1-1で述べた各方針に対して、次のような教育サービス活動を実施している。

「活動 1」生涯学習の一環、地域社会との連携強化の一助として、アンケート(B-1-2-1)により県民の希望に応えた「公開講座」開催する一方、奈良県内の10大学により結成された奈良県大学連合(B-1-2-2)に参加し、「なら講座」に講師を派遣する等により開催に協力している。更に、県教育委員会に協力し、夏期休業期間に於いて、本学の施設を

利用して、小学校から高校の教員を対象とした公開講座を開催している(B-1-2-3,B-1-2-4,B-1-2-5)。

「活動 2」国際交流の一環として、留学生等を受入、医学知識・医療技術の習得や医学教育についての教育をしている(B-1-2-6,B-1-2-7)。

「活動 3」若者の医学をはじめとする理系の学問分野への関心を高めるため、受験生や高校生を主な対象として、保護者、教員、一般も含め、本学でオープンキャンパスを行い、大学の雰囲気と医学教育・研究にふれる機会を提供し、医科大学への進学意欲を喚起している(B-1-2-8)。

「活動 4」県内の中学・高校の生徒に対し、医学や看護学の学問分野への関心を高めるため、本学で化学や生物学の実習を行わせたり、高校への出前講義を実施したり、高校主催のキャリアガイダンスに講師を派遣することにより、教育の支援を行っている。更に、高大連携事業として、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定された奈良女子大学附属中等教育学校との「SSH 事業」を行っている(B-1-2-9,B-1-2-10,B-1-2-11, B-1-2-12)。

「活動 5」その他、個々の状況に応じて広く社会の要請に対応している。

「活動 6」正規課程の学生以外を対象として、「研究生」「専修生」「博士研究員」等の制度についての適切な運用に努めている(B-1-2-13)。

#### 【分析結果とその根拠理由】

観点 B-1-2 で述べたとおり、観点 B-1-1 の「方針」のそれぞれについて、具体的な教育サービスを実施しており、計画に基づいた活動が適切に実施されていると言える。

しかし、外国からの留学生は、医学科及び看護学科の正規課程の学生としての扱いではなく、短期間(約 1 週間程度)の聴講生と同様な取り扱いである。現在では国際交流協定に基づく交換留学生のみであり、日本の医学・看護学の見学程度の交流でしかない。本学からの外国への留学は姉妹校への短期間の交換留学生のみである。

**観点 B-1-3 : 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。**

#### 【観点到係る状況】

活動の実施結果と実施担当者、参加者の感想・意見等を活動ごとに示すと次のとおりである。

「結果 1」生涯学習の一環、あるいは地域社会との連携強化に資するため、県民を対象としたアンケートの結果に基づいて実施している「公開講座」については、受講者も多く、アンケートの満足度も高い値(B-1-3-1)を示している。

「結果 2」平成 10 年度以降の長期留学生は 3 名である。人数は少ないが最長では 4 年を超えている者もいる。チェンマイ大学との学術交流協定に伴う研究者及び短期留学生の受入は協定に基づきほぼ定員どおり研究者は年 2 名程度、学生は年 4 名程度の受入を行っている。

「結果 3」夏休みに実施している「オープンキャンパス」では、全国から 400 名の高校生等の参加があり、本学の施設見学、学長講演、学科紹介、模擬ミニ講義、在校生からのメッセージ等多彩な催しを行っている(B-1-3-2)。

「結果 4」スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定された奈良女子大学附属中等教育学校との「SSH 事業」については、学長自ら基礎講座「生命について考える」で講師を務めた。講演会場は満席で、生徒達は終始熱心に講演を聴き、テーマへの関心の深さが伺えた。

「結果 5,6」正規課程の学生以外を対象とする制度として、「研究生」は平成 13 年度から 18 年度に約 40%増えているが、「専修生」は約 60%に減少、「博士研究員」は 13%の増加となった。「公開講座」平成 17 年度の 2 回で 1,400 人を集めた。これらの制度の運用は適切で、成果は上がっていると考えられる。

#### 【分析結果とその根拠理由】

多くの活動に於いて、参加者が十分に確保されており、活動状況や事後のアンケート結果にあるサービス享受者の感想、

意見から判断して活動の成果は上がっていると判断できる。

海外からの正規の留学生は、学部学生では受け入れていない。また、本学学生の海外への留学は、留年することを認識した上で学生は休学届けを出して実現している。外国との単位互換性については今後の課題である。

大学院生に関しては、現在受け入れることができるのでなんら問題はない。大学院生については、現在外国からの留学生を受け入れることができることになっている。実際、大学院全体でアジアから3名程度の留学生を受け入れてきた。更に多くの留学生を受け入れる意識改革が必要である。

#### 観点B-1-4： 改善のためのシステムがあり、機能しているか。

##### 【観点到に係る状況】

中高生を対象とする活動は高大連携事業の一環として学務委員会(B-1-4-1)、国際交流事業については国際交流委員会(B-1-4-2)が所掌し、社会人を対象とした「公開講座」等は総務課が各教育協議会に講師の推薦を依頼して実施しており、それぞれの事業に対してその計画・実施に関わる諸条項を検討する規程等が定められている。

「公開講座」「オープンキャンパス」のに於いては、参加者に対しアンケートを実施しており、その結果は集計され、活動内容を改善するための重要な資料となっている(B-1-4-3, B-1-4-4)。

##### 【分析結果とその根拠理由】

活動のそれぞれに対して所掌する委員会や利用者に対するアンケート等の管理・改善のための組織やシステムがあり、十分機能していると判断する。

#### (2) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

#### (3) 優れた点及び改善を要する点

##### 【優れた点】

高校生や受験生を対象とする「オープンキャンパス」、高校生を対象とする「SSH 事業」、生涯学習や地域連携・貢献の一環として県民からのアンケートに応えた形で開催されている「公開講座」、県内10大学により結成された大学連合の事業である「なら講座」等への協力、更に、県教育委員会に協力し、夏期休業期間中に小学校から高校の教員を対象に本学の施設で開催している公開講座等、医学や看護学をとおして社会の広範な対象を相手とした活動を実施しており、参加者数を確保しているだけでなく、学外の機関とも連携しながら極めて活発に行われており、参加者の満足度も高い。

##### 【改善を要する点】

医学や看護学に特化した単科大学として、大学の最終的な目的の一つが専門的な知識を必要とする「国家試験」に合格することによる医師や看護師を輩出し地域に貢献することにあることから、学部等の授業への学外からの受講は狭き門となっており、奈良県大学連合におけるインターンシップへの参加等必要な対象に対して門戸を広げる工夫も必要である。

#### (4) 選択的評価基準Bの自己評価の概要

本学は、「医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与すること」を大学の理念としている。そのため、教育サービスを地域社会や福祉への貢献のための重要な要素としてとらえ、本学の成果である医学や

医療の知識や情報を広く社会に対し開放し、地域社会の要請に応えることにより、社会的存在としての機能を果たしていることは当然のことである。

この目的に基づいて、教育サービスを正規課程の学生以外へ提供する上での方針は次のとおりである。

- (1) 本学が創出・蓄積した医学や看護学の知識・情報を地域社会はもとより、広く社会全体に開放する。
- (2) 国際交流の一環として留学生等に対して医学知識や医療技術の習得に役立つ教育を受ける機会を提供する。
- (3) 若者の医学や看護学をはじめとする理系の学問分野への関心を高める。
- (4) 地域の中学・高校生に対し医学や看護学の学問分野への関心を高める。
- (5) その他、広く社会の要請に対応する。
- (6) 正規課程の学生以外を対象とする「研究生」「専修生」「博士研究員」「委託学生」「聴講生」「外国人留学生」「科目等履修生」の制度や「公開講座」を適切に運用する。

これに対し、以下の教育サービス活動を行っている。

- (1) 県民を対象として医学・医療をテーマとする「公開講座」を開催するとともに、奈良県大学連合の一員として「なら講座」の開催等に協力する。
- (2) 留学生等を受け入れ、医学知識や医療技術の習得に役立つ教育を行う。
- (3) 受験生、高校生を対象として、医科大学への進学意欲を喚起するためオープンキャンパスを実施する。
- (4) 地域の中学・高校生を対象に医学をはじめとする理科系分野への関心を高めるため、化学や生物学実習の出前講義を行う。更に、高大連携事業としてスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定された奈良女子大学附属中等教育学校との「SSH 事業」を行う。
- (5) 個々の状況に応じて、広く社会の要請に応える。
- (6) 正規課程の学生以外を対象とする「研究生」「専修生」「博士研究員」等の増員を目指す。

教育サービスに係る具体的方針とそれに基づく活動は、主なものを大学のホームページに掲載するとともに、県の広報誌等にも掲載され、その目的や計画の周知を図っている。

また、その活動の多くに於いて参加者が確保されており、特に(1)(3)では参加者が多く、満足度も高い。その活動の実施について必要な事項は所掌する委員会等で検討・審議し決定されるとともに、アンケート等の改善システムも整備されており、実際的な改善に役立っている。

以上の状況から、教育サービスの目的を達成するにふさわしい方針が定められ、活動目的の周知も図られており、適切に実施されるとともに参加者も確保されている。

また、活動の成果も上がってきており、改善のためのシステムも機能している。

# 研究活動実績票

別紙様式 1-甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	奈良県立医科大学	学部・研究科等名	医学部
-----	----------	----------	-----

＜学部・研究科等の概要＞

本学の教員は、学長(1名)、寄附講座(2名)を含めると 322 名で、研究員は 163 名である。

本学の研究施設には、動物実験施設、組換え DNA 実験施設、ラジオアイソトープ(RI)実験施設、大学院中央研究施設を備えた総合研究施設があるのが特色である。総合研究施設には、生物パターン解析装置、DNA 解析装置、DNA シーケンサー、マイクロダイゼクションシステム、プロテインシーケンサー、生体分子相互作用測定装置、顕微鏡画像解析装置、共焦点レーザー顕微鏡、自動細胞解析装置、顕微鏡写真撮影装置などの最新の機器が設置されている。それぞれの実験施設には管理者(3 名の助教授または講師)が酒記属されていて、研究者は 1 日 24 時間利用することができる。

さらに、共同研究、文部科学者・厚生労働者の科学研究費の申請、企業との連携、知的財産戦略(発明)の推進、総合研究施設や学内 LAN の管理のために研究支援室(6名の職員)が設置されている。

《教員、研究員等数》 寄附講座 教授 1 名 助教授 1 名

教授	助教授	講師	助手
51	38	69	161

受託研究員	共同研究員	博士研究員		博士(博士後期) 課程学生
		JSPS	その他	
0	0	0	78	85

＜学部・研究科等の研究活動の実施状況＞

- 動物実験施設の利用登録者数は 44 講座の 675 名で、実験申請件数は年間約 700 件である。組換え DNA 実験施設の利用登録者数は 37 講座の 176 名である。RI 実験施設の利用登録者数は 39 講座の 221 名である。平成 5 年の開設から現在までに総合研究施設で数多くの研究がなされ、極めて質の高い多くの成果が得られている。
- 平成 11 年から平成 16 年までの教室・個人業績外から、大半の講座において学内外の大学や研究施設、および国外の研究施設との共同研究が活発に進められている。
- 平成 18 年度には、寄附講座「住居医学講座」が開設され、住居と医学(健康)について、包括的な研究を目指している。そのために、コアな研究と一般公募研究を併用し、全学的に研究を行うことにしている。

# 研究活動実績票

別紙様式 2

## 【研究成果の質】

大学名	奈良県立医科大学	学部・研究科等名	医学部
-----	----------	----------	-----

1. 大西武雄 (No. 7) は成果 1, 2 に関わるハイパーサーミアの研究で国際ハイパーサーミア腫瘍学会により The Tsutomu Sugahara Award を受賞している。
2. 大西武雄 (No. 7) は成果 3 に関わる宇宙の研究で宇宙生物科学学会により宇宙生物科学学会賞を受賞している。
3. 吉岡 章 (No. 170) は成果 1~3 に関わる血友病の研究で日本赤十字社より昭和天皇記念学術賞を受賞している。
4. 宮川幸子 (No. 190) は成果 3 に関わるエリテマトーデスの発症の研究で日本女医会により吉岡弥生賞を受賞している。
5. 長谷川正俊 (No. 259) は成果 1~3 に関わる放射線腫瘍学の研究で日本医学放射線学会により Silver Medal を受賞している。
6. 友田和秀 (No. 14) は成果 2, 3 に関わる「トーマス・マンと 1920 年代—魔の山とその周辺」の研究で日本独文学会により学会賞を受賞している。
7. 細井裕司 (No. 208) は成果 3 のように、体伝導聴覚機を開発し、特許第 3422417 号を平成 15 年に取得している。
8. 藤本 隆 (No. 250) は成果 3 のように、リウマチ性多発筋痛症抗体エピトープペプチド及びリウマチ性多発筋痛症の検査試薬を開発し、平成 16 年 10 月に特許を取得している。

# 研究活動実績票

別紙様式 3

## 【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	奈良県立医科大学	学部・研究科等名	医学部
-----	----------	----------	-----

1. 学長の吉田 修は厚生科学審議会専門委員を務めている。
2. 内科学第二講座の木村 弘は厚生労働省医薬品食品衛生審議会専門委員を務めている。
3. 小児科学の吉岡 章は中央薬事審議会臨時委員と薬品食品衛生審議会専門委員を務めている。
4. 地域健康医学の車谷典男は健康奈良 21 計画策定委員会委員, 奈良県における食品の安全・安心の確保のための基本方針策定検討委員会委員長, 奈良県公害審査会委員などを務めている。
5. 口腔外科学の桐田忠昭は奈良県社会保健福祉審議会委員を務めている。
6. 精神医学の岸本年史は奈良県精神保健福祉審議会委員を務めている。
7. 耳鼻咽喉科学の細井裕司は奈良県身体障害者審議会委員を務めている。
8. 整形外科の高倉義典は人工関節の表面を患者本人の骨で覆った「オーダーメイド関節」を患部に移植し, 関節症の症状を改善することに世界で初めて成功している(新聞等で報道)。
9. 内科学第一講座の斉藤能彦と輸血部の藤村吉博は共同で, 急性心筋梗塞の患者に白血球中の幹細胞を心臓の壊死した部分に移植し, 心筋梗塞を改善させている(新聞等で報道)。
10. 耳鼻咽喉科学の細井裕司は超音波による骨伝導を活用した骨導超音波補聴器を共同開発している。
11. 地域健康医学の車谷典男は大手機械メーカー「クボタ」旧神崎工場の半径 500 メートル以内に居住歴がある人で, アスベスト(石綿)によるとみられる癌「中皮腫」による死亡率が, 全国平均の 9.5 倍に達することを疫学調査で明らかにしている。
12. 生物学の大西武雄は, 最先端を進む日本の放射線影響の研究の成果をアジア全体で共有する目的で設立された「アジア放射線研究連合」の初代会長に選出されている。
13. 化学の大崎茂芳の著書「クモの糸のミステリー」と「クモはなぜ糸から落ちないのか」は高く評価されていて, 文部科学省検定済教科書に転載されている。

# 研究活動実績票

【研究成果一覧】

別紙様式①-乙

大学名	奈良県立医科大学	学部・研究科等名	医学部
-----	----------	----------	-----

No	所属	氏名	職名	専門分野	成果番号	研究成果
1	哲学	豊田 剛	教授	哲学 (カント実践哲学に関する研究)	1	カントの歴史哲学(12)宗教論Ⅲキリスト教の問題1)、一般教育紀要 HUMANITAS 第29号 2004, 1~21
					2	カントの歴史哲学(13)宗教論Ⅳキリスト教の問題2)、一般教育紀要 HUMANITAS 第30号 2005, 1~23
					3	カントの歴史哲学(14)宗教論Ⅴキリスト教の問題3)、一般教育紀要 HUMANITAS 第31号 2006, 1~24
2	統計・情報学	林田 秀宜	助教授	情報学(統計情報学)	1	
					2	
					3	
3	物理学	平井國友	教授	物理学(物性基礎)	1	<u>平井國友</u> , Spin-Density-Wave Order and Interlayer Magnetic Coupling in Fe/Cr Superlattices, J. Phys. Soc. Japan, 70, 2001, 841-852.
					2	<u>平井國友</u> , Spontaneous Spin-Density-Wave Order in Cr Superlattices, Phys. Rev. B, 66, 2002, 132406 1-4.
					3	高橋学, 五十嵐潤一, <u>平井國友</u> , Resonant Magnetic X-Ray Scattering Spectra in Spin-Density-Wave State of Cr from ab initio Band Structure Calculations, Phys. Rev. B, 70, 2004, 174441 1-9.
4	物理学	藤本雅文	講師	物理学(数理物理)	1	<u>藤本雅文</u> , Anisotropic interfacial tension and the equilibrium crystal shape of kagome-lattice eight-vertex model, J. Phys. A, 35, 2002, 1517-1531.
					2	<u>藤本雅文</u> , Reply to 'Comment on "Equilibrium crystal shape of the Potts model at the first-order

					transition point””, J. Phys. A, 35, 2002, 7553–7557.
					3 藤本雅文, Space Groups and Galois Coverings in Two-Dimensional Lattice Models, 22nd International Conference on Statistical Physics, Bangalore, July 2004..
5	化学	大崎茂芳	教授	材料化学(生体高分子学の物理化学的研究)	1 Shigeyoshi Osaki and Tomofumi Ohashi, Orientational distribution of collagen fibers in cobra skin, Cell. Mol. Biol.,50, 2004, 559–564.
					2 Shigeyoshi Osaki, Physico-chemical properties of spider silk-An approach to nanostructure, in Macromolecular nanostructure materials, London, edited by N. Ueyama and A. Harada, KODANSHYA Springer, 2004, p.297–320.
					3 Shigeyoshi Osaki, Polym. J., Ultraviolet rays mechanically strengthen spider’s silks, 36, 2004, 657–660.
6	化学	山本恵三	講師	構造生物化学(タンパク質の構造と機能の相関に関する研究)	1 Keizo Yamamoto, Akifumi Nakayama, Yuka Yamamoto, Shiro Tabata Val216 decides the substrate specificity of $\alpha$ -glucosidase in <i>Saccharomyces cerevisiae</i> Eur. J. Biochem <b>271</b> (2004) 3414–3420
					2 Shigeyoshi Osaki, Keizo Yamamoto, Atsushi Kajiwara, Mariko Murata Evaluation of the Resistance of the spider Silk to Ultraviolet Irradiation Polymer J. <b>36</b> (2004) 623–627
					3 Akifumi Nakayama, Keizo Yamamoto, Shiro Tabata The Amino Acid Residues Involved in Catalysis of the Yeast Debranching Enzyme J. Appl. Glycosci. <b>50</b> (2003) 299
7	化学	井手武	助手	免疫学(花粉症の基礎と臨床研究をコアに花粉症・アレルギー学全般、そしてアレルギー回避に関する研究)	1 Okada A., Okada T., Ide T., Itho M., Tanaka K., Takaiwa F., Toriyama K. : Accumulation of Japanese cedar allergen, Cry j 1, in the protein body of transgenic rice seeds using the promoter and signal sequence of glutelin GluB-1 gene ; Molecular Breeding 12, 2003, 61–70

					2	Goto Y.,Kondo T.,Ide T.,Yasueda H.,Kuramoto N.,and Yamamoto K. : Cry j 1 isoforms derived from Cryptomeria japonica trees have different binding properties to monoclonal antibodies ; Clin. Exp. Allergy 34, 2004, 1754-1761
					3	斎藤洋三, 井手武, 村山真司. 新版・花粉症の科学. B5版. 京都. 化学同人. 2006. 181頁
8	生物学	大西武雄	教授	放射線生物学、分子環境生物学、	1	Takahashi, A., Ohnishi, K., Asakawa, I., Kondo, N., Nakagawa, H., Yonezawa, M., Tachibana, A., Matsumoto, H., <u>Ohnishi, T.</u> Radiation response of apoptosis in C57BL/6N mouse spleen after whole-body irradiation. International Journal of Radiation Biology. 77, 2001, 939-945.
					2	Harima, Y., Sawada, S., Miyazaki, Y., Kin, K., Ishihara, H., Imamura, M., Sougawa, M., Shikita, N., <u>Ohnishi, T.</u> Expression of Ku80 in cervical cancer correlates with response to radiotherapy and survival. Am. J. Clin. Oncol. 26, 2003, e80-e85.
					3	Takahashi, A., <u>Ohnishi, T.</u> The significance of the study about the biological effects of solar ultraviolet radiation using the Exposed Facility on the International Space Station. Biol. Sci. Space. 18, 2004, 255-260.
9	生物学	大西健	助教授	放射線生物学、動物生理学	1	<u>Ohnishi, K.</u> , Ohnishi, T. Heat-induced p53-dependent signal transduction and its role in hyperthermic cancer therapy. Int. J. Hyperthermia. 17, 2001, 415-427.
					2	<u>Ohnishi, K.</u> , Ota I., Takahashi A., Yane, K. 他1名. Transfection of mutant p53 gene depresses X-ray- or CDDP-induced apoptosis in a human squamous cell carcinoma of the head and neck. Apoptosis. 7, 2002, 367-372.
					3	<u>Ohnishi, K.</u> , Scuric, Z., Schiestl, R.H., Okamoto, N. 他2名. siRNA targeting NBS1 and XIAP increases radiation sensitivity of human cancer cells independent of p53 status. Radiat Res, in press, 2006.
10	生物学	高橋昭久	講師	放射線治療学(放射線生物学)	1	<u>Takahashi, A.</u> , H. Matsumoto, K. Nagayama, M. Kitano, 他8名. Evidence for the involvement of double-strand breaks in heat-induced cell killing. Cancer Res. 64, 2004, 8839-8845.
					2	<u>Takahashi, A.</u> , Matsumoto H., Furusawa Y., Ohnishi, K. 他2名. Apoptosis induced by high-LET radiation is not affected by cellular p53 gene status. Int. J. Radiat. Biol. 81, 2005, 581-586.
					3	<u>Takahashi, A.</u> , Shibata N., Nishikawa, A., Ohnishi, K., 他2名. UV-B light induces an adaptive response to UV-C exposure

						via photoreactivation activity in <i>Euglena gracilis</i> . Photochem. Photobiol. Sci. 5, 2006, 467 - 471.
11	数学	奥野 義記	助手	数学	1	
					2	
					3	
12	英語	澤浦 博	教授	文学(英文学) 言語学	1	澤浦博、丸橋良雄、Cary DiPietro他5名、『英国演劇論叢』、A5版、京都、京大出版センター、2003年、(総頁数)160
					2	澤浦博、『田舎女房』におけるホーナーの役割、HUMANITAS、第28号、2003年、62-72
					3	「BBC NEWS ONLINE Medical notesに見る医学英語の活用例(1)」、HUMANITAS、第31号、2006年、印刷中
13	英語	吉田 泰彦	助教授	文学(イギリス ロマン派文学)	1	吉田泰彦、「鉢植えのバジルは植物か—『イザベラ』の一解釈—」、HUMANITAS第28号、2003年、pp.73-83.
					2	吉田泰彦、「『レイミア』—文化に対抗する力としての想像力—」、HUMANITAS第31号、2006年印刷中、pp.25-38
					3	吉田泰彦、宮川清司、松阪仁司、他15名、『<異界>を創造する—英文学におけるジャンルの変奏—』(阪大英文学叢書3)、東京、英宝社、2006年印刷中.
14	ドイツ語	友田和秀	助教授	文学(ドイツ文学に関する研究)	1	監修:前田敬作、編集:山本雅昭、岸孝信、服部尚己、友田和秀、松村朋彦『フロイデ独和辞典』、東京、白水社、2003年、全1917頁
					2	友田和秀:『『魔の山』とその周辺—トーマス・マンと一九二〇年代』京都大学博士学位論文、2004年
					3	友田和秀:『トーマス・マンと一九二〇年代—『魔の山』とその周辺—』、京都、人文書院、2004年、286頁
15	保健体育	石指宏通	講師	健康・スポーツ 科学(スポーツ科学)	1	Matsumoto M, <u>Ishizashi H.</u> 他5人 Platelets treated with ticlopidine are less reactive to unusually large VWF multimers than are those treated with aspirin under high shear stress. Pathophys Haemost Thromb 35: 35-40, 2005.
					2	Matsumoto M, <u>Ishizashi H.</u> 他16名. Molecular characterization of ADAMTS13 gene mutations in Japanese patients with Upshaw-Schulman syndrome. Blood 103:1305-1310, 2004.
					3	Matsumoto M, <u>Ishizashi H.</u> 他3人 The Japanese experience with TTP/HUS. Semin Hematol 41: 68-74, 2004.

16	第一解剖学	東野 義之	教授	基礎医学(解剖学一般、組織の成長と加齢変化)	1	Tohno, Y.; Tohno, S.; Mahakkanukrauh, P.: 他6名. Earlier accumulation of calcium, phosphorus, and magnesium in the coronary artery in comparison with the ascending aorta, aortic valve, and mitral valve. Biol. Trace Element Res. 印刷中
					2	Menetti, F.; Tohno, S.; Tohno, Y.: 他7名. Age-dependent decreases of calcium, phosphorus, sulfur, and zinc in the cardiac valves of monkeys. Biol. Trace Element Res. 106(3). 2005, 231-245.
					3	東野義之、東野勢津子. 人体発生学. 1版. 東京. 南山堂. 2003. 209-231.
17	第一解剖学	東野勢津子	講師	基礎医学(解剖学一般、組織の成長と加齢変化)	1	Tohno, S.; Tohno, Y.; Hayashi, M.: 他6名. Comparison of calcium accumulation between the arteries of human and monkey. Biol. Trace Element Res. 106(3). 2005, 211-217.
					2	Tohno, S.; Tohno, Y.; Hayashi, M.: 他4名. Comparison of mineral contents between the arteries in upper and lower limbs of Japanese monkeys. Biol. Trace Element Res. 95(2). 2003, 173-184.
					3	東野義之、東野勢津子. 人体発生学. 1版. 東京. 南山堂. 2003. 209-231.
18	第一解剖学	秦野 修	講師	基礎医学(副腎、生殖腺の発生分化の分子機構)	1	秦野 修: 基礎生化学実験法(日本生化学会編、東京化学同人(東京))第3巻 タンパク質 第5章 細胞内・組織上での検出. 2001. 32-38.
					2	Nakatomi H, Kuriu T, Okabe S, Yamamoto S, <u>Hatano O</u> , Kawahara N, Takamura A, Kirino T, Nakafuku M.: Regeneration of hippocampal pyramidal neurons after ischemic brain injury by recruitment of endogenous neural progenitors. Cell. 2002; 110(4):429-441
					3	Min L, Takemori H, Nonaka Y, Katoh Y, Doi J, Horike N, <u>Hatano O</u> , Raza FS, Vinson GP, Okamoto M.: Characterization of the adrenal-specific antigen IZA (inner zone antigen) and its role in the steroidogenesis. Mol Cell Endocrinol. 2004; 215(1-2):143-148.
19	第一解剖学	東 超	講師	基礎医学(組織・器官の加齢変化に関する)	1	<u>Azuma C</u> , Tohno S, Mahakkanukrauh P, Tohno Y.: 他7名. Age-dependent increases of calcium and phosphorus in human epiglottal cartilage. Biol.

				る研究)		Trace Element Res. 105. 2005, 59-70.
					2	<u>Azuma C</u> , Tohno Y, Tohno S, Moriwake Y.: 他3名. Compositional changes of the muscular layers of the stomach with aging. Biol. Trace Element Res. 101. 2004, 133-145.
					3	<u>Azuma C</u> , Tohno S, Mahakkanukrauh P, Tohno Y.: Different accumulation of elements in the rami of the coronary arteries of Thai. Biol. Trace Element Res. 95. 2003, 211-218.
20	第一解剖学	内海 眞子	助手	基礎医学(組織の元素動態に関する研究)	1	Sakata S, Shimizu S, Utsumi M, et al., Inverse relationship between serum erythropoietin and blood concentration in Kathmandu tricycle taxi drivers. International Archives of Occupational Environmental Health (in press).
					2	Utsumi M, Azuma C, Tohno S, et al., Increases of calcium and magnesium and decrease of iron human posterior longitudinal ligaments of the cervical spine with aging. Biological Trace Element Research, 103(3), 2005, 217-228.
					3	Utsumi M, Tohno S, Tohno Y, et al., Age-related changes of elements with their relationships in human cranial and spinal nerves. Biological Trace Element Research, 93 (3), 2004, 229-252.
21	第二解剖学	和中明生	教授	神経科学(神経発生、神経損傷の分子メカニズム)	1	Mori T, Yuxing Z, Takaki H, Takeuchi M, Iseki K, Hagino S, Kitanaka J, Takemura M, Misawa H, Ikawa M, Okabe M, <u>Wanaka A</u> . The LIM homeobox gene, L3/Lhx8, is necessary for proper development of basal forebrain cholinergic neurons. Eur J Neurosci. 2004 Jun;19(12):3129-41.
					2	Uemura M, Tatsumi K, Matsumoto M, Fujimoto M, Matsuyama T, Ishikawa M, Iwamoto TA, Mori T, <u>Wanaka A</u> , Fukui H, Fujimura Y. Localization of ADAMTS13 to the stellate cells of human liver. Blood. 2005 Aug 1;106(3):922-4.
					3	Murakami T, Kondo S, Ogata M, Kanemoto S, Saito A, <u>Wanaka A</u> , Imaizumi K. Cleavage of the membrane-bound transcription factor OASIS in response to endoplasmic reticulum stress. J Neurochem. 2006 Feb;96(4):1090-100.
22	第二解剖学	橋本 研二	講師	解剖学一般	1	橋本研二・H1ヒストン特異的結合蛋白質の酵素活性・第111回日本解剖学会総会・北里大学・平成18年3月30日
					2	

					3	
23	第二解剖学	辰巳晃子	助手	神経科学(神経再生とグリア)	1	S.Kondo, T.Murakami, <u>K.Tatsumi</u> , M.Ogata, S.Kanemoto, K.Otori, K.Iseki, A. Wanaka and K. Imaizumi : OASIS, a CREB/ATF-family member, modulates UPR signalling in astrocyte. <i>Nature cell Biol.</i> , Vol. 7, No. 2, 2005, p186-194
					2	<u>K.Tatsumi</u> , S.Haga, H.Matsuyoshi, M. Inoue, T.Manabe, M.Makinodan and A.Wanaka : Characterization of cells with proliferative activity after a brain injury, <i>Neurochem. Int.</i> Vol.46, Issue 5, 2005, p381-389
					3	T.Manabe, <u>K.Tatsumi</u> , M.Inoue, H.Matuyoshi, M.Makinodan, S.Yokoyama and A.Wanaka : L3/Lhx8 is involved in the determination of cholinergic or GABAergic cell fate. <i>J. Neurochem.</i> vol.94, 2005, p723-730
24	第二解剖学	眞部孝幸	助手	神経科学(神経再生、脳発達、神経分化、神経変性疾患)	1	<u>Manabe T.</u> , Tatsumi K., Inoue M., Matsuyoshi H., Yokoyama S. and Wanaka A. (2005).L3/Lhx8: an important selector gene determining the GABAergic or Cholinergic cell fate. <i>J. Neurochem.</i> 94, 723-30.
					2	<u>Manabe T.</u> , Nishikawa A., Katayama T., Kudo T., Matsuzaki S., Yanagita T., Okuda H. Bando Y. and Tohyama M. (2004). Novel function of PS2V: change in conformation of tau proteins. <i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , <b>318</b> , 435-438. [The first two authors contributed equally to this manuscript]
					3	<u>Manabe T.</u> , Katayama T., Sato N., Gomi F., Hitomi J., Yanagita T., Kudo T., Honda A., Mori Y., Matsuzaki S., Imaizumi K., Mayeda A. and Tohyama M. (2003). Induced HMGA1a Expression Causes Aberrant Splicing of <i>PS2</i> Pre-mRNA in SAD. <i>Cell Death Differ.</i> , <b>10</b> , 698-708.
25	第一生理学	山下勝幸	教授	基礎医学(神経系のイオンチャネル受容体に関する研究)	1	Nakagawa I, Ogawa Y, Noriyama Y, Nakase H, Yamashita M, Sakaki T: <i>Exp. Neurol.</i> 183 (2003) 180-187
					2	Sugioka M, Yamashita M : <i>Neurosci. Res.</i> 45 (2003) 447-458
					3	Noriyama Y, Ogawa Y, Yoshino H, Yamashita M, Kishimoto T: <i>Neuroscience</i> 138 (2006) 475-485
26	第一生理学	豊田ふみよ	講師	基礎医学(動物生理)	1	Toyoda, F., Hasunuma, I., Yamamoto, K., Yamashita, M. and Kikuyama : <i>S. Gen. Comp. Endocrinol.</i> 141 (2005) 172-177

					2	Toyoda, F., Yamamoto, K., Iwata, T., Hasunuma, I., Cardinali, M., Mosconi, G., Polzonetti-Magni, A.M. and Kikuyama, S : Peptide pheromones in newts. Peptides 25 (2004) 1531-1536.
					3	Toyoda, F., Yamamoto, K., Ito, M., Tanaka, S., Yamashita, M. and Kikuyama S : Cynops pyrrhogaster. Horm. Behav. 44 (2005) 346-353
27	第一生理学	和田佳郎	講師	神経科学(前庭生理学・スポーツ生理学に関する研究)	1	和田佳郎 : VISION 17 (2005) 23-24
					2	Kodaka Y, Wada Y, Kawano K.: Exp Brain Res 148 (2003) 541-544
					3	Wada Y, Kodaka Y, Kawano K.: Ann NY Acad Sci. 956 (2002) 561-563
28	第一生理学	小川陽一	助手	神経科学(海馬神経回路に関する研究)	1	Nakagawa I, Ogawa Y, Noriyama Y, Nakase H, Yamashita M, Sakaki T: Exp. Neurol.183 (2003) 180-187
					2	Noriyama Y, Ogawa Y, Yoshino H, Yamashita M, Kishimoto T: NeuroscienceNeuroscience 138 (2006) 475-485
					3	Ohnishi K, Ogawa Y, Takahashi A, Yamashita M, Ohnishi T : Acta Zoologica (Stockholm) 85 (2004) 201-209
29	第一生理学	杉岡 美保	助手	基礎医学(細胞生理学)	1	Sugioka, M. & Yamashita, M : Calcium signaling to nucleus via store-operated system during cell cycle in retinal neuroepithelium. Neuroscience Research 45 (2003) 447-458.
					2	杉岡美保 : ニューロンの細胞内カルシウムイオン濃度調節機構. 神経眼科 19 (2002) 440-444.
					3	杉岡美保・山下勝幸 : 網膜発生過程におけるカルシウム応答性の変化. Molecular Medicine 39 別冊「網膜・視神経の発生と再生」(2002) 73-79.
30	第二生理学	高木 都	教授	基礎医学(消化器と循環器の自律神経性制御に関する研究)	1	Takaki M. Review Article: Gut pacemaker cells: the interstitial cells of cajal (ICC). J Smooth Muscle Res. 39 (5), 2003, 137-161.

					2	<u>Takaki, M.</u> ; Nakayama, S.; Misawa, H.; 他2名. In vitro formation of enteric neural network structure in a gut-like organ differentiated from mouse embryonic stem cells. Stem Cells. 2006, (in press).
					3	<u>Takaki M.</u> Review: Left ventricular mechanoenergetics in small animals. Jpn J Physiol 54 (3), 2004, 175-207.
31	第二生理学	清水 壽一郎	助教授	基礎医学(心臓・循環生理に関する研究)	1	<u>Shimizu, J.</u> ; Todaka, K.; Burkhoff, D.; Load dependence of ventricular performance explained by model of calcium-myofilament interactions. Am J Physiol Heart Circ Physiol. 282(3), 2002, H1081-91.
					2	Yagi, N.; <u>Shimizu, J.</u> ; Mohri, S.; Araki, J.; 他11名. X-ray diffraction from a left ventricular wall of rat heart. Biophys J. 86(4), 2004, 2286-94.
					3	Mohri, S.; <u>Shimizu, J.</u> ; Iribe, G.; Ito, H.; 他5名. Normal distribution of ventricular pressure-volume area of arrhythmic beats under atrial fibrillation in canine heart. Am J Physiol Heart Circ Physiol. 288(4), 2005, H1740-6.
32	第二生理学	坂田 進	講師	基礎医学(心臓生理及び血液生理に関する研究)	1	Ohga, Y.; <u>Sakata, S.</u> ; Takenaka, C.; Abe, T.; 他3名. Cardiac dysfunction in terms of left ventricular mechanical work and energetics in hypothyroid rats. Am J Physiol 283, 2002, H631-H641.
					2	Nakajima-Takenaka, C.; <u>Sakata, S.</u> ; Kato, S.; Ohga, Y.; 他3名. Detrimental effects after dobutamine infusion on rat left ventricular function: mechanical work and energetics. Exp Physiol 90, 2005, 635-644.
					3	<u>Sakata, S.</u> ; Lebeche, D.; Sakata, Y.; Sakata, N.; 他7名. Mechanical and metabolic rescue in a type II diabetes model of cardiomyopathy by targeted gene transfer. Molecular Therapy, 13, 2006, 987-996.
33	第二生理学	中島(竹中) 千香子	助手	基礎医学(循環生理に関する研究)	1	<u>Nakajima-Takenaka, C.</u> ; Sakata, S.; Kato, S.; Ohga, Y.; 他5名. Detrimental effects after dobutamine infusion on rat left ventricular function: mechanical work and energetics. Experimental Physiology. 90(4), 2005, 635-644.

					2	Kobayashi, S.; Yoshikawa, Y.; Sakata, S.; <u>Takenaka, C.</u> ; 他5名. Left ventricular mechanoenergetics after hyperpolarized cardioplegic arrest by nicorandil and after depolarized cardioplegic arrest by KCl. Am J Physiol: Heart & Circ Physiol. 287(3), 2004, H1072-1080.
					3	Ohga, Y.; Sakata, S.; <u>Takenaka, C.</u> ; Abe, T.; 他3名. Cardiac dysfunction in terms of left ventricular mechanical work and energetics in hypothyroid rats. Am J Physiol: Heart & Circ Physiol. 283(2), 2002, H631-H641.
34	生化学	田中康春	助教授	基礎医学(細胞死の調節蛋白質に関する研究)	1	<u>Tanaka Y</u> , Ota K, Kameoka M, Itaya A, Yoshihara K. Up-regulation of NF-KappaB-responsive gene expression by DeltaNp73alpha in p53 null cells. Exp Cell Res. 312 : 1254-1264, 2006
					2	<u>Tanaka Y</u> , Kameoka M, Itaya A, Ota K, Yoshihara K. Regulation of HSF-1-responsive gene expression by N-terminal truncated form of p73. Biochem Biophys Res Commun. 317 : 865-872, 2004
					3	Kameoka M, Nukuzuma S, Itaya A, <u>Tanaka Y</u> , Ota K, Ikuta K, Yoshihara K. RNA interference directed against poly(ADP-ribose)polymerase 1 efficiently suppresses human immunodeficiency virus type 1 replication in human cells. J. Virol. 78: 8931-8934, 2004
35	生化学	広中安佐子	学内講師	基礎医学(細胞死の調節蛋白質に関する研究)	1	<u>Itaya-Hironaka A</u> . Procaspase and apoptotic protease-activating factor-1(Apaf-1)in bovine thymus, brain and liver : Partial purification and tissue distribution. J Nara Med Assoc 53: 19-35, 2002
					2	Kameoka M, Nukuzuma S, <u>Itaya A</u> , Tanaka Y, Ota K, Inada Y, Ikuta K, Yoshihara K. Poly(ADP-ribose)polymerase-1 is required for integration of the human immunodeficiency virus type 1 genome near centromeric alphoid DNA in human and murine cells. Biochem Biophys Res Commun. 344: 412-417, 2005

					3	Kameoka M, Nukuzuma S, <u>Itaya A</u> , Tanaka Y, Ota K, Ikuta K, Yoshihara K. RNA interference directed against Poly(ADP-ribose)polymerase 1 efficiently suppresses human immunodeficiency virus type 1 replication in human cells. J Virol. 78: 8931-8934, 2004
36	生化学	太田克矢	助手	基礎医学(細胞死の調節蛋白質に関する研究)	1	<u>Ota K</u> , Yakovlev AG, Itaya A, Kameoka M, Tanaka Y, Yoshihara K. Alteration of apoptotic protease-activating factor-1(Apaf-1)-dependent apoptotic pathway during development of rat brain and liver. J Biochem 131: 131-135, 2002
					2	Yakovlev AG, <u>Ota k</u> , Wang G, Movsesyan V, Bao W-L, Yoshihara K, Faden AI. Differential expression of apoptotic protease-activation factor-1 and caspase-3 genes and susceptibility to apoptosis during brain development and after traumatic brain injury. J Neurosci 21 : 7439-7446, 2001
					3	<u>Ota k</u> , Kmaeoka M, Tanaka y, Itaya A, Yoshihara K. Expression of histone acetyltransferase was down-regulated in poly(ADP-ribose)polymerase-1-deficient murine cells. Biochem Biophys Res Commun 310: 312-317, 2003
37	病理病態学	小西 登	教授	基礎医学(泌尿器系腫瘍, 脳腫瘍に関する研究)	1	<u>Konishi, N.</u> , Nakamura, M., Kishi, M., 他3名. Heterogeneous methylation and deletion patterns of the <i>INK4a/ARF</i> locus within prostate carcinomas. Am J Pathol 160(4), 2002. 1207-1214.
					2	<u>Konishi, N.</u> , Tsujikawa, K., Yamamoto, H., 他6名. Overexpression of leukocyte common antigen (LAR) P-subunit in thyroid carcinomas. Br J Cancer 88, 2003.1223-1228.
					3	<u>Konishi, N.</u> , Nakamura, M., Ishida, E., 他5名. High expression of a new marker PCA-1 in human prostate carcinoma. Clin Cancer Res 11(14), 2005. 5090-5097.
38	病理病態学	中村光利	講師	基礎医学(脳腫瘍に関する研究)	1	<u>Nakamura, M.</u> , Watanabe, T., Klangby, U., 他5名. <i>p14<sup>ARF</sup></i> deletion and methylation in genetic pathways to glioblastomas. Brain Pathol 11, 2001. 159-168.

					2	Nakamura, M., Kishi, M., Sakaki, T., 他5名. Novel tumor suppressor loci on 6q22-23 in primary central nervous system lymphomas. Cancer Res 63, 2003. 737-741.
					3	Nakamura, M., Ishida, E., Shimada, K., 他4名. Frequent LOH on 22q12.3 and <i>TIMP-3</i> inactivation occur in the progression to secondary glioblastomas. Lab Invest 85, 2005. 165-175.
39	病理病態学	島田啓司	講師	基礎医学 (泌尿器系腫瘍に関する研究)	1	Shimada, K., Nakamura, M., Ishida, E., 他2名. Roles of p38- and c-jun NH <sub>2</sub> -terminal kinase-mediated pathways in 2-methoxyestradiol-induced p53 induction and apoptosis. Carcinogenesis 24(6), 2003.1067-1075.
					2	Shimada, K., Nakamura, M., Ishida, E., 他3名. The molecular mechanism of sensitization to Fas-mediated apoptosis by 2-methoxyestradiol in PC3 prostate cancer cells. Mol Carcinog 39, 2004.1-9.
					3	Shimada, K., Matsuyoshi, S., Nakamura, M., 他2名. Phosphorylation status of Fas-associated death domain-containing protein (FADD) is associated with prostate cancer progression. J Pathol 206, 2005. 423-432.
40	病理病態学	石田英和	助手	基礎医学 (泌尿器系腫瘍に関する研究)	1	Ishida, E., Nakamura, M., Shimada, K., 他3名. Distribution and secretory pathways of prostate specific antigen, a1-antichymotrypsin and prostate secretory granules in prostate cancers. Pathol Int 53, 2003. 415-421.
					2	Ishida, E., Nakamura, M., Shimada, K., 他5名. Autopsy case of prostate cancer with multiple endocrine neoplasia 2A. Pathol Int 54, 2004. 918-923.
					3	Ishida, E., Nakamura, M., Ikuta, M., 他4名. Promotor hypermethylation of <i>p14<sup>ARF</sup></i> is a key alteration for progression of oral squamous cell carcinoma. Oral Oncol 41, 2005. 614-622.
41	寄生虫学	石坂重昭	教授	基礎医学(胚性幹細胞工学技術を用いた研究)	1	Ishizaka S, Shiroy A, Kanda S, Yoshikawa M, Tsujinoue H, Kuriyama S, Hasuma T, Nakatani K, Takahashi K. Development of hepatocytes from ES cells after

					transfection with the HNF-3beta gene. FASEB J. 16(11) 2002, 1444-6.
					2 <u>Ishizaka S</u> , Ouji Y, Yoshikawa M, Nakatani K Nakatani K, Embryonic stem cell protocols, Second Edition, Totowa, NJ, USA, Humana Press Inc., 2006, 総456頁
					3 <u>石坂重昭</u> 唾液腺由来パロチンおよびパロチン合成ペプチド によるWnt産生と抗腫瘍作用 日本唾液腺学 会 東京 2004年12月
42	寄生虫学	吉川正英	助教授	基礎医学(細胞分化)	1 Sugie Y, <u>Yoshikawa M</u> , Ouji Y, Saito K, 他6名 Photoreceptor cells from mouse ES cells by co- culture with chick embryonic retina. Biochem Biophys Res Commun. 332, 2005, 241-7.
					2 Nishimura F, <u>Yoshikawa M</u> , Kanda S, Nonaka M, Yokota H, Shiroy A, Nakase H, Hirabayashi H, Ouji Y, Birumachi J, Ishizaka S, Sakaki T. Potential use of embryonic stem cells for the treatment of mouse parkinsonian models: improved behavior by transplantation of in vitro differentiated dopaminergic neurons from embryonic stem cells. Stem Cells. 21(2) 2003, 171-80.
					3 Shiroy A, <u>Yoshikawa M</u> , Yokota H, Fukui H, Ishizaka S, Tatsumi K, Takahashi Y. Identification of insulin-producing cells derived from embryonic stem cells by zinc-chelating dithizone. Stem Cells. 20(4), 2002, 284-92.
43	寄生虫学	王寺幸輝	助手	外科系臨床医学(皮膚および 発毛の再生医学)	1 <u>Ouji Y</u> , Yoshiakwa M, Siroi A, Ishizaka S. Wnt-10b promotes differentiation of skin epithelial cells in vitro. Biochem Biophys Res Commun. 342, 2006, 28-35.

					2 <u>Ouji Y</u> , Yoshiakwa M, Siroi A, Ishizaka S. Wnt-10b secreted from lymphocytes promotes differentiation of skin epithelial cells. Biochem Biophys Res Commun. 342, 2006, 1063-1069.
					3 <u>Ouji Y</u> , Yoshiakwa M, Siroi A, Ishizaka S. Promotion of hair follicle development and trichogenesis by Wnt-10b in cultured embryonic skin and in reconstituted skin. Biochem Biophys Res Commun. 2006, in press.
44	寄生虫学	林 謹子	助手	神経科学(神経系の発生・分化)	1 <u>Hayashi N</u> , Mizusaki J.M., Kamei K, Harada S, and Miyata S. Chondroitin sulfate proteoglycan phosphacan associates with parallel fibers and modulates axonal extension and fasciculation of cerebellar granule cells. Molecular and Cellular Neuroscience 30, 2005, 364-377.
					2 <u>Hayashi N</u> , Oohira A, and Miyata S. Synaptic localization of receptor-type protein tyrosine phosphatase $\xi / \beta$ . Brain Research 1050, 2005, 163-169.
					3 <u>Hayashi N</u> , Miyata S, Yamada M, Kamei K, and Oohira A. Neuronal expression of the chondroitin sulfate proteoglycans receptor-type protein-tyrosine phosphatase $\beta$ and phosphacan Neuroscience 131, 2005, 331-348.
45	細菌学	喜多英二	教授	基礎医学	1 "Okayama A, Mikasa K, Matsui N, Higashi N, Miyamoto M, Kita E. An interventional approach to block brain damage caused by Shiga toxin-producing Escherichia coli infection, by use of a combination of phosphodiesterase inhibitors. J Infect Dis. 15;190(12):2129-36. 2004
					2 Nishikawa K, Matsuoka K, Kita E, Okabe N, Mizuguchi M, Hino K, Miyazawa S, Yamasaki C, Aoki J, Takashima S, Yamakawa Y, Nishijima M, Terunuma D, Kuzuhara H, Natori Y. A therapeutic agent with oriented carbohydrates for treatment of infections by Shiga toxin-producing Escherichia coli O157:H7. PNAS 99(11):7669-74. 2002

					3	Emoto M, Miyamoto M, Yoshizawa I, Emoto Y, Schaible UE, Kita E, Kaufmann SH. Critical role of NK cells rather than V alpha 14(+)NKT cells in lipopolysaccharide-induced lethal shock in mice. J Immunol. 1;169(3):1426-32. 2002
46	細菌学	勝井則明	講師	細菌学 ネブライザーの 微生物汚染に 関する研究	1	勝井則明、真鍋美智子、喜多英二. ネブライザーの微生物汚染対策. 耳鼻咽喉科展望. 48(捕1):3-8. 2005
					2	勝井則明. エビデンスに基づいたネブライザーおよび加湿器の院内感染対策. 奈良医学雑誌. 55:133-150. 2004
					3	勝井則明、加藤信行、喜多英二. 院内感染におけるレジオネラ対策の現状. 防菌防黴. 31:323-329. 2003
47	細菌学	水野(西川)文子	助手	基礎医学	1	Harada H, Nishikawa F, Higashi N, Kita E. Development of a mucosal complex vaccine against oral Salmonella infection in mice. Microbiol. Immunol. 46(12): 891-905. 2002.
					2	西川文子、喜多英二. Salmonella typhimuriumポリゾーム鞭毛混合ワクチンの経口免疫効果. 日本2005年4月4～6日. 日本細菌学会. 東京. 2005年4月4～6日
					3	西川文子、喜多英二. Salmonella typhimuriumポリゾーム鞭毛混合ワクチンの経口免疫効果. 日本免疫学会. 横浜. 2005年12月13～15日
48	薬理学	吉栖正典	教授	基礎医学(循環薬理学に関する研究)	1	Yoshizumi, M.; Tsuchiya, K.; Kirima, K.; Kyaw, M.; 他2名. Quercetin inhibits Shc- and phosphatidylinositol 3-kinase-mediated c-Jun N-terminal kinase activation by angiotensin II in cultured rat aortic smooth muscle cells. Mol Pharmacol. 60, 2001, 656-665.
					2	Suzaki, Y.; Yoshizumi, M.; Kagami, S.; Koyama, A.H.; 他5名. Hydrogen Peroxide Stimulates c-Src-Mediated Big Mitogen-Activated Protein Kinase 1 (BMK1) and the MEF2C Signaling Pathway in PC12 Cells. J Biol Chem. 277, 2002, 9614-9621.
					3	吉栖正典、土屋浩一郎、玉置俊晃. 食品成分のはたらき. 初版. 東京. 朝倉書店. 2004年. 総168頁
49	薬理学	佐藤広康	講師	基礎医学(心臓器細胞薬理学、イオンチ	1	Satoh, H. [Ca <sup>2+</sup> ] <sub>i</sub> -dependent actions of taurine in spontaneously beating rabbit sino-atrial nodal cells. Eur J Pharmacol. 424, 2001, 19-25.

				ヤネル、東洋漢方医学)	2	Satoh, H. Modulation by nicotine of the ionic currents in guinea pig ventricular cardiomyocytes. Relatively higher sensitivity to IKr and IK1. <i>Vascular Pharmacol.</i> 39, 2002, 55-61.
					3	Satoh, H. Suppressing pacemaker activity by Ginkgo biloba extract and a main constituent, bilobalide, in rat sino-atrial nodal cells. <i>Life Sci.</i> 78, 2005, 67-73.
50	薬理学	中山 均	講師	基礎医学(神経伝達物質受容体および神経細胞死に関する研究)	1	Nakayama, H.; Numakawa, T.; Ikeuchi, T. Nicotine-induced Phosphorylation of Akt through Epidermal Growth Factor Receptor and Src in PC12h Cells. <i>J Neurochem.</i> 83, 2002, 1372-1379.
					2	Numakawa, T.; Nakayama, H.; Suzuki, S.; Kubo, T.; 他7名. Nerve growth factor-induced glutamate release is via p75 receptor, ceramide and Ca <sup>2+</sup> from ryanodine receptor in developing cerebellar neurons. <i>J Biol Chem.</i> 278, 2003, 41259-41269.
					3	Nakayama, H.; Shimoke, K.; Isosaki, M.; Satoh, H.; 他2名. Subtypes of neuronal nicotinic acetylcholine receptors involved in nicotine-induced phosphorylation of extracellular signal-regulated protein kinase in PC12h cells. <i>Neurosci Lett.</i> 392, 2006, 101-104.
51	薬理学	磯崎 稔	助手	基礎医学(薬理学)	1	Isosaki, M; Nakashima, T. Mechanism of Na <sup>+</sup> deprivation-induced catecholamine secretion from freshly isolated bovine adrenal chromaffin cells. <i>Physiol Res.</i> 51, 2002, 371-377.
					2	Isosaki, M. Inhibition of wortmannin activities by amino compounds. <i>Biochem Biophys Res Commun.</i> 324, 2004, 1406-1412.
					3	Nakayama, H.; Shimoke, K.; Isosaki, M.; Satoh, H.; 他2名. Subtypes of neuronal nicotinic acetylcholine receptors involved in nicotine-induced phosphorylation of extracellular signal-regulated protein kinase in PC12h cells. <i>Neurosci Lett.</i> 392, 2006, 101-104.
52	地域健康医学	車谷 典男	教授	社会医学(産業保健領域に関	1	Murayama T, Takahashi K, Natori Y, Kurumatani N. Estimation of future mortality from pleural

				する疫学的研究)	1 malignant mesothelioma in Japan based on an age-cohort model. Am J Ind Med. 49(1),2006,1-7.
					2 車谷典男・徳永力雄編著, 介護職の健康管理, 初版, 京都, ミネルヴァ書房, 2003, 1-224
					3 車谷典男・熊谷信二, 旧石綿管工場周辺で観察された胸膜中皮腫の集積, 第16回日本疫学会学術総会シンポジウム, 名古屋, 2006年1月
53	地域健康医学	岡本 希	助手	社会医学(地域住民を対象とした運度疫学に関する研究)	1 Okamoto N, Morita N, Saeki K, Matsuda R, Kurumatani N., Differences in higher-level functional capacity between participants and non-participants in health checkups among the elderly. Arch Gerontol Geriatr. 42(2),2006,175-89.
					2
					3
54	地域健康医学	森田 徳子	助手	社会医学(医療労働者の健康問題に関する研究)	1 Morita N, Matsushima N, Ogata N, Saeki K, Ishibashi M, Komukai H, Matsuda R, Kurumatani N Nationwide description of live Japanese births by day of the week, hour, and location. J Epidemiol 12(4), 2002, 330-335
					2
					3
55	健康政策医学	土肥 祥子	助教授	社会医学(骨粗鬆症の分子疫学と骨再生医療に関する研究)	1 Kiji T, Dohi Y, Takasawa S, Okamoto H, 他2名. Activation of regenerating gene Reg in rat and human hearts in response to acute stress. Am J Physiol Heart Circ Physiol. 289 (1), 2005, H277-H284.
					2 Morita A, Iki M, Dohi Y, Ikeda Y, 他3名. Effects of the Cdx-2 polymorphism of the vitamin D receptor gene and lifestyle factors on bone mineral density in a representative sample of Japanese women : the Japanese Population-based Osteoporosis (JPOS) Study. Calcif Tissue Int. 77 (6), 2005, 339-347.
					3 Okamoto M, Dohi Y, Ohgushi H, Shimaoka H, 他4名. Influence of the porosity of hydroxyapatite ceramics on in vitro and in vivo bone formation by cultured rat bone marrow stromal cells. J Mater Sci Mater Med. 17 (4), 2006, 327-336.

56	健康政策医学	齊藤 功	講師	社会医学(循環器疾患の疫学、予防医学)	1	Saito I, Okamura T, Fukuhara S, Tanaka T, 他2名. A cross-sectional study of alcohol drinking and health-related quality of life among male workers in Japan. J Occup Health. 47 (6), 2005, 496-503.
					2	Saito I, Inami F, Ikebe T, Moriwaki C, 他3名. Impact of diabetes on health-related quality of life in a population study in Japan. Diabetes Res Clin Pract. 73, 2006, 51-57.
					3	Tsubakimoto A, Saito I, Mannami T, Naito Y, 他3名. Impact of metabolic syndrome on brachial-ankle pulse wave velocity in Japanese. Hypertens Res. 29(1), 2006, 29-37.
57	健康政策医学	御輿 久美子	助手	ジェンダー(ハラスメント問題に関する研究)	1	御輿久美子, アカデミック世界のマイノリティ: アカデミック・ハラスメント, 科学 vol.75(3), 2005年, 384-385.
					2	御輿久美子, 赤松万里, アカデミック・ハラスメントの実態調査研究—大学および大学教員に対するアンケート調査結果から見えるもの—, 現代社会と大学評価, 創刊号, 2005年, 165-182.
					3	御輿久美子, アカデミック・ハラスメント-「理性の府」における人権侵害, ヒューマンライツ, 207, 2005年, 2-9.
58	法医学	羽竹勝彦	教授	社会医学(アルコールと内因性急死に関する研究)	1	Nishiguchi M., Kinoshita H., Mostofa J., Taniguchi T., Ouchi H., Minami T., Hatake K.: Different blood acetaldehyde concentration following ethanol administration in a newly developed high alcohol preference and low alcohol preference rat model system. Alcohol & Alcoholism, 37: 9-12, 2002.
					2	Kasuda S, Sakurai Y, Shima S, Morimura Y, Kudo R, Hatake K, Yoshioka A: Ethanol inhibits microaggregate formation of platelets in human whole blood. Haema. 7(2): 200-204, 2004.
					3	Kasuda K, Sakurai Y, Shima M, Morimura Y, Kudo R, Takeda T, Ishitani A, Yoshioka A, Hatake K. Inhibition of PAR4 signaling mediates ethanol-induced attenuation of platelet function in vitro. Alcoholism: Clinical and Experimental Research. In

						press.
59	法医学	石谷昭子	講師	基礎医学 (HLA-E,-F,-G の免疫学的機 能に関する研 究、疾患感受 性遺伝子検索 に関する研究)	1	Geraghty DE, Daza R, Williams LM, Vu Q, Ishitani A., Genetics of the immune response: identifying immune variation within the MHC and throughout the genome., Immunol Rev.,190, 69-85,2002
					2	Ishitani A, Sageshima N, Lee N, Dorofeeva N, Hatake K, Marquardt H, Geraghty DE., Protein expression and peptide binding suggest unique and interacting functional roles for HLA-E, F, and G in maternal-placental immune recognition. , J Immunol. ,171, 1376-1384, 2003
					3	Ishitani A, Sageshima N, Hatake K, The involvement of HLA-E and -F in pregnancy, J Reprod Immunol, 69, 101-113, 2006
60	法医学	森村佳史	助手	社会医学(肺お よび心臓に関 する免疫組織 学的研究)	1	森村佳史, 粕田承吾, 工藤利彩, 福留昭人, 実藤信之, 石谷昭子, 羽竹勝彦: 交通事故後にWPW症候群で死亡したと思われた1剖検例. 第50回日本法医学会近畿地方会. 講演要旨集,p25, 津, 2003.
					2	森村佳史, 粕田承吾, 工藤利彩, 福留昭人, 実藤信之, 石谷昭子, 羽竹勝彦. Ehlers-Danlos症候群の1剖検例. 第51回日本法医学会近畿地方会講演要旨集, 2004; p44, 京都
					3	森村佳史, 粕田承吾, 工藤利彩, 福留昭人, 実藤信之, 石谷昭子, 羽竹勝彦: 結節性硬化症患者の1剖検例, 第52回日本法医学会近畿地方会, 講演要旨集, p48,2005, 神戸
61	法医学	工藤利彩	助手	社会医学(血 管反応性に及 ぼすアルコー ルの影響に関 する研究)	1	工藤利彩, 羽竹勝彦: ラット上腸間膜動脈における血管作動性神経を介した収縮反応に及ぼすエタノールの影響. 日本アルコール・薬物医学会雑誌.39(2), 145-149, 2004
					2	工藤利彩, 粕田承吾, 羽竹勝彦: ラット上腸間膜動脈における血管弛緩反応に及ぼすエタノールの影響. アルコールと医学生物学, 24, 15-18, 2004

					3	工藤利彩, 粕田承吾, 羽竹勝彦:ラット肝動脈における血管弛緩反応に及ぼすエタノールの影響. アルコールと医学生物学, 25, 140-143, 2005
62	分子病理学	國安弘基	教授	人体病理学 (消化器癌の 転移に関する 研究)	1	<u>Kuniyasu H</u> , Yano S, Sasaki T, Sasahira T, Sone S, Ohmori H. Colon cancer cell derived-HMGB1/amphoterin induces growth inhibition and apoptosis in macrophages. Am J Pathol 166(3), 2005, 751-759.
					2	<u>Kuniyasu H</u> , Yoshida K, Sasaki T, Sasahira T, Fujii K, Ohmori H. Conjugated linoleic acid inhibits peritoneal metastasis in human gastrointestinal cancer cells. Int J Cancer 118(3), 2006, 571-576.
					3	<u>Kuniyasu H</u> . The molecular pathology of gastric cancer. In: New Perspectives in Cancer Research and Therapy 2005, 1st Ed, Research Signpost, Kerala, India, 2005, 432pp
63	分子病理学	傅田阿由美	講師	実験病理学 (発癌機構と発 癌予防機構の 研究)	1	Shiotani H, <u>Denda A</u> , Yamamoto K, Kitayama W, Endoh T, Sasaki Y, Tsutsumi M, Sugimura T, Konishi Y. Increased expression of cyclooxygenase-2 protein in 4-Nitroquinoline-1-oxide-induced rat tongue carcinomas and chemopreventive efficacy of a specific inhibitor, Nimesulide. Cancer Res 61, 2001, 1451-1456.
					2	<u>Denda A</u> , Kitayama W, Murata A, Kishida H, Sasaki Y, Kusuoka O, Tsujiuchi T, Tsutsumi M, Nakae D, Takagi H, Konishi Y. Increased expression of cyclooxygenase-2 protein during rat hepatocarcinogenesis caused by a choline-deficient, L-amino acid-defined diet and chemopreventive efficacy of a specific inhibitor, nimesulide. Carcinogenesis 23, 2002, 245-256.

					3	Powell CL, Kosyk O, Bradford BU, Parker JS, Lobenhofer EK, <u>Denda A</u> , Uematsu F, Nakae D, Rusyn I. Temporal correlation of pathology and DNA damage with gene expression in a choline-deficient model of rat liver injury. Hepatology. 42(5), 2005, 1137-1147.
64	分子病理学	笹平智則	助手	人体病理学 (口腔癌・消化器癌の進展転移に関する研究)	1	<u>Sasahira T</u> , Akama Y, Fujii K, Kuniyasu H. Expression of receptor for advanced glycation end products (RAGE) and HMGB1/amphoterin in colorectal adenomas. Virchows Archiv 446(4), 2005, 411-415.
					2	<u>Sasahira T</u> , Sasaki T, Kuniyasu H. Interleukin-15 and transforming growth factor a are associated with depletion of tumor-associated macrophages in colon cancer. J Exp Clin Cancer Res 24(1), 2005, 69-74.
					3	Bhawal UK, Ozaki Y, Nishimura M, Sugiyama M, <u>Sasahira T</u> , Nomura Y, Sato F, Fujimoto K, Sasaki N, Ikeda MA, Tsuji K, Kuniyasu H, Kato Y. Association of expression of receptors for advanced glycation end-products (RAGE) and invasive and metastatic activity of oral squamous cell carcinoma. Oncology 69(3), 2005, 246-255.
65	第1内科学	斎藤能彦	教授	内科系臨床医学(循環器内科)	1	H. Iwama, N. Naya, K. Imagawa, Y. Takemoto, O. Asai, K. Onoue, S. Okayama, S. Somekawa, Y. Kida, Y. Takeda, M. Takaoka, H. Kawata, M. Horii, T. Nakajima, N. Doi and <u>Y. Saito</u> : Cardiac expression of placental growth factor predicts the improvement of chronic phase left ventricular function in patients with acute myocardial infarction. J. Am. Coll. Cardiol. 47:1559-

					1567,2006.
					2 M. Takaoka, S. Uemura, H. Kawata, K. Imagawa, Y. Takeda, K. Nakatani, N. Naya, M. Horii, S. Yamano, Y. Miyamoto, Y. Yoshimasa, and Yoshihiko Saito:Inflammatory response to acute myocardial infarction augments neointimal hyperplasia after vascular injury in a remote artery.Arterioscler Thromb Vasc Biol. inpress
					3 K. Kuwahara, Y. Saito, M. Takano, Y. Arai, S.Yasuno, Y. Nakagawa, N. Takahashi,Y. Adachi, G. Takemura, M. Horie, Y. Miyamoto, T. Morisaki, S. Kuratomi,A. Noma, H. Fujiwara, Y. Yoshimasa, H. Kinoshita, R. Kawakami, I. Kishimoto,M. Nakanishi, S. Usami, Y. Saito, M. Harada and K. Nakao:NRSF regulates fetal cardiac gene program and maintains normal cardiac structureand funcution.EMBO J. 22:6310-6321, 2003.
66	第1内科学	金内雅夫	助教授	内科系臨床医学(代謝学、生活習慣病の予防管理)	1 <u>Kanauchi M</u> , Kawano T, Kanauchi K, Saito Y: New category pre-diabetes and the metabolic syndrome in Japanese. Horm Metab Res, 2005; 37: 622-626
					2 <u>Kanauchi M</u> , Kanauchi K, Hashimoto T, Saito Y: Metabolic syndrome and new category pre-hypertension in a Japanese population. Curr Med Res Opin 2004; 20: 1365-1370
					3 <u>Kanauchi M</u> , Yamano S, Kanauchi K, Saito Y: Homeostasis model assessment of insulin resistance, quantitative insulin sensitivity check index, and oral glucose insulin sensitivity index in nonobese, nondiabetic subjects with high-normal blood pressure. J Clin Endocrinol Metab, 2003; 88: 3444-3446
67	第1内科学	岩野正之	講師	内科系臨床医学(間質線維化の進展機構)	1 Iwano M, Plieth D, Danoff TM, Xue C, Okada H, Neilson EG. Evidence that fibroblasts derive from epithelium during tissue fibrosis. J Clin Invest 110:341-350, 2002
					2 Iwano M, Fischer A, Okada H, Plieth D, Xue C, Danoff TM, Neilson EG. Conditional abatement of tissue fibrosis using nucleoside analogs to

					selectively corrupt DNA replication in transgenic fibroblasts. Mol Ther. 3:149-59, 2001
					3 Iwano M, Neilson EG. Mechanisms of tubulointerstitial fibrosis. Curr Opin Nephrol Hypertens 13:279-284, 2004
68	第1内科学	上村史朗	講師	内科系臨床医学(虚血性心疾患の病態生理の研究)	1 Iwama H, <u>Uemura S</u> , Naya N, Imagawa K, Takemoto Y, Asai O, Onoue K, Okayama S, Somekawa S, Kida Y, Takeda Y, Nakatani K, Takaoka M, Kawata H, Horii M, Nakajima T, Doi N, Saito Y. Cardiac expression of placental growth factor predicts the improvement of chronic phase left ventricular function in patients with acute myocardial infarction. J Am Coll Cardiol. 47(8):1559-67, 2006.
					2 <u>Uemura S</u> , Watanabe M, Iwama H, Saito Y. Extensive primary cardiac liposarcoma with multiple functional complications. Heart. 2004 :e48-e49.
					3 <u>Uemura S</u> , Matsushita H, Li W, Glassford AJ, Asagami T, Lee KH, Harrison DG, Tsao PS. Diabetes mellitus enhances vascular matrix metalloproteinase activity: role of oxidative stress. Circ Res. 22;88(12):1291-8, 2001.
69	第1内科学	赤井靖宏	学内講師	内科系臨床医学(腎疾患における低酸素の役割)	1 Akai Y, Mangatt B, Higgins D, Jim B, Wutz A, Johnson R, Haase V. HIF-1 $\alpha$ -deficient renal tubular cells are protected from hypoxia-mediated cell death. J Am Soc Nephrol 2003;14:346A
					2 Higgins DF, Biju MP, Akai Y, Wutz A, Johnson RS, Haase VH. Hypoxic induction of Ctgf is directly mediated by Hif-1. Am J Physiol Renal Physiol. 287(6):F1223-1232, 2004.
					3 Biju MP, Akai Y, Shrimanker N, Haase VH. Protection of HIF-1 deficient primary renal tubular epithelial cells from hypoxia induced cell death is glucose dependent.
70	第1内科学	西野俊彦	助手	内科系臨床医学(糸球体腎炎の発症機序)	1 Am J Physiol Renal Physiol. 289(6): F1217-1226, 2005

					2	西野俊彦, 西田 卓, 山口通雅, 原田幸児, 中谷公彦, 赤井靖宏, 岩野正之, 斎藤能彦. 腎生検後の抗血小板薬再開により後出血をきたした1例. 第35回日本腎臓学会西部学術大会. 長崎. 平成17年9月30日～10月1日
					3	西野俊彦, DominJ, Pusey CD, 椎木英夫, 斎藤能彦. ヒト近位尿細管上皮細胞におけるブラジキニンの作用. 第46回日本腎臓学会学術総会. 東京. 平成15年5月22日～5月24日
71	第1内科学	中嶋民夫	助手	内科系臨床医学(不整脈の研究)	1	<u>Nakajima T.</u> , Horii M, Okayama S, Kida Y, Kawata H, Yamano S, Uemura S, Saito Y. T-type and L-type Ca channel blocker efonidipine reduces ventricular premature contractions in human. 第69回日本循環器学会総会・学術集会. 横浜. 平成17年3月20日
					2	<u>Nakajima T.</u> , Horii M, Okayama S, Kawata H, Yamano S, Naya N, Imagawa K, Uemura S, Saito Y. The effect of efonidipine in reducing ventricular premature contractions is mediated by the suppression of T-type Ca Channels. 第9回日本心不全学会学術集会. 山口. 平成17年10月21日
					3	Imagawa K, Okayama S, <u>Nakajima T.</u> , Saito Y, 他5名. Inhibitory effect of efonidipine on aldosterone synthesis and secretion in human adrenocarcinoma (H295R) cells. J Cardiovasc Pharmacol 47(1), 2006.133-138.
72	第1内科学	山本広光	助手	内科系臨床医学(冠動脈硬化症の研究)	1	山本広光. Plasma level of CD40L correlates with coronary circulating MMP-9 in patients with CAD. 日本循環器病学会総会. 東京. 平成14年3月
					2	H. yamamoto, Transcardiac gradient of plasma MMP correlates with vascular remodeling in CAD. ACC. USA. 2001.3
					3	H.yamamoto, et al. Transcardiac gradient of soluble adhesion molecules predicts progression of coronary artery disease. International Journal of Cardiology, 84(2-3), 2002, 249-257.
73	第1内科学	堀井 学	助手	内科系臨床医学(虚血性心疾患における病態および治療に関する研	1	堀井 学, 斎藤能彦. 病態と疾患からみたナトリウム利尿ペプチド 心不全. 日本臨床62巻増刊号臨床分子内分泌学(1)心血管内分泌代謝系(上) 2004年84-87頁

				究)		
					2	堀井 学, 斎藤能彦. 心不全の病態 神経体液性因子とリモデリング. Pharma Media22巻6号2004年19-22頁
					3	堀井 学, 斎藤能彦. 心不全の病態診断 BNPによる重症度診断. カレントセラピー22巻2号2004年133-136頁
74	第1内科学	川田啓之	助手	内科系臨床医学(虚血性心疾患における病態および治療に関する研究)	1	Sasaki Y, Kawamoto A, Iwano M, <u>Kawata H</u> , 他7名. Vascular endothelial growth factor mRNA synthesis by peripheral blood mononuclear cells in patients with acute myocardial infarction. Int J Cardiol. 81巻1号. 2001年. 51-60頁.
					2	<u>Kawata H</u> , Yoshida K, Kawamoto A, Kurioka H, 他7名. Ischemic preconditioning upregulates vascular endothelial growth factor mRNA expression and neovascularization via nuclear translocation of protein kinase C $\epsilon$ in the rat ischemic myocardium. 88巻7号. 2001年. 696-704頁.
					3	<u>Kawata H</u> . The development of a new thrombolytic therapy with ultrasound in acute coronary syndrome. American Heart Association. Scientific session 2005. Dallas, Texas. 2005年11月.
75	第1内科学	中谷公彦	助手	内科系臨床医学(腎疾患とそれに合併する血管病変に関する研究)	1	中谷公彦, 椎木英夫. 成人における膜性腎症の現状. 腎と透析. 59巻増刊号. ネフローゼ症候群のすべて. 2005年. 354-359.
					2	<u>Nakatani K</u> , Fujii H, Hasegawa H, Terada M, 他10名. Endothelial adhesion molecules in glomerular lesions: association with their severity and diversity in lupus models. Kidney Int. 65巻4号. 2004年. 1290-1300.
					3	Fujii H, <u>Nakatani K</u> , Arita N, Ito MR, 他11名. Internalization of antibodies by endothelial cells via fibronectin implicating a novel mechanism in lupus nephritis. Kidney Int. 64巻5号. 2003年. 1662-1670.
76	第2内科学	木村 弘	教授	内科系臨床医学(呼吸不全、	1	Itoh T, Nagaya N, Yoshikawa M, Fukuoka A, Takenaka H, Kimura H, 他6名. Elevated plasma

				炎症性肺疾患、肺高血圧症、睡眠時呼吸障害に関する研究)	1	ghrelin level in underweight patients with chronic obstructive pulmonary disease. <i>Am J Respir Crit Care Med.</i> 170: 2004, 879-82.
					2	Murakami S, Nagaya N, Itoh T, Hamada K, Kimura H, 他4名. Adrenomedullin regenerates alveoli and vasculature in elastase-induced pulmonary emphysema in mice. <i>Am J Respir Crit Care Med.</i> 172: 2005, 581-589.
					3	Ito T, Hontsu S, Kimura H, Matsushima K, 他6名. Defective B1 cell homing to the peritoneal cavity and preferential recruitment of B1 cells in the target organs in a murine model for systemic lupus erythematosus. <i>J Immunol.</i> 172: 2004, 3628-3634.
77	第2内科学	濱田 薫	助教授	内科系臨床医学(気管支喘息、大気汚染、びまん性肺疾患、肺病理に関する研究)	1	Hamada K, Suzaki Y, Goldman A, 他6名. Allergen-independent maternal transmission of asthma susceptibility. <i>J Immunol.</i> 170: 2003, 1683-9.
					2	Suzaki Y, Hamada K, 他11名 A potent anti-angiogenic factor, endostatin prevents the development of asthma in a murine model. <i>J Allergy Clin Immunol.</i> 116: 2005, 1220-1227.
					3	Leme AS, Hubeau C, Hamada K, Suzaki Y, 他3名. Role of breast milk in a mouse model of maternal transmission of asthma susceptibility. <i>J Immunol.</i> 176: 2006, 762-9.
78	第2内科学	吉川雅則	講師	内科系臨床医学(慢性閉塞性肺疾患、呼吸リハビリテーション、睡眠時呼吸障害に関する研究)	1	Itoh T, Nagaya N, Yoshikawa M, 他9名. Elevated plasma ghrelin level in underweight patients with chronic obstructive pulmonary disease. <i>Am J Respir Crit Care Med.</i> 170: 2004, 879-82.
					2	Yoshikawa M, Yoneda T, Takenaka H, 他4名. Distribution of muscle mass and maximal exercise performance in patients with COPD. <i>Chest</i> 119: 2001, 93-98.
					3	Yoneda T, Yoshikawa M, Fu A, 他3名. Plasma levels

						of amino acids and hypermetabolism in patients with chronic obstructive pulmonary disease. <i>Nutrition</i> 17: 2001, 95-99.
79	第2内科学	森井武志	講師	内科系臨床医学(腫瘍免疫、造血幹細胞移植に関する研究)	1	Yoneda K, Morii T, 他7名. The peripheral blood V <sup>α</sup> 24+ NKT cell numbers decrease in patients with haematopoietic malignancy. <i>Leuk Res.</i> 29: 2005, 147-152.
					2	Yamamoto Y, Tsujimoto M, Konoike Y, Nakamine H, Morii T, Kimura H. Richter's syndrome presenting as a nasal lymphoma. <i>Leuk Lymphoma</i> 45: 2004, 1919-1923.
					3	Takeuchi J, Morii T, 他23名. Induction therapy by frequent administration of doxorubicin with four other drugs, followed by intensive consolidation and maintenance therapy for adult acute lymphoblastic leukemia: the JALSG-ALL93 study. <i>Leukemia</i> 16: 2002, 1259-1266.
80	第2内科学	天野逸人	助手	内科系臨床医学(造血幹細胞移植、再生不良性貧血に関する研究)	1	天野 逸人 他4名. High Risk造血器腫瘍に対するCSPと短期MMFによるRICBTの治療成績(第2報). 第28回日本造血幹細胞移植学会総会. 東京. 2006年2月.
					2	天野 逸人 他8名. 当科における成人High Risk造血器腫瘍12例に対するRICBTの治療成績. 第27回日本造血幹細胞移植学会総会. 岡山. 2004年12月.
					3	天野 逸人 他3名. 炎症に伴い血小板増加を来した慢性ITPの3例. 第101回日本内科学会講演会. 東京. 2004年4月.
81	第2内科学	友田恒一	助手	内科系臨床医学(慢性閉塞性肺疾患の発症・進展の機序に関する研究)	1	友田 恒一 他8名. COPD患者におけるレプチン-レプチン受容体の検討. 第45回日本呼吸器学会総会. 千葉. 2005年6月 .
					2	Tomoda K, Osaki S, Niitsuma K, and Kimura H. Determination of orientation of collagen fibers in tissue of human lung with emphysema. 4 th world congress of Cell Molecular Biology. France, Oct 2005.
					3	Tomoda K, Kimura H, Niitsuma K, and Osaki S.

						Determination of collagen-fiber orientation in human lung The international conference on polymer characterization; POLYCHAR-14. Japan, April 2006.
82	第2内科学	福岡篤彦	助手	内科系臨床医学(呼吸不全、慢性閉塞性肺疾患、睡眠時呼吸障害に関する研究)	1	Fukuoka A, 他8名. Serum antioxidative vitamin level on patients with chronic obstructive pulmonary disease(COPD). The third International Conference of the Asia Pacific Clinical Nutrition Society. Osaka, March 2002.
					2	福岡篤彦 他12名. 呼吸リハビリテーションマニュアル-患者教育. 栄養指導-の作成をめぐって. COPDの栄養指導の位置づけとエビデンス. 呼吸管理学会誌. 14巻、3号、2005、395-403.
					3	福岡篤彦、吉川雅則、木村 弘. 呼吸中枢と睡眠呼吸障害. The LUNG perspective. 14巻、2号、2006、54-58.
83	第2内科学	玉置伸二	助手	内科系臨床医学(呼吸不全、睡眠時呼吸障害に関する研究)	1	Tamaki S. 他6名. Production of TNF- $\alpha$ ; MMPs, and MCP-1 by monocytes and hypoxic stress in patients with obstructive sleep apnea syndrome (OSAS). Annual Congress of European Respiratory Society. Glasgow. Sep 2004. <i>Eur Respir J</i> . 24: Suppl. 48, 2004, 331s.
					2	Tamaki S. 他6名. Hypoxic stress in obstructive sleep apnea syndrome (OSAS) activates invasive ability of monocytes. Annual Congress of European Respiratory Society. Copenhagen. Sep 2005. <i>Eur Respir J</i> . 26: Suppl. 49, 2005, 354s.
					3	玉置伸二、吉川雅則、木村 弘、他. OSASにおける動脈硬化病変の形成機序. 厚生労働省特定疾患呼吸不全に関する調査研究. 平成16年度研究報告書. 2005、135-139.
84	第3内科学	福井 博	教授	内科系臨床医学(消化器・肝臓病学)	1	Fukui H. Relation of endotoxin, endotoxin binding proteins and macrophages to severe alcoholic liver injury and multiple organ failure. <i>Alcohol Clin Exp Res</i> 2005;29:172S-179S.
					2	Namisaki T, Yoshiji H, Kojima H, Yoshii J, Ikenaka Y, Noguchi R, Sakurai S, Yanase K, Kitade M, Yamazaki M, Asada K, Uemura M, Nakamura M, Fukui H. Salvage effect of the vascular endothelial growth factor on chemically induced acute severe liver injury in rats. <i>J Hepatol</i> 2006;44:568-575.

					3	福井 博、山崎正晴:難治性腹水. 肝臓病の最新治療 戸田剛太郎、沖田極、門田守人編. 先端医療技術研究所刊, 東京, 2006, p210-217.
85	第3内科学	岡本新悟	助教授	内科系臨床医学(成長と発育並びに男子性腺)	1	Izumi Y, Tatsumi K, Okamoto S, Ogawa T, 他5名 Analysis of the KAL1 gene in 19 Japanese patients with Kallmann syndrome. Endocrine Journal. 48, 2001, 143-149.
					2	岡本新悟、クラインフェルター症候群に対する生涯ケアとテストステロン治療、日本遺伝カウンセリング学会誌. 25, 2004, 75-80
					3	岡本新悟、モハメド・セリム・レザ、樽松由佳子、松尾健史、他4名 Kallmann症候群のKAL1遺伝子解析と告知並びに生涯ケア 日本遺伝カウンセリング学会誌. 26, 2005, 49-54.
86	第3内科学	植村正人	講師	内科系臨床医学(肝硬変の病態と治療、ADSAMTS13の動態解析)	1	Uemura M, Tatsumi K, Matsumoto M, et al. Localization of ADAMTS13 to the stellate cells of human liver. Blood, 106(3): 2005, 922-924.
					2	Uemura M, Matsuyama T, Ishikawa M, et al. Decreased activity of plasma ADAMTS13 may contribute to the development of liver disturbance and multiorgan failure in patients with alcoholic hepatitis. Alcohol Clin Exp Res, 29(12): 2005, 264-271.
					3	Uemura M, Lehmann WD, Schneider W, et al. Enhanced urinary excretion of cysteinyl leukotrienes in patients with acute alcohol intoxication. Gastroenterology, 118(6):2000, 1140-1148.
87	第3内科学	山尾純一	講師	内科系臨床医学(消化器・肝臓病学)	1	J. Yamao <sup>1</sup> ; H. Kojima <sup>1</sup> ; A. Mitro <sup>1</sup> ; M. Yoshida <sup>1</sup> ; M. Yoshikawa <sup>1</sup> ; E. Kikuchi <sup>2</sup> ; M. Matsumoto <sup>3</sup> ; M. Nakayama <sup>4</sup> ; T. Ann <sup>5</sup> ; H. Fukui Comparative Study on the Efficacy of Famotidine and Rebamipide for Gastric Mucosal Lesions in Patients Receiving Long-term Administration of NSAIDs DDW 2006, Losangels, USA
					2	Yoshikawa M, Toyohara M, Mitoro A, Yamao J, Kojima H, Fujimoto M, Fukui H 'A cooperative effect of surgical stress-induced immunomodulation with the cessation of immunosuppression on hepatitis C

					virus elimination?'J Gastroenterol (Letter to the editor)'P89-90,2005
					3 Uemura M, Matsuyama T, Ishikawa M, Fujimoto M, Kojima H, Sakurai S, Ishii S, Toyohara M, Yamazaki M, Yoshiji H, Yamao J, Matsumoto M, Ishizashi H, Fujimura Y, Fukui H Decreased Activity of Plasma ADAMTS13 May Contribute to the Development of Liver Disturbance and Multiorgan Failure in Patients with Alcoholic Hepatitis 'Alcohol Clin Exp Res'29(12):264S-271S 2005
88	第3内科学	藤本正男	助手	内科系臨床医学(消化器・肝臓病学)	1 Fujimoto M, Yamasaki M, Tamura N, Uemura M, Fukui H Validation of the JIS and Tokyo Scoring System for Hepatocellular Carcinoma: Compared to Okuda Staging and CLIP Scoring System Fourth JSH Single Topic Conference Awaji-Island, Hyogo, Japan Dec. 2-3, 2005
					2 藤本正男、植村正人、田村信宏、福井博 他4名 高齢C型慢性肝炎患者に対するインターフェロン療法 老年消化器病 16:39-45
					3 藤本正男、植村正人、中谷吉宏、福井博 他11名 急性アルコール性肝炎における血中エンドトキシン、各種サイトカイン値 エンドトキシン研究3 115-121 2001年
89	第3内科学	小嶋秀之	助手	内科系臨床医学(消化器・肝臓病学)	1 Kojima H, Sakurai S, Matsumura M, Umemoto N, Uemura M, Morimoto H, Tamagawa Y, Fukui H. Cryptogenic cirrhosis in the region where obesity is not prevalent. World J Gastroenterol. 2006;12:2080-5.
					2 Kojima H, Sakurai S, Uemura M, Satoh H, Nakashima T, Minamino N, Kangawa K, Matsuo H, Fukui H. Adrenomedullin contributes to vascular hyporeactivity in cirrhotic rats with ascites via a release of nitric oxide. Scand J Gastroenterol. 2004;39:686-93.
					3 Kojima H, Nies AT, Konig J, Hagmann W, Spring H, Uemura M, Fukui H, Keppler D. Changes in the expression and localization of hepatocellular transporters and radixin in primary biliary cirrhosis. J Hepatol. 2003;39:693-702.

90	第3内科学	吉治仁志	助手	内科系臨床医学(消化器・肝臓病学)	1	Yoshiji H, Kuriyama S, Noguchi R, Yoshii J, Ikenaka Y, Yanase K, Namisaki T, Kitade M, Uemura M, Masaki T, Fukui H Angiopoietin 2 displays a vascular endothelial growth factor dependent synergistic effect in hepatocellular carcinoma development in mice GUT 54:1768-1775 2005
					2	Yoshiji H, Kuriyama S, Yoshii J, et al. Halting the interaction between vascular endothelial growth factor and its receptors attenuates liver carcinogenesis in mice. Hepatology 2004, 39(6):1517-24
					3	Yoshiji H, Noguchi R, Kuriyama S, Ikenaka Y, Yoshii J, Yanase K, Namisaki T, Kitade M, Masaki T, Fukui H Imatinib mesylate (STI-571) attenuates liver fibrosis development in rats Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 288:G907-913 2005
91	第3内科学	豊原真久	助手	内科系臨床医学(消化器・肝臓病学)	1	豊原真久 他、肝細胞癌に対するラジオ波焼療法後の多発再発に関する検討、第92回日本消化器病学会総会、北九州、2006.4
					2	豊原真久 他、肝細胞癌に対するRFA後の超音波B-modeによる焼灼範囲の検討、第41回肝癌研究会、千葉幕張、2005.6
					3	豊原真久 他、小肝細胞癌に対するRFA後の局所再発に関する検討、第9回日本肝臓学会、神戸 DDW-Japan、2005.10
92	第3内科学	美登路 昭	助手	内科系臨床医学(消化器・肝臓病学)	1	美登路 昭、上野貴久美、福井 博、消化器疾患と生活習慣因子に関する検討、第90回日本消化器病学会総会パネルディスカッション、仙台、2004年4月
					2	美登路昭、吉治仁志、山崎正晴、Szabolcs Matthias, D'Armiento Jeanine, Chada Kiran, 栗山茂樹、福井博、ヒト大腸癌の浸潤転移過程における核内蛋白HMGA2の役割、第45回日本消化器病学会大会、大阪、2003年10月
					3	栗山茂樹、美登路昭、福井博、遺伝子銃を用いた肝癌に対する免疫遺伝子療法の試み、第87回日本消化器病学会総会シンポジウム、東京、2001年4月
93	第3内科学	池中康英	助手	内科系臨床医学(消化器・肝臓病学)	1	池中康英他9、インターフェロンおよびACE阻害剤の肝発癌抑制効果、日本癌学会学術総会、札幌、2005.9.14
					2	池中康英、肝発癌過程における繊維化および血管新生

					の役割、日本肝臓学会、福岡、2004. 10.22
					3 池中康英、腸腰筋腫瘍を合併した糖尿病の1例、日本糖尿病学会近畿地方会、兵庫、2003. 11.8
94	神経内科学	上野 聡	教授	内科系臨床医学(神経疾患の病態と治療)	1 Hirano M, Furiya Y, Asai H, Yasui A, <u>Ueno S</u> . ALADINI482S causes selective failure of nuclear protein import and hypersensitivity to oxidative stress in triple A syndrome. Proc Natl Acad Sci U S A. 103, 2006, 2298–303.
					2 Sugie K, Noguchi S, Kozuka Y, Arikawa-Hirasawa E, Tanaka M, Yan C, Saftig P, von Figura K, Hirano M, <u>Ueno S</u> , Nonaka I, Nishino I. Autophagic vacuoles with sarcolemmal features delineate Danon disease and related myopathies. J Neuropathol Exp Neurol. 64(6) 2005 :513–22.
					3 Kawahara M, Kanno M, Matsumoto M, Nakamura S, Fujimura Y, <u>Ueno S</u> : Diffuse neurodeficits in intravascular lymphomatosis with ADAMTS13 inhibitor. Neurology 63, 2004:1731–33
95	神経内科学	平野牧人	助教授	内科系臨床医学(臨床神経分子遺伝学:分子遺伝学的病態解析と治療法開発)	1 <u>Hirano M</u> , Furiya Y, Asai H, Yasui A, Ueno S. ALADINI482S causes selective failure of nuclear protein import and hypersensitivity to oxidative stress in triple A syndrome. Proc Natl Acad Sci U S A. 103, 2006, 2298–303.
					2 <u>Hirano M</u> , Furiya Y, Kariya S, Nishiwaki T, Ueno S. Loss of function mechanism in aprataxin-related early-onset ataxia. Biochem Biophys Res Commun. 322, 2004,380–6.
					3 <u>Hirano M</u> , Kusunoki S, Asai H, Tonomura Y, Morita D, Ueno S. A family with Campylobacter enteritis: anti-GD1a antibody with/without Guillain-Barre syndrome. Neurology. 60, 2003, 1719–20.
96	神経内科学	降矢芳子	講師	内科系臨床医学(神経生化学)	1 <u>Furiya Y</u> , Hirano M, Kurumatani N, Nakamuro T, Matsumura R, Futamura N, Ueno S. Alpha-1-Antichymotrypsin gene polymorphism and susceptibility to multiple system atrophy (MSA). Brain Res Mol Brain Res.;138(2):178–181

					2	Hirano M, <u>Furiya Y</u> , Asai H, Yasui A, Ueno S.: ALADINI482S causes selective failure of nuclear protein import and hypersensitivity to oxidative stress in triple A syndrome. <i>Proc Natl Acad Sci U S A</i> . 2006 Feb 14;103(7):2298-303.
					3	Hirano, M. <u>Furiya, Y</u> . Kariya, S. Nishiwaki, T. Ueno, S. Loss of function mechanism in aprataxin-related early-onset ataxia. <i>Biochem Biophys Res Commun</i> 2004; 322(2): 380-386
97	神経内科学	杉江 和馬	講師	内科系臨床医学(筋病理学および筋疾患に関する研究)	1	<u>Sugie K</u> , Noguchi S, Kozuka Y, Arikawa-Hirasawa E, Tanaka M, Yan C, Saftig P, von Figura K, Hirano M, Ueno S, Nonaka I, Nishino I. Autophagic vacuoles with sarcolemmal features delineate Danon disease and related myopathies. <i>J Neuropathol Exp Neurol</i> . 2005 64(6):513-22.
					2	<u>Sugie K</u> , Yamamoto A, Murayama K, Oh SJ, Takahashi M, Mora M, Riggs JE, Colomer J, Iturriaga C, Meloni A, Lamperti C, Saitoh S, Byrne E, DiMauro S, Nonaka I, Hirano M, Nishino I. Clinicopathological features of genetically confirmed Danon disease. <i>Neurology</i> . 2002 58(12):1773-8.
					3	<u>Sugie K</u> , Futamura N, Suzumura A, Tate G, Umehara F. Hereditary motor and sensory neuropathy with minifascicle formation in a patient with 46XY pure gonadal dysgenesis: a new clinical entity. <i>Ann Neurol</i> . 2002 51(3):385-8.
98	神経内科学	川原 誠	助手	内科系臨床医学(神経内科学:機能性疾患と神経生理学)	1	<u>Kawahara M</u> , Kanno M, Matsumoto M, Nakamura S, Fujimura Y, Ueno S. Diffuse neurodeficits in intravascular lymphomatosis with ADAMTS13 inhibitor. <i>Neurology</i> . 63:1731-3, 2004.
					2	Okahashi Y, Kataoka H, <u>Kawahara M</u> , Tamaru T, Ueno S. A carrier of human T-lymphotropic virus type I with periodic limb movements progressing to myelopathy. <i>Neurology</i> . 65:965-6, 2005.
					3	Takamure M, Murata KY, <u>Kawahara M</u> , Ueno S. Finger flexor weakness in inclusion body myositis. <i>Neurology</i> .;64:389, 2005.

99	神経内科学	形岡博史	助手	内科系臨床医学(症候学と画像診断)	1	<u>Kataoka H</u> , Sugie K, Kohara N, Ueno S. Novel representation of astasia associated with posterior cingulate infarction. Stroke. 2006 ;37(1):e3-5.
					2	Okahashi Y, <u>Kataoka H</u> , Kawahara M, Tamaru T, Ueno S. A carrier of human T-lymphotropic virus type I with periodic limb movements progressing to myelopathy. Neurology. 2005 27;65(6):965-6.
					3	Shimuzu H, <u>Kataoka H</u> , Yagura H, Hirano M, Taoka T, Ueno S. Extensive neuroimaging of a transient lesion in the splenium of corpus callosum. European Journal of Neurology 2006(in press)
100	神経内科学	斎藤こずえ	助手	内科系臨床医学(神経内科学とくに脳血管障害の研究)	1	<u>Saito K</u> , Moriwaki H, Oe H, Ueno S, Naritomi H. Mechanisms of Bihemispheric Brain Infarctions in the Anterior Circulation on Diffusion-Weighted Images AJNR Am J Neuroradiol 2005 26: 809-814.
					2	<u>Saito K</u> , Kimura K, Ueno S, Naritomi H. Vertebral Artery Occlusion in Duplex Color-Coded Ultrasonography . Stroke 2004 35: 1068 - 1072
					3	<u>Saito K</u> , Kimura K, Minematsu K, Shiraishi A. Transient global amnesia associated with an acute infarction in the retrosplenium of the corpus callosum J Neurol Sci. 2003 Jun 15;210(1-2):95-7.
101	消化器・総合外科学	中島祥介	教授	外科系臨床医学(消化器外科学)	1	T.Yamada, M.Yoshikawa, M.Takagi, Y.Nakajima et al: In Vitro Functional Gut-Like Organ Formation from Mouse Embryonic Stem Cells. STEM CELLS 20 : 41-49, 2002
					2	N.Ikeda, Y.Nakajima, T.Tokuhara, N.Hattori, et al: Clinical Significance of Aminopeptidase N/CD13 Expression in Human Pancreatic Carcinoma. Clinical Cancer Research 9 : 1503-1508, 2003
					3	Y.Tsurui, M.Sho, Y.Kuzumoto, Y.Nakajima, et al: Dual Role of Vascular Endothelial Growth Factor in Hepatic Ischemia-Reperfusion Injury. Transplantation 79 : 1110-1115, 2005
102	消化器・総合外科学	金廣裕道	助教授	外科系臨床医学(小児外科学)	1	Y.Tatekawa, H.Kanehiro, M.Hisanaga, Y.Nakajima. Matrix metalloproteinase-9 and tissue inhibitor of metalloproteinase-1: expression in the lung of fetal rats with nitorofen-induced diaphragmatic hernia. Pediatr Surg Int 19 : 5-28, 2003

					2	H.Kanokogi, S.Ko, H.Kanehiro, M.Hisanaga, et al: Immune Responses of Graft Mesenteric Lymph Node in Small Bowel Transplantation1. J Surgical Research 116 : 269-276, 2004
					3	M.Sho, S.Akashi, H.Kanehiro, K.Hamada, et al: Function of the Vascular Endothelial Growth Factor Receptors Flt-1 and Flt-1/ KDR in the Alloimmune Response In Vivo. Transplantation 80 : 717-722, 2005
103	消化器・総 合外科学	久永倫聖	助教授	外科系臨床医 学（消化器外 科学）	1	T.Kobayashi, Y.Aomatsu, H.Iwata, M.Hisanaga, et al: Indefinite Islet Protection from Autoimmune Destruction in Non-obese Diabetic Mice by Agarose Microencapsulation without Immunosuppression. TRANSPLANTATION 75 : 619- 625, 2003
					2	J.Okayama, S.Ko, H.Kanehiro, M.Hisanaga, et al: Bone Marrow Chimerism and Tolerance Induced by Single- Dose Cyclophosphamide. Journal of Surgical Research 120 : 102-110, 2004
					3	A.Fukumoto, N.Ikeda, M.Sho, K.Tomoda, et al: Prognostic significance of localized p27Kip1 and potential role of Jab1/CSN5 in pancreatic cancer. ONCOLOGY REPORTS 11 : 277-284, 2004
104	消化器・総 合外科学	山田行重	講師	外科系臨床医 学（消化器外 科学）	1	Y.Takahama, Y.Yamada, K.Emoto, T.Takayama, et al: The prognostic significance of overexpression of the decoy receptor for Fas ligand(DcR3)in patients with gastric carcinomas. Gastric Cancer 5 : 61-68, 2002
					2	K.Kamada, Y.Yamada, T.Hirao, H.Fujimoto, et al: Amplification/overexpression of Aurora-A in human gastric carcinoma: Ptential role in differentiated type gastric carcinogenesis. ONCOLOGY REPORTS 12: 593-599, 2004
					3	T.Hachisuka, M.Nariyio, Y.Yamada, et al: High lymphatic vessel density correlates with overexpression of VEGF-C in gastric cancer. ONCOROGY REPORTS 13:733-737, 2005
105	消化器・総 合外科学	高 濟峯	学内 講師	外科系臨床医 学（消化器外 科学）	1	S.Ko, H.Kanehiro, M.Hisanaga, M.Nagao, Y.Nakajima:Liver fibrosis increases the risk of intrahepatic recurrence after hepatectomy for hepatocellular carcinoma. British Journal of Surgery

					89 : 938-940, 2002
					2 S.Ko, G.Murakami, T.Kanamura, T.J.Sato, Y.Nakajima: Cantlie's Plane in Major Variations of the Primary Portal Vein Ramification at the Porta Hepatis: Cutting Experiment using Cadaveric Livers. World Journal of Surgery 28 : 13-18, 2004
					3 S.Ko, E.Okano, H.Kanehiro, M.Matsumoto, et al: Plasma ADAMTS13 Activity May Predict Early Adverse Events in Living Donor Liver Transplantation: Observations in 3 Cases. LIVER TRANSPLANTATION 12 : 859-869, 2006
106	消化器・総合外科学	小山文一	助手	外科系臨床医学 (消化器外科学)	1 F.Koyama, H.Fujii, T.Mukogawa, M.Ueno, et al: Chemo-radio-gene Therapy for Colorectal Cancer Cells Using Escherichia Coli Uracil Phosphoribosyltransferase Gene. ANTICANCER RESEARCH 23 : 1343-1348, 2003
					2 H.Ishikawa, H.Fujii, F.Koyama, et al: Long-Term Results of High-Dose Extracorporeal and Endocavitary Radiation Therapy Followed by Abdominoperineal Resection for Distal Rectal Cancer. Surgery Today 34 : 510-517, 2004
					3 T.Takeuchi, M.Hisanaga, M.Nagao, F.Koyama, et al: The Membrane-Anchored Matrix Metalloproteinase(MMP)Regulator RECK in Combination with MMP-9 Serves as an Informative Prognostic Indicator for Colorectal Cancer. Clinical Cancer Research 10 : 5572-5579, 2004
107	消化器・総合外科学	大橋一夫	助手	外科系臨床医学 (消化器外科学)	1 K.Ohashi, Y.Nakajima, M.A.Kay: Liver Tissue Engineered at the Kidney Capsule and Their Regeneration Potential. The 6th International Congress of the Cell Transplant Society: Atlanta, U.S.A. 2003.3.2-5
					2 T.Yokoyama, K.Ohashi, H.Kuge, H.Kanehiro, et al: In Vivo Engineering of Metabolically Active Hepatic Tissues in a Neovascularized Subcutaneous Cavity. American Journal of Transplantation 6 : 50-59, 2006
					3 H.Kuge, K.Ohashi, T.Yokoyama, H.Kanehiro, et al: Genetic Modification of Hepatocytes Towards Hepatocyte Transplantation and Liver Tissue Engineering. Cell Transplantation 15 : 1-12, 2006

108	消化器・総合外科学	庄 雅之	助手	外科系臨床医学（消化器外科学）	1	M.Sho, K.Kishimoto, H.Harada, M.Livak, et al. Requirements for induction and maintenance of peripheral tolerance in stringent allograft models. Proc Natl Acad Sci U S A. 102(37):13230-13235.2005
					2	Y.Kuzumoto, M.Sho, N.Ikeda, K.Hamada, et al : Significance and therapeutic potential of prostaglandin E2 receptor in hepatic ischemia/reperfusion injury in mice. Hepatology. 42(3):608-617. 2005
					3	Y.Ohigashi, M.Sho, Y.Yamada, Y.Tsurui, et al : Clinical significance of programmed death-1 ligand-1 and programmed death-1 ligand-2 expression in human esophageal cancer. Clin Cancer Res. 11(8):2947-2953. 2005
109	消化器・総合外科学	長尾美津男	助手	外科系臨床医学（消化器外科学）	1	H.Matsumoto, M.Nagao, S.Ogawa, M.Hisanaga, et al:Prognostic Significance of Death-associated Protein-Kinase Expression in Hepatocellular Carcinomas. ANTICANCER RESEARCH 23 : 1333-1342, 2003
					2	S.Ogawa, M.Nagao, H.Kanehiro, M.Hisanaga,et al: The Breakdown of Apoptotic Mechanism in the Development and Progression of Colorectal Carcinoma. Anticancer Research 24 : 1569-1580, 2004
					3	T.Mizuno, M.Nagao, Y.Yamada, M.Narikiyo,et al:Small interfering RNA expression vector targeting hypoxia-inducible factor 1 alpha inhibits tumor growth in hepatobiliary and pancreatic cancers.Cancer Gene Therapy 13 : 131-140, 2006
110	消化器・総合外科学	向川智英	助手	外科系臨床医学（消化器外科学）	1	T.Mukogawa, F.Koyama, M.Tachibana, A.Takayanagi, et al : Adenovirus-mediated gene transduction of truncated $1\kappa B\alpha$ enhances radiosensitivity in human colon cancer cells. Cancer Science 94 : 745-750, 2003
					2	F.Koyama, H.Fujii, T.Mukogawa, M.Ueno, et al.Chemo-radio-gene Therapy for Colorectal Cancer Cells Using Escherichia Coli Uracil Phosphoribosyltransferase Gene. ANTICANCER RESEARCH 23:1343-1348, 2003

					3	T.Takeuchi, M.Hisanaga, M.Nagao, F.Koyama, et al: The Membrane-Anchored Matrix Metalloproteinase(MMP)Regulator RECK in Combination with MMP-9 Serves as an Informative Prognostic Indicator for Colorectal Cancer. Clinical Cancer Research 10:5572-5579, 2004
111	消化器・総合外科学	成清道博	助手	外科系臨床医学(消化器外科学)	1	M.Narikiyo, C.Tanabe, Y.Yamada, H.Igaki et al : Frequent and preferential infection of Treponema denticola, Streptococcus mitis, and Streptococcus anginosus in esophageal cancers. Cancer Science 95 : 569-574, 2005
					2	T.Hachisuka, M.Nariyiyo, Y.Yamada, et al: High lymphatic vessel density correlates with overexpression of VEGF-C in gastric cancer. ONCOROGY REPORTS 13 : 733-737, 2005
					3	T.Mizuno, M.Nagao, Y.Yamada, M.Narikiyo,et al:Small interfering RNA expression vector targeting hypoxia-inducible factor 1 alpha inhibits tumor growth in hepatobiliary and pancreatic cancers.Cancer Gene Therapy 13 : 131-140, 2006
112	脳神経外科学	榊 寿右	教授	外科系臨床医学(脳静脈に関する研究)	1	Nakase H.,Shin Y., Nakagawa I.,Kimura R., <u>Sakaki T.</u> : Clinical features of postoperative cerebral venous infarction.Acta Neurochir(Wien)147:621-626,2005
					2	Kaido T.,Hoshida T.,Taoka T., <u>Sakaki T.</u> : Retinotomy with coordinates of lateral occipital cortex in humans.J Neurosurg 101:114-118,2004
					3	Akita N.,Nakase H., Kaido T.,Kanemoto Y., <u>Sakaki T.</u> : Protective effect of C1esterase inhibitor on reperfusion injury in the rat middle cerebral artery occlusion model.Neurosurgery52:395-401,2003
113	脳神経外科学	中瀬裕之	講師	外科系臨床医学(脳静脈に関する研究)	1	<u>Nakase H.</u> , Matsuda R., Tamaki R., Tei R., Park Y-S, Sakaki T. : Two-stage management for vertebral osteomyelitis and epidural abscess. Neurosurgery 58(6) (in press), 2006
					2	<u>Nakase H.</u> , Park Y-S, Kimura H., Sakaki T.,Morimoto T. : Complications and long-term follow-up results in titanium mesh cage reconstruction after cervical corpectomy. J Spinal Disord Tech (in press), 2006

					3	<u>Nakase H., Shin Y., Kanemoto Y., Ohnishi H., Morimoto T., Sakaki T.</u> : Long-term outcome of unruptured giant cerebral aneurysms. <i>Neurol Med Chir (Tokyo)</i> (in press), 2006
114	脳神経外科学	平林秀裕	講師	外科系臨床医学(パーキンソン病不随意運動及び痛みの臨床)	1	<u>Hirabayashi H., Kim Y.J., Nakase H., Sakaki T., Hoshida T.</u> : Epilepsy surgery based on modern image technology. 6th International Congress on Minimally Invasive Neurosurgery Nagoya 2005.3
					2	<u>平林秀裕, 榊寿右, Hariz M.I.</u> : 第2章 定位脳手術(装置と操作法) 標的の決定法 CT, MRI (分担執筆). (山浦 晶 総編集、片山容一 専門編集、児玉南海雄, 河瀬 斌, 吉田 純, 橋本信夫 編集:脳神経外科学大系 10 定位・機能神経外科, (株)中山書店, 東京, 2005, p.41-52)
					3	<u>Hirabayashi H., Tengvar M., Hariz M.I.</u> : Stereotactic imaging of the pallidal target. <i>Movement Disorders</i> 17(Suppl.3):S130-S134, 2002
115	脳神経外科学	飯田淳一	助手	外科系臨床医学(脊髄・脊椎疾患、末梢神経)	1	<u>飯田淳一, 平林秀裕, 中瀬裕之, 川口正一郎, 榊寿右</u> : 動眼神経麻痺を呈する内頸動脈瘤の問題点と手術の工夫. 第35回日本脳卒中の外科学会 横浜 2006.3
					2	<u>中瀬裕之, 飯田淳一, 松田良介, 朴永銖, 榊寿右</u> : 頸椎疾患と手根管症候群 -double crush syndromeの臨床的検討-. <i>脳神経</i> 57(10):883-887, 2005
					3	<u>飯田淳一, 橋本宏之, 榊寿右, 石田泰史</u> : 手掌部小切開による直視下手根管開放術 -長期治療成績に基づいた手術適応とそのタイミング-. 第60回日本脳神経外科学会総会 岡山 2001.10
116	脳神経外科学	金 永進	助手	外科系臨床医学(てんかんの外科的治療)	1	<u>Kim Y.J., Yukawa E., Kawasaki K., Nakase H., Sakaki T.</u> : Use of multifocal visual evoked potential tests in the objective evaluation of the visual field in pediatric epilepsy surgery. <i>J Neurosurg (3 Suppl Pediatrics)</i> 104:160-165, 2006
					2	<u>Kim Y.J., Yukawa E., Nakase H., Sakaki T.</u> : Objective evaluation of the visual field in pediatric epilepsy surgery using the multifocal visual evoked potential. <i>Epilepsia</i> 46(Suppl.3):23, 2005
					3	<u>Kim Y.J., Nakase H., Park Y-S, Shin Y., Sakaki T.</u> : Spinal extradural arachnoid cyst in the thoracic. <i>J Nara Med Ass</i> 56(1):49-53, 2005

117	脳神経外科学	朴 永紘	助手	外科系臨床医学(小児脳神経外科と脊髄外科の研究)	1	Nakase H.,Matsuda R.,Shin Y., <u>Park Y-S.</u> ,Sakaki T. : The use of ultrasonic bone curettes in spinal surgery.Acta Neurochir(Wien)148(2):207-213,2006
					2	<u>Park Y-S.</u> ,Nakase H.,Kawaguchi S.,Sakaki T.,Nikaido Y.,Morimoto T. : Predictors of outcome of surgery for cervical compressive myelopathy:Retrospective analysis and prospective study .Neurol Med Chir(Tokyo)46(5):231-239,2006
					3	Nakase H.,Matsuda R.,Tamaki R.,Tei R., <u>Park Y-S.</u> ,Sakaki T. : Two-stage management for vertebral osteomyelitis and epidural abscess. Neurosurgery 58(6) (in press), 2006
118	脳神経外科学	三島秀明	助手	外科系臨床医学(定位的放射線治療)	1	<u>三島秀明</u> , 平林秀裕, 川口正一郎, 榊寿右, 玉本哲郎 : 定位放射線治療装置Novalisの使用経験. 第14回日本定位放射線治療学会 大阪 2005.9
					2	<u>三島秀明</u> , 平林秀裕, 新靖史, 飯田淳一, 川口正一郎, 榊寿右 : Neuronavigationにおけるsurface registration system "Z-touch"の有用性. 第63回日本脳神経外科学会総会 名古屋 2004.10
					3	<u>三島秀明</u> , 平松謙一郎, 竹嶋俊一, 榊寿右 : 若年・中年で発症した虚血性脳血管障害の原因究明. 第60回日本脳神経外科学会総会 岡山 2001.10
119	脳神経外科学	藤本京利	助手	外科系臨床医学(悪性髄膜腫)	1	<u>藤本京利</u> , 飯田淳一, 中瀬裕之, 平林秀裕, 川口正一郎, 榊寿右 : 前頭葉脳動静脈奇形の外科治療. 第35回日本脳卒中の外科学会 横浜 2006.3
					2	<u>藤本京利</u> , 飯田淳一, 川口正一郎, 榊寿右, 川合省三 : Atypical meningiomaの治療戦略. 第64回日本脳神経外科学会総会 横浜 2005.10
					3	<u>藤本京利</u> , 川合省三, 米澤泰司, 枅井勝也, 西憲幸, 伏見博彰, 虎頭廉 : 線維筋性形成異常症に伴う破裂解離性椎骨動脈瘤の1例. 大阪府病医誌 25:42-46, 2002
120	脳神経外科学	本山 靖	助手	外科系臨床医学(虚血性脳血管障害の外科治療)	1	<u>Motoyama Y.</u> , Hashimoto H., Ishida Y., Iida J. : Spontaneous rupture of a presumed colloid cyst of the third ventricle. Dementia review series issue 4:22-24, 2003

					2	<u>Motoyama Y.</u> , Hashimoto H., Ishida Y., Iida J. : Spontaneous rupture of a presumed colloid cyst of the third ventricle —Case report—. Neurol Med Chir (Tokyo) 42(5):228–231, 2002
					3	<u>Motoyama Y.</u> , Satow T., Higuchi K., Isaka F., Yamazoe N., Nabeshima S. : Hemorrhagic arachnoid cyst of the posterior fossa: A case of report. J Nara Med Ass 53(3):173–177, 2002
121	脳神経外科学	西村文彦	助手	外科系臨床医学(脳腫瘍学、養子免疫療法について研究)	1	<u>Nishimura F.</u> , Dusak JE., Eguchi J., Zhu X., Gambotto A., Storkus WJ., Okada H. : Adoptive transfer of type 1 CTL mediates effective anti-CNS tumor response: Critical roles of IFN-inducible protein-10. Cancer Research, 66(8):4478–4487, 2006
					2	<u>Nishimura F.</u> , Kuwashima N., Eguchi J., Sato H., Hatano M., Tsugawa T., Sakaida T., Dusak JE., Fellows-Mayle WK., Papworth GD., Watkins SC., Gambotto A., Pollack IF., Storkus WJ., Okada H. : Delivery of DCs engineered to secrete IFN- $\alpha$ into central nervous system tumors enhances the efficacy of peripheral tumor cell vaccines: Dependence on apoptotic pathways. J Immunol 175: 2730–2740, 2005
					3	Eguchi J., Kuwashima N., Hatano H., <u>Nishimura F.</u> , Dusak JE., Storkus WJ., Okada H. : IL-4-transfected tumor cell vaccines activate tumor-infiltrating dendritic cells and promote type-1 immunity. J Immunol 174:7194–201, 2005
122	胸部・心臓血管外科学	谷口繁樹	教授	外科系臨床医学(重症心不全に対する再生療法)	1	Tatsuya Kiji, <u>Shigeki Taniguchi</u> , 他4名. Activation of regenerating gene Reg in rat and human hearts in response to acute stress. Am J Physiol Heart Circ Physiol 289:H277–284, 2005
					2	Tatsuya Kiji, <u>Shigeki Taniguchi</u> , 他7名. Enhancement of cell viability in cryopreserved rat vascular grafts by administration of regenerating gene (Reg) inducers. J Vasc Res 40:132–139, 2003
					3	Takashi Ueda, <u>Shigeki Taniguchi</u> , 他4名. Dose Skeletonization compromise the integrity of internal thoracic artery grafts? Ann Thorac Surg 75:1429–1433, 2003
123	胸部・心臓	東条 尚	助教授	外科系臨床医	1	スーパーローテート各科研修シリーズ

	血管外科学			学（肺癌の外科治療、気管移植に関する研究）	入院から退院までの外科必修マニュアル。東条 尚、森田孝夫（編者）、谷川浩隆、辻 美隆。羊土社。2006年。
					2 Takashi Tojo. Prognosis of stage I non-small cell lung cancerpatients with positive pleural lavage cytology. 11th World Conference on Lung Cancer. Barcelona, Spain. 2005年7月3日-6日。
					3 Takashi Tojo. CT findings of Large Cell Neuroendocrine Carcinoma. Chest 2002. San Diego, California. 2002年11月2日-7日。
124	胸部・心臓血管外科学	亀田陽一	講師	外科系臨床医学（心臓血管外科）	1 亀田陽一他9名. 開心術後の胸骨深部感染の検討: 第35回日本心臓血管外科学会学術総会. 浜松. 2005.2
					2 Yoichi Kameda他4名. Aortopulmonary fistula due to perforation of the aortic wall of a freestyale stentless valve. Ann Thorac Surg 78(5), 1827-1829, 2004
					3 Yoichi Kameda他4名. Aorto-pulmonary fistula due to perforation of the aortic wall of a freestyale stentless valve. Aortic Surgery Symposium IX. New York, 2004. 4
125	胸部・心臓血管外科学	辻 毅嗣	学内講師	外科系臨床医学（重症不全心の遺伝子治療）	1 TSUYOSHI TSUJI 他12名,Rat cardiac contractile dysfunction induced by Ca2+ overload; possible link to the proteolysis of alpha-fodrin, Am J Physiol HC 281, H1286-H1294, 2001
					2 Tsuji T, del Monte F, Hayase M, J. Luis Guerrero, Abe T, Yoshikawa Y, Kobayashi S, Taniguchi S, Takaki M, Hajjar R,J.: Efficient cardiac gene transfer using percutaneous aortic occlusion technique in the rat. Molecular Therapy vol.7(5): S238, 2003.
					3 Federica del Monte, Djamel Lebeche, J. Luis Guerrero, Tsuyoshi Tsuji, Angelia A. Doye, Judith K. Gwathmey, and Roger J. Hajjar: Abrogation of ventricular arrhythmias in a model of ischemia and reperfusion by targeting myocardial calcium cycling. PNAS vol.101(15):5622-5627, April 13, 2004.
126	胸部・心臓血管外科学	多林伸起	助手	外科系臨床医学（血管外科）	1 Tabayashi N, Yoshikawa Y, Abe T, Taniguchi S.: Long-term Result of Femoro-axillary Bypass for Takayasu Disease with Subclavian Steal Syndrome. 34 <sup>th</sup> Annual Symposium on Vascular Surgery. Las Vegas, March 8-11, 2006.

					2	Tabayashi N, Abe T, Taniguchi S, Takaki M ;Oxygen costs of left ventricular contractility for dobutamine and Ca in normal rat hearts and the cost for dobutamine in ca overload-induced failing hearts. Japanese journal of physiology, Vol52, 163-171
					3	多林伸起、亀田陽一、吉川義朗、阿部毅寿、田村大和、栗田俊之、畠田和善、谷口繁樹。大動脈手における対麻痺予防のためのmotor evoked potential (MEP) の役割。第58回日本胸部外科学会総会。岡山コンベンションセンター、2005年10月。
127	胸部・心臓血管外科学	吉川義朗	助手	外科系臨床医学（心臓血管外科）	1	Y. Yoshikawa et.al. Calpain inhibitor-1 protects the rat heart from ischemia-reperfusion injury: analysis by mechanical work and energetics. Am J Physiol Heart Circ Physiol.288(4)/2005年/H1690-8
					2	吉川義朗、高木都 心不全におけるエネルギー利用 日本薬理学雑誌123(2)/2004年/77-86
					3	吉川義朗 新 心臓血管外科管理ハンドブック/先天性心疾患の管理/東京/南江堂 2005年/164-167,178-182,185-186,201-204
128	胸部・心臓血管外科学	長阪重雄	助手	外科系臨床医学（心臓血管外科）	1	<b>Nagasaka S</b> 他6名. In vivo study of effects of cryopreservation on xenotransplantation with heart valves. Cardiovasc Pathol. 14, 2005, 70-79.
					2	<b>Nagasaka S</b> 他3名. A Technique of snaring method for fitting a prosthetic valve into the annulus. J Cardiac Surg. 20, 2005, 65-67.
					3	<b>Nagasaka S</b> 他4名. Surgical closure of coronary arteriovenous fistulas draining into the pulmonary artery using OPCAB technique. J Cardiovasc Surg (Torino). 45, 2005, 159-160.
129	胸部・心臓血管外科学	阿部毅寿	助手	外科系臨床医学（心臓血管外科）	1	阿部毅寿、他7名。MIDCABテクニックを用いた再々冠状動脈バイパス手術: axillo-coronary bypassの一例: 日本心臓血管外科学会雑誌 30巻2号 p.86-88 2001
					2	Takehisa Abe,他10名. Left ventricular diastolic dysfunction in type 2 diabetes mellitus model rats: Am J Physiol Heart Circ Physiol 282 : H138-H148 2002
					3	阿部毅寿、他13名。Off pump CABG 100例の検討: 第31回 日本心臓血管外科学会学術総会、2001.2。宇部
130	胸部・心臓血管外科学	木村通孝	助手	外科系臨床医学（呼吸器外科）	1	木村通孝、他4名. 肺原発Lymphoepithelioma-like carcinomaの1例. 第23回日本呼吸器外科学会総会. 2006.5

					2	木村通孝、他6名. GGO病変を有する微小肺腫瘍におけるFDG-PET診断の限界. 第106回日本外科学会定期学術集会. 2006.3
					3	M. Kimura, 他5名. Can FDG-PET reduce the need for bronchoscopy in potentially respectable stage I lung cancer? 11th World Conference on Lung Cancer. Spain. 2005. 7
131	胸部・心臓 血管外科学	早田義宏	助手	外科系臨床医学 (胸部外科学)	1	T.Kiji, Y.Hayata.: Relationship Between Immunological Rejection and Matrix GLA Protein in Cryopreserved Vascular Allografts, Transplantation Proceedings Vol. 36 pp. 2415-2417 2004
					2	早田義宏、谷口繁樹lateral MIDCABを用いた冠状動脈バイパス術日本心臓血管外科雑誌 32巻5号 318-321 2003
					3	早田義宏、谷口繁樹 SPY Intraoperative Imaging Systemでの吻合直後のグラフト血流の確認 第47回関西胸部外科学会学術集会 2004年
132	胸部・心臓 血管外科学	田村大和	助手	外科系臨床医学 (重症心不全に関する研究)	1	Yamato Tamura 他3名. Re-do mitral valve replacement using the valve-on-valve technique: A case report. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 11(2): 125-127, 2005
					2	Yamato Tamura 他3名. Ectopic pancreas in the anterior mediastinum. Jpn J Thorac and Cardiovasc Surg. 53(9): 498-501, 2005
					3	田村大和. 新規ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬N-(2-aminophenyl)benzamidはイソプロテレノール誘導可逆的心肥大および左室機能障害を抑制しない. 第27回日本循環制御医学会. 東京. 2006.
133	整形外科学	高倉義典	教授	外科系臨床医学 (足の外科、 関節リウマチ、 スポーツ医学)	1	Yoshinori Takakura,: Tarsal tunnel release. An Atlas of Foot and Ankle Surgery, Sec, Ed., Taylor & Francis, London & New York, p291-294, 2005.
					2	高倉義典. :スポーツ傷害による足の痛みの治療. 痛みと治療、5: 370-378, 2005.
					3	山本晴康編、高倉義典分担. 人工関節. 足の外科の要点と盲点. 文光堂、東京、p288-291, 2006.
134	整形外科学	矢島弘嗣	助教授	外科系臨床医学 (手の外科)	1	Hiroshi Yajima, Yasunori Kobata, Toru Yamauchi, Yashinori Takakura. Advanced Kienbock's disease treated with implantation of a tendon roll and temporary partial fixation of the wrist. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 38, 2004, 340-346.

					2	Hiroshi Yajima, Yasunori Kobata, Koji Shigematsu, Kenji Kawamura, Shohei Omokawa, Yashinori Takakura. Dysvascular lower extremity reconstruction using free flaps with a "Y" configuration of the arterial pedicl. J Reconstr Microsurg 20, 2004, 291-295.
					3	Hiroshi Yajima, Yasunori Kobata, Yasuharu Tomita, Kenji Kawate, Kazuya Sugimoto, Yashinori Takakura. Ankle and pantalar arthrodeses using vascularized fibular grafts. Foot and Ankle 25, 2004, 1-7.
135	整形外科	田中康仁	講師	外科系臨床医学(足の外科学)	1	Tanaka Y, Takakura Y: The TNK ankle : Short- and mid-term results. Die TNK-Sprunggelenkprothese Kurz- und mittelfristige Ergebnisse.Orthopade; 2006. May;35(5):546-51
					2	Tanaka Y, Omokawa S, Ryu J, Clovis N, Takakura Y. Anatomical consideration of vascularized bone graft transfer from the medial calcaneus to the talus. Clin Anat. 2005 Feb 4;18(2):115-120
					3	Tanaka Y, Takakura Y, Taniguchi A, Sugimoto K, Kumai T, Fukui A: Partial tarsal arthrodesis for rheumatoid feet. Mod Rheumatol, 14: 130-134, 2004.
136	整形外科	植田百合人	講師	外科系臨床医学(脊椎)	1	Ueda Y, Yoshikawa T, Koizumi M, Iida J, Miyazaki K, Nishiyama S, Matsuyama E, Kugai A, Takeshima T, Takakura Y, Cervical laminoplasty combined with muscle release in patients with athetoid cerebral palsy .Spine.30.2420-2423.2005
					2	植田百合人、吉川隆章、小泉宗久、飯田仁、宮崎潔、橋本敏、Alexei Vinogradov. ペディクルスクリューの1折損例:原因分析と今後の対策案。日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌。4. 33-35. 2005
					3	植田百合人、松山悦啓、吉川隆章、非吸収性ポリエチレンを用いた頸椎固定術、杉岡洋一篇、先端医療シリーズ8 整形外科、162-165。先端医療技術研究所。東京。2000
137	整形外科	川手健次	学内講師	外科系臨床医学(股関節外科に関する研究)	1	Kawate K, Yajima H, Tomita Y, Sugimoto K, Ohmura T, Hiyoshi N, Takakura Y . Four-angle radiographic assessment of cement mantle thickness in cemented total hip arthroplasty. J

					Arthroplasty. 18. 2003. 914-919.
					2 Kawate K, Tanaka Y, Ohmura T, Hiyoshi N, Yajima H, Tomita Y, Takakura Y. Twenty-five years followup of patients who had valgus osteotomy for arthritic hips. Clin Orthop. 426. 2004. 151-158.
					3 川手健次、矢島弘嗣、高倉義典、玉井 進. 大腿骨頭壊死症に対する遊離血管柄付き腓骨移植術の中期成績. 骨・関節・靭帯. 18. 2005. 1105-1108.
138	整形外科	熊井 司	学内講師	外科系臨床医学 (スポーツ医学、スポーツ傷害の病態および治療学)	1 Kumai T, Takakura Y, Rufai A, Milz S, Benjamin M : The Functional Anatomy of the Human Anterior Talofibular Ligament in Relation to Ankle Sprain. J. Anat 200: 457-465, 2002.
					2 熊井 司、高倉義典:スポーツ外傷・障害 診療マニュアル. 青木治人編 2005年1月15日第1版第1刷発行. 東京. 古谷 勲. 全日本病院出版会. 2005. 298頁.
					3 熊井 司 (教育研修講演)Enthesopathyの病態 - enthesis organ conceptによる新しい捉え方 - 第30回日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会 東京 2004年7月2-3日
139	整形外科	朴木寛弥	助手	外科系臨床医学 (骨軟部腫瘍の分子病理学的研究)	1 Honoki K, Mii Y. Molecular genetics of bone and soft tissue tumors. New Perspectives in Cancer Research and Therapy,( Kuriyama S ed..) Research Signpost, Kerala, India, 2005, pp309-323
					2 Honoki K, Yoshitani K, Tsujiuchi T, Mori T, Tsutsumi M, Morishita T, Takakura Y, Mii Y. Growth inhibition and induction of apoptosis by flavopiridol in rat lung adenocarcinoma, osteosarcoma and malignant fibrous histiocytoma cell lines.Oncol Rep. 2004 May;11(5):1025-30.
					3 Honoki K, Tsujiuchi T, Mori T, Yoshitani K, Tsutsumi M, Takakura Y, Mii Y. Expression of the p16INK4a gene and methylation pattern of CpG sites in the promoter region in rat tumor cell lines .Mol Carcinog. 2004 Jan;39(1):10-4.
140	整形外科	大村哲司	助手	外科系臨床医	1 十字プレートを用いた臼蓋再建術の成績 日本整

				学 (股関節)	形外科学会学術総会
					2
					3
141	整形外科	小島康宣	助手	外科系臨床医学 (手の外科、マイクロサージャリー、リウマチ)	1 小島康宣、矢島弘嗣、重松浩司、河村健二、高倉義典:MRSA骨髄炎に対する血管柄付き腓骨移植術,中部整災誌49,2006,369-370
					2 小島康宣、矢島弘嗣、重松浩司、河村健二、前川尚宜、高倉義典:血管柄付き腓骨移植採取後の合併症としての槌指変形の検討、日本整形外科学会、横浜、2006.5
					3 小島康宣、服部耕治、矢島弘嗣、高倉義典、池内健:薄型超音波プローブを用いた手関節部軟骨定量評価の試み,中部整災誌、43,2003,805-806
142	整形外科	幅田 孝	助手	外科系臨床医学(整形外科)	1 Habata T, Uematsu K, Hattori K, Kasanami R, Takakura Y, Fujisawa Y: High tibial osteotomy that does not cause recurrence of varus deformity for medial gonarthrosis. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc (in press)
					2 Habata T, Uematsu K, Hattori K, Kasanami R, Takakura Y, Fujisawa Y: How to diagnose isolated articular cartilage lesions of the knee in a consulting room. J Orthopaed Traumatol 6: 21-25, 2005.
					3 Habata T, Uematsu K, Hattori K, Takakura Y, Fujisawa Y: Clinical features of the posterior horn tear in the medial meniscus. Arch Orthop Trauma Surg 124: 642-645, 2004.
143	整形外科	城戸 顕	助手	外科系臨床医学 (プロテアーゼ活性制御による腫瘍および骨関節疾患の実験的治療)	1 Kido A et al. Protease expression in interface tissues around loose arthroplasties. Clin Orthop Relat Res. 425:2004:230-6.
					2 Kido A et al. Inhibitory effect of antisense aminopeptidase N cDNA transfection on the

						invasive potential of osteosarcoma cells. Clin Exp Metastasis 20(7):2003:582-92.
					3	Kido A et al. Telomerase activity in juxacortical and conventional high-grade osteosarcomas: correlation with grade, proliferative activity and clinical response to chemotherapy. Cancer Lett. 20(7):2003:109-15.
144	口腔外科学	桐田 忠昭	教授	歯学 (口腔癌に関する基礎的臨床的研究)	1	Kirita T. New perspectives in cancer research and therapy. 1st. ed. Kerala, India, Research Singnpost 2005, 269-295.
					2	Yasumoto J, Kirita T, Takahashi A, Ohnishi K, 他3名. Apoptosis-related gene expression after hyperthermia in human tongue squamous cell carcinoma cells harboring wild-type or mutated-type p53. Cancer Lett 204, 2003, 41-51.
					3	Kirita T, Ohgi K, Kawakami M, Miyawaki S, 他2名. Primary tumour resection of tongue carcinoma based on response to preoperative therapy. Int J Oral Maxillofac Surg 31, 2002, 267-272.
145	口腔外科学	川上 哲司	講師	歯学 (伸展ストレスによる顎関節滑膜細胞の応答とその制御)	1	Kawakami T, Inoue T, Ogawa J, 他3名. Osteochondroma of the mandibular condyle. Asian J Oral Maxillofac Surg 17(2), 2005, 125-130.
					2	Miyawaki S, Ohkochi N, Kawakami T, Sugimura M. Changes in masticatory muscle activity according to food size in experimental human mastication. J Oral Rehabil 28, 2001, 1-7.
					3	Kawakami M, Yamamoto K, Inoue M, Kawakami T, 他2名. Morphological differences in the temporomandibular joints in asymmetrical prognathism patients. Orthod Craniofac Res 9, 2006, 71-76.
146	口腔外科学	山本 一彦	講師	歯学 (シクロオキシゲナーゼ2インヒビターによる口腔癌の化学予防)	1	Shiotani H, Denda A, Yamamoto K, 他6名. Increased expression of cyclooxygenase-2 protein in 4-nitroquinoline 1-oxide-induced rat tongue carcinomas and chemopreventive efficacy of a specific inhibitor, nimesulide. Cancer Res 61(4) 2001, 1451-1456.

					2	Yamamoto K, Kitayama W, Denda A, 他3名. Inhibitory effects of selective cyclooxygenase-2 inhibitors, nimesulide and etodolac, on the development of squamous cell dysplasias and carcinomas in the tongue of rats initiated by 4-nitroquinoline 1-oxide. Cancer Lett 199(2) 2003, 121-129.
					3	Yamamoto K, Kitayama W, Denda A, 他4名. Suppressive effect of a selective cyclooxygenase-2 inhibitor, etodolac, on 4-nitroquinoline 1-oxide-induced rat tongue carcinogenesis. Exp Toxicol Pathol 56(3) 2004, 145-151.
147	口腔外科学	川上 正良	学内講師	歯学 (顎顔面の形態発生と形成異常)	1	Inoue M, Kawakami M, Tatsumi K, Manabe T, Makinodan M, Matsuyoshi H, Kirita T, Wanaka A. Expression and regulation of the LIM homeodomain gene L3/Lhx8 suggests a role in upper lip development of the chick embryo. Anat Embryol 211, 2006, 247-254.
					2	Kawakami M, Inoue M, Richman JM. Cell dissociation experiments reveal that positional information operates in the chicken frontonasal mass. Genesis 44, 2006, 105-114.
					3	Kawakami M, Yamamoto K, Noshi T, Miyawaki S, Kirita T. Effect of surgical reduction of the tongue on dentofacial structure following mandibular setback. J Oral Maxillofac Surg 62, 2004, 1188-1192.
148	口腔外科学	藤本 昌紀	助手	歯学 (骨再生に関する研究)	1	藤本昌紀、堀内克啓、山本一彦、他4名。 顎裂部骨移植と骨内インプラントを行った唇顎口蓋裂患者の2例。 日口腔インプラント誌 14(4), 2001, 610-618.
					2	藤本昌紀、山本一彦、川上正良、他5名。 奈良県立医科大学口腔外科における20年間の口唇口蓋裂患者の臨床統計的検討。 日口蓋裂誌 28(3), 2003, 1-12.
					3	梶原淳久、山本一彦、藤本昌紀、他6名。 皮質骨付海綿骨ブロックによる顎列部自家骨移植についての臨床的検討。 日口外誌 50(11), 2004, 636-642.
149	口腔外科学	大儀 和彦	助手	歯学 (口腔癌の頸部リンパ節転移に関する)	1	大儀和彦、桐田忠昭、山中康嗣、他3名。 開口障害および片側顔面痙縮を伴った破傷風の1例。 日口外誌 48(7), 2002, 370-373.

				研究)		
					2	大儀和彦、山中康嗣、関東里衣、他6名。 高井病院歯科口腔外科開設後5年間における新患者の臨床的観察。 奈医学誌 54(2), 2003, 103-112.
					3	大儀和彦、館林茂、藤本昌紀、他6名。 血管柄付腓骨皮弁による下顎骨再建に関する臨床統計学的検討。 第50回日本口腔外科学会総会 大阪 2005,10.23-25.
150	口腔外科学	館林 茂	助手	歯学 (W-3脂肪酸の口腔癌術前投与の有用性に関する研究)	1	Yamamoto K, Ohgi K, Fujimoto M, Murakami K, Inoue M, Imai Y, Tatebayasi S, Kawakami M, Kirita T. Treatment of mandibular fractures in infants. Asian J Oral Mxillofac Surg 17(1), 2005, 40-44.
					2	Kirita T, Kajihara A, .Choudhury CR, Tatebayasi S, 他3名. A patient with untreated tongue carcinoma surviving for 15years. Int J Oral Maxillofac Surg 34, 2005, 324-327.
					3	Morimoto Y, Tatebayashi S, Imai Y, Kirita,T. Efficacy of vancomycin-impregnated cement beads for the treatment of MRSA infection of failed graft tissue at the mandible. J Oral Maxillofac Surg 63, 2005, 1234-1238.
151	口腔外科学	今井 裕一郎	助手	歯学 (温熱療法に対するシャペロン療法に関する研究)	1	Imai Y, Ohnishi K, Yasumoto J, 他5名。 Glycerol enhances radiosensitivity in a human oral squamous cell carcinoma cell line (Ca9-22)bearing a mutant <i>p53</i> gene via Bax-mediated induction of apoptosis. Oral Oncol 41(6), 2005, 631-636.
					2	Yasumoto J, Kirita T, Takahashi A, Imai Y, 他3名。 Apoptosis-related gene expression after hyperthermia in human tongue squamous cell carcinoma cells harboring wild-type <i>p53</i> . Cancer Lett 204(1),2004, 41-51.
					3	Yasumoto J, Imai Y, Takahashi A, 他4名。 Analysis of apoptosis-related gene expression after X-ray irradiation in human tongue squamous cell carcinoma cells harboring wild-type or mutated <i>p53</i> gene. J Radiat Res 44(1),2003,41-45.

152	産婦人科学	小林 浩	教授	産婦人科学 (婦人科腫瘍)	1	Kobayashi H, et al. Suppression of urokinase receptor expression by thalidomide is associated with inhibition of nuclear factor kappa B activation and subsequently suppressed ovarian cancer dissemination. Cancer Res. 65 (22): 10464-10471, 2005.
					2	Kobayashi H, et al. A soybean Kunitz trypsin inhibitor reduces tumor necrosis factor-alpha production in ultraviolet-exposed primary human keratinocytes. Experimental Dermatol. 14 (10): 765-774, 2005.
					3	Inagaki K, Kobayashi H, et al. Suppression of urokinase expression and invasion by a soybean trypsin inhibitor are mediated through inhibition of Src-dependent signaling pathways. J. Biol. Chem. 280 (36): 31428-31437, 2005.
153	産婦人科学	北中孝司	講師	産婦人科学 (妊娠高血圧症)	1	北中孝司、日高敦夫、友田昭二、中本收 分娩時子宮収縮と母体循環動態 日本妊娠中毒症学会雑誌 11巻 2003年 p106-108
					2	水田裕久、北中孝司、山崎峰夫、森川肇 妊娠中毒症妊婦に対する塩分制限の有効性に関する検討 日本妊娠中毒症学会雑誌 12巻 2004年 p1-13
					3	北中孝司、春田紀子、水田裕久、山崎峰夫、他2名 腎病変と妊娠中毒症 -腎生検組織からの検討- 腎と透析 53巻 2002年 p643-647
154	産婦人科学	山田嘉彦	講師	臨床外科学 (婦人科悪性腫瘍)	1	山田嘉彦、金山清二、川口龍二、山崎峰夫、森川肇. 子宮内膜癌の血管新生と進展に与える肝細胞増殖因子の影響と作用機序. 日本産科婦人科学会. 2005.4 京都
					2	山田嘉彦. 陣痛促進を行った分娩で重度新生児仮死が発生し低酸素性虚血性脳障害を残したケース、早産児に対する酸素療法と眼底検査. 産婦人科医事紛争一判例解説と医学解説. 近畿産科婦人科学会常任 編集委員会. 217~218. 216~216. 2001
					3	山田嘉彦. 帝王切開. リスクマネージメントの実際 産婦人科領域-医療安全管理のポイント. 医薬ジャーナル社. 195~207. 2003
155	産婦人科学	佐道俊幸	助手	産婦人科学 (更年期医学)	1	佐道俊幸, 斎藤 滋, 森川 肇. ラット骨髄stromal cell培養系における $17\beta$ -estradiolの骨形成促進作用機序に関する研究. 日本産科婦人科学会雑誌. 54, 2002, 1457-1466.
					2	佐道俊幸, 吉田昭三, 森岡信之, 他4名. 室戸沖海洋深層水の飲用が閉経周辺期婦人の骨代謝に与える短期的影響. 産婦人科の進歩, 56, 2004, 77-84.
					3	Toshiyuki Sado. Studies on the effects of taking of partially desalinated deep seawater on bone metabolism and blood

						pressure in postmenopausal women with osteopenia or osteoporosis. Health Aspects of Calcium and Magnesium in Drinking water. Baltimore, USA, April 24-26, 2006.
156	産婦人科学	坂田麻理子	助手	産婦人科学 (周産期医学)	1	坂田麻理子、川上香織、小出直哉、望月昭彦、渡辺紀子、北川道弘. 分娩の難易度の予測-安全で快適なお産をめざして-難産対策new step-. 周産期医学36巻1号,2006 Page9-12.
					2	坂田麻理子、伊藤真也、村島温子、北川道弘、名取道也. 妊娠・授乳と選択的セロトニン再取り込み阻害薬-selective serotonin reuptake inhibitor:SSRI-(I). 周産期医学36巻4号,2006 Page509-513.
					3	1. 坂田麻理子、伊藤真也、村島温子、北川道弘、名取道也. 妊娠・授乳と選択的セロトニン再取り込み阻害薬-selective serotonin reuptake inhibitor:SSRI-(II). 周産期医学36巻5号,2006 Page655-658.
157	産婦人科学	吉田昭三	助手	外科系臨床医学 (産婦人科学:周産期医学)	1	(論文)Shozo Yoshida et al. Absorption of magnesium in intestinal loop syudied by multitracer technique.産婦人科の進歩56(2)p53-61,2004
					2	(論文)吉田昭三ほか.妊娠中の至適体重増加-周産期予後と関連して-母体への影響について.日産婦栄養・代謝研究会誌11(1)p38-41,2005
					3	(著書)森川肇 吉田昭三.妊娠中毒症とマグネシウム.Clinical Calcium15(2)p69-75,2005
158	産婦人科学	川口龍二	助手	産婦人科学(婦人科腫瘍学)	1	胎盤におけるthrombopoietin(TPO)の発現とその生物学的作用に関する研究.川口龍二、山田嘉彦、山崎峰夫、森川 肇.産婦人科の進歩.第55巻4号,2003,388-399.
					2	妊婦における全血血小板凝集能の解析-screen filtration pressure(SFP)法を用いて-.川口龍二、山崎峰夫、山田嘉彦、森川 肇.日本産婦人科・新生児血液学会誌.第14巻2号,2004,12-21.
					3	術前の血中D-Dimer値測定と超音波カラードップラー法による深部静脈血栓症スクリーニングに関する検討.川口龍二、阪本義晴、森川 肇.日本産婦人科・新生児血液学会誌.第15巻2号,2006,1-8.
159	産婦人科学	水田 裕久	助手	産婦人科学 (妊娠高血圧腎症)	1	森川 肇、水田裕久、佐道俊幸 著変なく経過したあとに典型的な常位胎盤早期剥離を発症.した一例。臨床婦人科産科,59.2.152-157.2005
					2	水田裕久、佐道俊幸、小林 浩. 妊娠に合併した深部静脈血栓症の治療 産婦人科の進歩 57,3,315-317,2005
					3	原田直哉、吉田昭三、水田裕久、森川 肇. 妊娠中の栄養と

						食事.周産期医学、35巻増刊、2005
160	産婦人科学	金山 清二	助手	産婦人科学(婦人科腫瘍学)	1	金山清二、閉経周辺期婦人における尿失禁の頻度と性ホルモンの関連についての検討、日本産婦人科学会、京都 17年4月
					2	金山清二、子宮内膜癌における血管新生とcyclooxygenase-2発現に与える肝細胞増殖因子の影響、日本癌学会、札幌、17年9月
					3	金山清二、肝細胞増殖因子はCOX-2の発現を介して子宮内膜癌細胞のアノキス抵抗性を高める、日本産婦人科学会、横浜、18年4月
161	眼科学	原 嘉昭	教授	外科系臨床医学(眼科学)	1	原嘉昭：Low Vision(低視力者)への対応. 大阪府眼科医会 低視覚者社会適応訓練講習会；大阪市, 2005. 7.
					2	原嘉昭：透析患者の眼合併症の文献的考察. 奈良県眼科医会学術定例会 特別講演；橿原市, 2005. 11.
					3	原嘉昭：見逃されると危険なスポーツ障害と初期対応 スポーツと眼障害. 第19回奈良県スポーツ医・科学研究会 奈良トレーニングセミナー2006；広陵町, 2006. 2.
162	眼科学	名和 良晃	助教授	外科系臨床医学(眼科学)	1	Y. Nawa, K. Masuda, T. Ueda, Y. Hara, H. Uozato : Evaluation of apparent ectasia of the posterior surface of the cornea after keratorefractive surgery. Journal of Cataract and Refractive Surgery : 31 ; 571-573, 2005
					2	Y. Nawa, M. Okamoto, H. Tsuji, T. Ueda, M. Kanzaki, Y. Hara : Dioptric changes in eyes with reversed intraocular lenses. Journal of Cataract and Refractive Surgery : 31 ; 586-589, 2005
					3	Y. Nawa, O. Hatanaka, Y. Hara, S. Ishizaka : A case of conjunctival leech infestation. Japanese Journal of Ophthalmology : 50 ; 64-65, 2006
163	眼科学	松浦 豊明	講師	外科系臨床医学(眼科学)	1	T. Matsuura, Y. Hara, F. Taketan, E. Yukawa, S. Maruoka, K. Kawasaki, M. Annaka : Volume Phase Transition of Bovine Vitreous Body in Vitro and Determination of Its Dynamics. Biomacromolecules : 5 ; 1296-1302, 2004
					2	T. Matsuura, Y. Hara, S. Maruoka, K. Kawasaki, S. Sasaki, M. Annaka : Dynamic Light Scattering Studies on the Calf Vitreous Body. Macromolecules : 37 ; 7784 - 7790, 2004
					3	T Matsuura : Artificial heat sensitive vitreous body. Interdisciplinary Club for Biomaterials and Regenerative Medicine in Ophthalmology (ICBRO) ; Rockville, MD, USA, 2005.4
164	眼科学	湯川 英一	学内講師	外科系臨床医学(眼科学)	1	E. Yukawa, Yeong-Jin Kim, K. Kawasaki, F. Taketani, Y. Hara : A Child with Epilepsy in Whom Multifocal VEPs Facilitated the

					Objective Measurement of the Visual Field. <i>Epilepsia</i> : 46 ; 577-579, 2005
					2 新田進人, 湯川英一, 峯正志, 竹谷太, 福原潤, 原嘉昭 : 正常眼圧緑内障に対する0.12%イソプロピルウノプロストン点眼単独投与の臨床効果. <i>あたらしい眼科</i> : 23 ; 401-404, 2006
					3 湯川英一, 吉井稔章, 竹谷太, 原嘉昭, 葛城良昌 : 奈良僻地検診における眼疾患と受診状況について. <i>Journal of Nara Medical Association</i> : 57 ; 27-30, 2006
165	眼科学	竹谷 太	助手	外科系臨床医学(眼科学)	1 F. Taketani, E. Yukawa, T. Yoshii, Y. Sugie, Y. Hara : Influence of intraocular lens optical design on high-order aberrations. <i>Journal of Cataract &amp; Refractive Surgery</i> : 31 ; 969-972, 2005
					2 F. Taketani, E. Yukawa, T. Ueda, Y. Sugie, M. Kojima, Y. Hara : Effect of tilt of 2 acrylic intraocular lenses on high-order aberrations. <i>Journal of Cataract &amp; Refractive Surgery</i> : 31 ; 1182-1186, 2005
					3 F. Taketani, G. Yoon, Y. Hara : Theoretical Improvement In Retinal Image Quality When Correcting Higher Order Aberration With Partially And Fully Customized IOLs. <i>Association for Research in Ophthalmology &amp; Visual Science (ARVO)</i> ; Ft.Lauderdale, FL, USA, 2006. 4.
166	眼科学	石橋 秀俊	助手	外科系臨床医学(眼科学)	1 石橋秀俊, 松浦豊明, 川崎健輔, 丸岡真治, 太田文生, 原嘉昭 : 糖尿病網膜症における硝子体の屈折率変化. 第57回日本臨床眼科学会 屈折調節研究会 ; 名古屋市, 2003. 10.
					2 石橋秀俊, 松浦豊明, 原嘉昭 : パーフルオロカーボンを用いた無水晶体眼の巨大裂孔. 奈良県眼科医会学術定例会・第12回集談会 ; 橿原市, 2005. 2.
					3 石橋秀俊, 松浦豊明 : 糖尿病における屈折変化. <i>日本の眼科</i> : 77 ; 149-150, 2006
167	眼科学	丸岡 真治	助手	外科系臨床医学(眼科学)	1 丸岡真治, 松浦豊明, 川崎健輔, 太田文生, 原嘉昭, 安中雅彦, 児玉亮 : ポリビニールアルコールハイドロゲルを用いた人工硝子体のカニクイザルでの生体適合性. 第108回日本眼科学会 ; 東京, 2004. 4.
					2 丸岡真治, 名和良晃, 原嘉昭 : 近視LASIKにOrbscanで測定した角膜厚が過小評価される理由の考察. 第29回角膜カンファランス・第21回日本角膜移植学会 ; 徳島市, 2005. 2.
					3 S. Maruoka, Y. Nawa, K. Masuda, T. Ueda, Y. Hara, H. Uozato : Under estimation of corneal thickness by Orbscan after myopic correction. <i>Journal of Cataract and Refractive Surgery</i> : 31 ; 1854, 2005
168	眼科学	上田 哲生	助手	外科系臨床医学(眼科学)	1 T. Ueda, Y. Nawa, K. Masuda, H. Ishibashi, Y. Hara, H. Uozato : Posterior corneal surface changes after hyperoptic laser in

					<p>situ keratomileusis. Journal of Cataract and Refractive Surgery : 31 ; 2084-2087, 2005</p> <p>2 T. Ueda, Y. Nawa, K. Masuda, H. Ishibashi, Y.Hara, H. Uozato : Relationship Between Corneal Aberrations and Contrast Sensitivity After Hyperoptic Laser in Situ Keratomileusis. Japanese Journal of Ophthalmology : 50 ; 147-152, 2006</p> <p>3 T. Ueda, Y. Nawa, Y.Hara : Relationship between the retinal thickness of the macula and the difference in axial length. Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology : 244 ; 498-501, 2006</p>
169	眼科学	神崎麻美子	助手	外科系臨床医学(眼科学)	<p>1 神崎麻美子, 名和良晃, 榎田浩三, 石橋秀俊, 上田哲生, 原嘉昭 : 遠視LASIK後のIOL度数予測を行った1例. 臨床眼科 : 58 ; 1015-1017, 2004</p> <p>2 神崎麻美子, 辻英之, 名和良晃, 原嘉昭 : 正視化パーソナルA定数の計算に最低限必要な症例数. 第20回日本眼内レンズ屈折手術学会 ; 京都市, 2005.6</p> <p>3 神崎麻美子, 湯川英一, 上田哲生, 太田丈生, 金永進, 原嘉昭 : 多局所視覚誘発電位測定を行った視神経炎の一例. 第110回日本眼科学会総会 ; 大阪市, 2006.4</p>
170	小児科学	吉岡 章	教授	内科系臨床医学(小児血液学, 血栓止血学)	<p>1 Nogami K, Shima M, Nishiya K, <u>Yoshioka A</u>, 他4名. Human factor VIII inhibitor alloantibodies with a C2 epitope inhibit factor Xa-catalyzed factor VIII activation : a new anti-factor VIII inhibitory mechanism. Thrombosis and Haemostasis. 87, 2002, 459-465.</p> <p>2 <u>Yoshioka A</u>, Fukutake K, Takamatsu J, Shirahata A, the Kogenate post-marketing surveillance study group. Clinical evaluation of a recombinant factor VIII preparation (Kogenate) in previously untreated with Hemophilia A. International Journal of Hematology. 78, 2003, 467-474.</p> <p>3 <u>Yoshioka A</u>. Products used to treat hemophilia : recombinant products. Textbook of Hemophilia. First published. UK, Blackwell Publishing Ltd, 2005, 136-141.</p>
171	小児科学	嶋 緑倫	助教授	内科系臨床医学(小児血液学, 血栓止血学)	<p>1 Nogami K, <u>Shima M</u>, Nishiya K, Hosokawa K, 他6名. A novel mechanism of factor VIII protection by von Willebrand factor from activated protein C-catalyzed inactivation. Blood. 99, 2002, 3993-3998.</p> <p>2 <u>Shima M</u>. Characterization of factor VIII inhibitors. International Journal of Hematology. 83, 2006,</p>

					109-118.
					3 Matsumoto T, <u>Shima M</u> , Takeyama M, Yoshida K, 他4名. The measurement of low levels of factor VIII or factor IX in hemophilia A and hemophilia B plasma by clot waveform analysis and thrombin generation assay. Journal of Thrombosis and Haemostasis. 4, 2006, 377-384.
172	小児科学	杉本充彦	講師	内科系臨床医学(血栓止血学)	1 Kuwahara M, <u>Sugimoto M</u> , Tsuji S, Matsui H, 他3名. Platelet shape changes and adhesion under high shear flow. Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology. 22, 2002, 329-334.
					2 Matsui H, <u>Sugimoto M</u> , Mizuno T, Tsuji S, 他3名. Distinct and concerted functions of von Willebrand factor and fibrinogen in mural thrombus growth under high shear flow. Blood. 100, 2002, 3604-3610.
					3 <u>Sugimoto M</u> , Matsui H, Mizuno T, Tsuji S, 他4名. Mural thrombus generation in type 2 A and 2 B von Willebrand disease under flow conditions. Blood. 101, 2003, 915-920.
173	小児科学	田中一郎	講師	内科系臨床医学(小児血液学, 血栓止血学)	1 Kasuda S, <u>Tanaka I</u> , Shima M, Matsumoto T, 他4名. Effectiveness of factor VIII infusions in haemophilia A patients with high responding inhibitors. Haemophilia. 10, 2004, 341-346.
					2 Hayashi T, <u>Tanaka I</u> , Shima M, Yoshida K, 他5名. Unresponsiveness to factor VIII inhibitor bypassing agents during hemostatic treatment for life-threatening massive bleeding in a patient with haemophilia A and a high responding inhibitor. Haemophilia. 10, 2004, 397-400.
					3 Ori J, <u>Tanaka I</u> , Kubota Y, Shima M, 他4名. Highly Conserved Antigenic Structure of the Factor VIII C2 Domain in Some Mammals. International Journal of Hematology. 82, 2005, 351-356.
174	小児科学	福田和由	助手	内科系臨床医学(小児科学, 小児血液学)	1 Kubo S, Nakajima M, <u>Fukuda K</u> , Nobayashi M, 他4名. A 4-year-old girl with autosomal dominant polycystic kidney disease complicated by a ruptured intracranial aneurysm. European Journal of Pediatrics. 163, 2004, 675-677.

					2	Sakurai Y, Shima M, Tanaka I, <u>Fukuda K</u> , 他2名. . Association of antiidiotypic antibodies with immune tolerance induction therapy for hemophilia A with inhibitors. Haematologica. 89, 2004, 696-703.
					3	<u>Fukuda K</u> , Naka H, Morichika S, Shibata M, 他3名. Inversions of the factor VIII gene in Japanese patients with severe Hemophilia A. International Journal of Hematology. 79, 2004, 303-306.
175	小児科学	野上恵嗣	助手	内科系臨床医学(血栓止血学)	1	<u>Nogami K</u> , Shima M, Nishiya K, Hosokawa K, 他6名. A novel mechanism of factor VIII protection by von Willebrand factor from activated protein C-catalyzed inactivation. Blood. 99, 2002, 3993-3998.
					2	<u>Nogami K</u> , Lapan KA, Zhou Q, , 他1名. Identification of a factor Xa-interactive site within residues 337-372 of the factor VIII heavy chain. The Journal of Biological Chemistry. 279, 2004, 15763-15771.
					3	<u>Nogami K</u> , Zhou Q, Myles T, Leung LL, 他2名. Exosite-interactive regions in the A1 and A2 domains of factor VIII facilitate thrombin-catalyzed cleavage of heavy chain. The Journal of Biological Chemistry. 280, 2005, 18476-18487.
176	小児科学	櫻井嘉彦	助手	内科系臨床医学(小児血液学, 血栓止血学)	1	<u>Sakurai Y</u> , Shima M, Tanaka I, Fukuda K, 他2名. . Association of antiidiotypic antibodies with immune tolerance induction therapy for hemophilia A with inhibitors. Haematologica. 89, 2004, 696-703.
					2	Kanazawa N, Okafuji I, Kambe N, <u>Sakurai Y</u> . 他15名. Early-onset sarcoidosis and Blau syndrome: the common genetic etiology with CARD15 mutations. Blood. 105, 2005, 1195-1197.
					3	<u>Sakurai Y</u> , Shima M, Omura S, Imai Y, 他2名. Successful treatment of multiple teeth extraction in two type 3 VWD patients with recombinant FVIII replacement. Blood Coagulation and Fibrinolysis. 17, 2006, 151-154.
177	小児科学	柴田 優	助手	内科系臨床医学(小児血液学)	1	Nogami K, Shima M, Nishiya K, <u>Shibata M</u> , 他6名. A novel mechanism of factor VIII protection by von Willebrand factor from activated protein C-catalyzed inactivation. Blood. 99, 2002, 3993-3998.

					2	Hayashi T, Yagi H, Suzuki H, <u>Shibata M</u> , 他6名. Low-dosage intravenous immunoglobulin in the management of a patient with acquired von Willebrand syndrome associated with monoclonal gammopathy of undetermined significance. Pathophysiology of Haemostasis and Thrombosis. 32, 2002, 33-39.
					3	<u>Shibata M</u> , Shima M, Misu H, Okimoto Y, 他2名. Management of haemophilia B inhibitor patients with anaphylactic reactions to FIX concentrates. Haemophilia. 9, 2003, 269-271.
178	小児科学	岸本朋子	助手	内科系臨床医学(小児血液学)	1	Mugishima H, Matsunaga T, Yagi K, <u>Kishimoto T</u> , 他6名. Phase I study of irinotecan in pediatric patients with malignant solid tumors. Journal of Pediatric Hematology/Oncology. 24, 2002, 94-100.
					2	Okumura T, <u>Kishimoto T</u> , Inoue M, Honda M, 他8名. Unrelated bone marrow transplantation for Epstein-Barr virus-associated T/NK-cell lymphoproliferative disease. Bone Marrow Transplantation. 31, 2003, 105-111.
					3	Inagaki J, Park YD, <u>Kishimoto T</u> , Yoshioka A. Successful unmanipulated haploidentical bone marrow transplantation from an HLA 2-locus-mismatched mother for Wiskott-Aldrich syndrome after unrelated cord blood stem cell transplantation. Journal of Pediatric Hematology/Oncology. 27, 2005, 229-231.
179	精神医学	岸本 年史	教授	内科系臨床医学(精神疾患の神経化学的研究)	1	Author 1,2, <u>Yoshino H</u> , Author 4, <u>Kishimoto T</u> , Dopamine profoundly suppresses excitatory transmission in neonatal rat hippocampus Via phosphatidylinositol-linked D1-like receptor. Neuroscience 138, 2006, 476-485.
					2	<u>Negoro H</u> , Author 1,2, <u>Kishimoto T</u> , Author 3, <u>Iida J</u> , Event-related potentials in adults with attention deficit/hyperactivity disorder (AD/HD) J Nara Medical Association 56, 2005, 127-135
					3	Author 1-4, <u>Morikawa M</u> , Author 5-7, <u>Iida J</u> , Author 8-12, <u>Kishimoto T</u> . High prevalence of the hepatitis C virus infection among the inpatients of schizophrenia and psychoactive substance abuse

						in Japan.Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiat 28:. 2004, 591-597.
180	精神医学	中川 康司	助教授	内科系臨床医学(老年期精神医学に関する研究)	1	<u>Nakagawa Y</u> , Author 1-6. Alminium Chloride dose not facilitate Deposition of human synthetic amyloid $\beta$ 1-42 peptide in the rat ventricular system Of a short-term infusion model. Neuropathology 25 2005, 195-200.
					2	<u>Nakagawa Y</u> , Author 1-10. Change in the post-discharge destinations from a senile dementia therapy ward in Japan: the second report. Psychogeriatrics 5. 2005, 3-8
					3	<u>中川康司</u> . 塩酸ドネペジルの投与により二年間進行を認めなかったアルツハイマー痴呆(認知症)の2例. 第20回日本老年精神医学会. 東京. 2005
181	精神医学	森川 将行	講師	内科系臨床医学(認知症の神経化学的研究)	1	<u>Morikawa M</u> , Author 1-11. Production and characterization of astrocyte-derived human apolipoprotein E isoforms from immortalized astrocytes and their interactions with amyloid- $\beta$ Neurobiology of Disease. 19. 2005, 66-76.
					2	Author 1-4, <u>Morikawa M</u> , Author 5-7, <u>Iida J</u> , Author 8-12, <u>Kishimoto T</u> . High prevalence of the hepatitis C virus infection among the inpatients of schizophrenia and psychoactive substance abuse in Japan.Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiat 28:. 2004, 591-597.
					3	Author 1, <u>Morikawa M</u> , Author 2-11, <u>Kishimoto T</u> . Effects of foods on the pharmacokinetics and clinical efficacy of quazepam. Jpn. J. Neuropsychopharmacol. 23. 2003, 205 - 210.
182	精神医学	井上 眞	学内講師	内科系臨床医学(脳機能画像に関する研究)	1	Author 1-6, <u>Inoue M</u> . Abnormal effective connectivity of dopamine D2 receptor binding in schizophrenia.Psychiatry research.138.2005, 197-207.
					2	Author 1-4, <u>Inoue M</u> , Author 5-9. Low dopamine d(2) receptor binding in subregions of the thalamus in schizophrenia. Am J Psychiatry. 161(6). 2004, 1016-22.

					3	Author 1-6, <u>Inoue M</u> , Author 7. Estimation of the time-course of dopamine D2 receptor occupancy in living human brain from plasma pharmacokinetics of antipsychotics. Int J Neuropsychopharmacol. 7(1). 2004, 19-26
183	精神医学	高橋 良斉	学内講師	内科系臨床医学 (精神疾患の神経化学的研究)	1	高橋良斉. うつ病と認知療法. 精神科. 7(1). 2005. 51-56.
					2	高橋良斉. パニック障害の薬物療法. こころの科学. 日本評論社. 107. 2003. 71-77
					3	高橋良斉. 日常臨床でDSM-IVをどう生かすか 精神科. 4(4). 2004. 257-261.
184	精神医学	井上 雄一朗	助手	内科系臨床医学 (精神疾患の分子生物学的研究)	1	Author 1-4, Inoue Y, Author 5. Activator of G protein signaling 3 regulates opiate activation of protein kinase A signaling and relapse of heroin-seeking behavior. PNAS 102. 2005, 8746-8751.
					2	<u>Morikawa M</u> , Author 1-5, <u>Inoue Y</u> , <u>Iida J</u> , <u>Kishimoto T</u> . Isolation and characterization of a new immortal rat astrocyte with a high Expression of NGF mRNA. Neuroscience Research 39. 2001, 205-212
					3	Author 1-3, <u>Inoue Y</u> , Author 4-7. Structure and promoter activity of the human glia maturation factor-gamma gene: a TATA-less, GC-rich and bidirectional promoter. Biochim Biophys Acta. Feb 20. 1625(3). 2003. 246-252.
185	精神医学	根来 秀樹	助手	内科系臨床医学 (児童思春期に関する研究)	1	<u>Negoro H</u> , Author 1,2, <u>Kishimoto T</u> , Author 3, <u>Iida J</u> , Event-related potentials in adults with attention deficit/hyperactivity disorder (AD/HD) J Nara Medical Association 56, 2005, 127-135
					2	Author 1, <u>Iida J</u> , Author 2, <u>Negoro H</u> , <u>Kishimoto T</u> . Association between minor physical anomalies and lateral ventricular enlargement in childhood and adolescent onset schizophrenia. Acta Psychiatrica Scandinavica 108. 147-151.
					3	<u>Iida J</u> , Author 1-3, <u>Negoro H</u> , <u>Kishimoto T</u> . Conspicuous Borderline Mentality in a 10-year-old Girl with Anorexia Nervosa. Japanese Journal of

					Child and Adolescent Psychiatry 43 Supplement. 2003, 33-43.
186	精神医学	芳野 浩樹	助手	内科系臨床医学 (精神疾患の細胞生理学的研究)	<p>1 Author 1,2, <u>Yoshino H</u>, Author 4, <u>Kishimoto T</u>, Dopamine profoundly suppresses excitatory transmission in neonatal rat hippocampus Via phosphatidylinositol-linked D1-like receptor. <i>Neuroscience</i> 138, 2006, 476-485.</p> <p>2 <u>芳野浩樹</u>. 精神医学の動向-海外文献紹介-ラットにおける生後早期の扁桃体の障害:精神疾患の神経発達モデルとして. <i>Schizophrenia Frontier</i> 3 (2). 2002 62.</p> <p>3 <u>芳野浩樹</u>, <u>岸本 年史</u>. 定型抗精神病薬からクエチアピンへと切り替えた症例について 精神分裂病治療における私の処方: クエチアピンを中心に 心療新社. 2002. 201-205</p>
187	精神医学	木内 邦明	助手	内科系臨床医学 (感情障害の神経化学的研究)	<p>1 <u>木内邦明</u>, <u>森川将行</u>, 著者1, <u>池下克実</u>, <u>飯田順三</u>, 著者2-5, <u>根来秀樹</u>, 著者6-15, <u>岸本 年史</u>. 奈良県立医科大学附属病院精神科における2000年度の新入院・外来患者臨床統計. <i>奈良医学雑誌</i> 56(2). 2005 91-95.</p> <p>2 <u>木内邦明</u>, 著者1, <u>岸野加苗</u>, <u>岸本 年史</u>. アリピプラゾール-aripiprazole- 最新精神医学. 2005 309-312.</p> <p>3 <u>木内邦明</u>. 酸化ストレスによるDamage-specific DNA binding protein 1 (DDB1)の核内移動. 第27回日本生物学的精神医学会. 2005</p>
188	精神医学	岸野加苗	助手	内科系臨床医学 (児童思春期に関する研究)	<p>1 <u>木内邦明</u>, 著者1, <u>岸野加苗</u>, <u>岸本 年史</u>. アリピプラゾール-aripiprazole- 最新精神医学. 2005 309-312.</p> <p>2 <u>岸野加苗</u>. 奈良県立医科大学精神科児童思春期外来における薬物治療の現状. 第46回日本児童青年精神医学会. 2005</p> <p>3 <u>岸野加苗</u>. 奈良県立医科大学精神科児童思春期外来における最近の患者動向について. <i>奈良医学雑誌</i>. 56(1). 2005. 15-21.</p>
189	精神医学	池下 克実	助手	内科系臨床医学 (総合病院精	<p>1 <u>木内邦明</u>, <u>森川将行</u>, 著者1, <u>池下克実</u>, <u>飯田順三</u>, 著者2-5, <u>根来秀樹</u>, 著者6-15, <u>岸本 年史</u>. 奈良県立医科大学附属病院精神科における2000年</p>

				神医学に関する研究)	<p>度の新入院・外来患者臨床統計. 奈良医学雑誌 56(2). 2005 91-95.</p> <p>2 池下克実, 著者2-6, 森川将行, 岸本年史. 天理よろづ相談所病院におけるせん妄の現状. Journal of Nara Medical Association 56 (5・6). 2005 225-228.</p> <p>3 池下克実. 天理よろづ相談所病院におけるせん妄の現状. 第14回奈良県精神障害者研究会. 橿原. 2004</p>
190	皮膚科学	宮川 幸子	教授	内科系臨床医学(自己免疫性皮膚疾患に関する研究)	<p>1 Miyagawa S, Niizeki H, Yamashina Y, Kaneshige T. Genotyping for HLA-A, B and C alleles in Japanese patients with pemphigus: prevalence of Asian alleles of the HLA-B15 family. Br J Dermatol 146, 2002, 52-58.</p> <p>2 Sontheimer RD, Miyagawa S. Potentially fatal interstitial lung disease can occur in clinically amyopathic dermatomyositis. Review. J Am Acad Dermatol 48, 2003, 797-798.</p> <p>3 Miyagawa S, Tanaka M, Okamoto S, Ishihara T, 他4名. Autoimmune thyroid disease in anti-Ro/SSA positive children with annular erythema: report of two cases. Br J Dermatol 150, 2004, 1005-1008.</p>
191	皮膚科学	浅田 秀夫	助教授	内科系臨床医学(感染症およびアレルギーに関する研究)	<p>1 Asada H, Miyagawa S, Sumikawa Y, Yamaguchi Y, 他7名. CD4+ T lymphocyte-induced Epstein-Barr virus reactivation in a patient with severe hypersensitivity to mosquito bites and Epstein-Barr Virus infected NK cell lymphocytosis. Arch Dermatol 139, 2003, 1601-1607.</p> <p>2 Kawamoto S, Oritani K, Asada H, Takahashi I, 他8名. Antiviral activity of limitin against encephalomyocarditis virus, herpes simplex virus, and mouse hepatitis virus: diverse requirements by limitin and alpha interferon for interferon regulatory factor 1. J Virol 77, 2003, 9622-9631.</p> <p>3 Asada H, Saito-Katsuragi M, Niizeki H, Yoshioka A, 他7名. Mosquito salivary gland extracts induce EBV-infected NK cell oncogenesis via CD4+ T cells in patients with hypersensitivity to mosquito bites.</p>

					J Invest Dermatol 125, 2005, 956-961.
192	皮膚科学	新関 寛徳	講師	内科系臨床医学(免疫・アレルギーおよび免疫遺伝学)	<p>1 Niizeki H, Yamashina Y, Asada H, Miyagawa S、他4名: Exclusion of the TAP1 and TAP2 genes within the HLA class II region as candidate susceptibility genes to pemphigus in the Japanese population. J Dermatol Sci 36 (2): 2004: 122-4</p> <p>2 Niizeki H, Inoko H, Streilein JW、他5名: The MICA5.1 allele is not associated with susceptibility to effects of ultraviolet-B radiation on induction of contact hypersensitivity. J Dermatol Sci 35(3): 2004:221-3</p> <p>3 新関寛徳、横井祥子、浅田秀夫、宮川幸子: 紫外線による皮膚免疫抑制効果におけるTLR4の役割、第30回日本研究皮膚科学会総会、横浜、2005年4月</p>
193	皮膚科学	小林 信彦	講師	内科系臨床医学(紫外線DNA 損傷およびメラニン色素合成系に関する研究)	<p>1 Kobayashi N, Katsumi S, Imoto K, Nakagawa A, 他3名. Quantitation and visualization of ultraviolet-induced DNA damage using specific antibodies: Application to pigment cell biology. Pigment Cell Res. 14, 2001, 94-102.</p> <p>2 Tadokoro T, Kobayashi N, Zmudzka BZ, Ito S, 他6名. UV-induced DNA damage and melanin content in human skin in racial/ethnic origin. FASEB J. 17, 2003, 1177-1179.</p> <p>3 Nishiwaki Y, Kobayashi N, Imoto K, Iwamoto T, 他8名. Trichothiodystrophy fibroblasts are deficient in the repair of UV-induced cyclobutane pyrimidine dimers and (6-4) photoproducts. J Invest Dermatol. 122, 2004, 526-532.</p>
194	皮膚科学	岡崎 愛子	助手	内科系臨床医学(皮膚免疫学)	<p>1 岡崎愛子、宮川幸子、全身疾患を伴う皮膚病変膠原病(SLE,皮膚筋炎、シェーグレエン症候群、強皮症)、Derma、93巻2004年134-138</p> <p>2 岡崎愛子、宮川幸子、ドセタキセル(タキソテール)による皮膚症状、皮膚科の臨床、45巻2003年581-584</p> <p>3 岡崎愛子、横井祥子、宮川幸子、インフリキシマブによる薬疹、第35回日本皮膚アレルギー学会学術大会、横浜市、2005年7月16-17日</p>

195	皮膚科学	前田真紀	助手	内科系臨床医学(自己免疫性皮膚疾患に関する研究)	1	田中真紀, 星野さち子, 古林郁乃, 山本純照,他4名. 皮下型Merkel cell carcinomaの2例. 臨床皮膚科 .第59巻. 2005.1230-1232
					2	Miyagawa S, Tanaka M, 他6名. Autoimmune thyroid disease in anti-Ro/SS-A-positive children with annular erythema: report of two cases.Br J Dermatol. 150.2004.1005-1008
					3	Ishikawa T, Sakurai Y, Tanaka M, 他5名. Ecthyma gangrenosum-like lesions in a healthy child after infection treated with antibiotics.22.2005.453-456
196	皮膚科学	桑原理充	助手	外科系臨床医学(創傷治癒に関する研究)	1	Masamitsu Kuwahara, Mitsuo Hatoko, Hideyuki Tada. E-cadherin expression in wound healing of mouse skin Journal of Cutaneous Pathology. 28, 2001 191-199.
					2	Masamitsu Kuwahara,Hideyuki Tada,Kumi Mashiba,Satoshi Yurugi他3名. Mortality and recurrence rate after pressure ulcer operation for elderly long-term bedridden patients. Annals of Plastic Surgery. 54, 2005, 632-639.
					3	Masamitsu Kuwahara,Satoshi Yurugi,Maiko Takeda,Kazuyoshi Fukuda Hemophilia B diagnosed by the hematoma at the columella base.Plastic and Reconstructive Surgery.117,2006 1647-1648.
197	皮膚科学	萬木 聡	助手	外科系臨床医学(形成・再建外科に関する研究)	1	萬木 聡, 他5名. 培養軟骨細胞における細胞外マトリックス産生に対する紫外線照射の影響. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会. 千葉. 2004.10
					2	萬木 聡, 波床光男, 多田英之, 田中 文, 他1名. 頬部唾液腺に生じた多形腺腫の2例. 日本形成外科学会会誌. 24. 2004. 299-304.
					3	Satoshi Yurugi. Usefulness and limitations of artificial dermis implantation for posttraumatic deformity. Aesthetic plastic surgery. 26. 2002. 360-364.
198	皮膚科学	飯岡弘至	助手	外科系臨床医学(形成・再建外科に関する研究)	1	飯岡弘至, 波床光男, 桑原理充, 田中 文, 新妻克宜.ラット背部皮弁挙上後、皮弁の各部位における72-kDストレス蛋白質(HSP72)の発現の差異. 日形会誌23, 2003, 423-328.
					2	飯岡弘至, 波床光男, 多田英之, 田中 文, 新妻克宜. 分層皮膚採取部癒痕に対するトラにラストと

					止痒剂(塩酸セチリジン)併用の効果. 日形会誌 23, 2003, 669-676.
					3 <u>Iioka H</u> , Hatoko M, Kuwahara M, Yurugi S, Niitsuma K. The longest known interval between commencement of intravenous infusion of gabexate mesilate and the development of a hand cyst. Eur J of PRS, 2006 (in press)
199	泌尿器科学	平尾佳彦	教授	外科系臨床医学(泌尿器科腫瘍学)	1 Uemura H, Fujimoto K, Tanaka M, Yoshikawa M, <u>Hirao Y</u> , Uejima S, Yoshikawa K, Itoh K: A phase I trial of vaccination of CA9-derived peptides for HLA-A24-positive patients with cytokine-refractory metastatic renal cell carcinoma. Clin Cancer Res. 12(6):1768-1775, 2006
					2 Hinotsu S, Akaza H, Isaka S, Kanetake H, Kubota Y, Kuroda M, Shinohara N, Shinka T, Tachibana M, Naito S, <u>Hirao Y</u> ; BCG Tokyo 172 Strain Study Group. Sustained prophylactic effect of intravesical bacille Calmette-Guerin for superficial bladder cancer: a smoothed hazard analysis in a randomized prospective study. Urology.67(3):545-549, 2006
					3 Y Chihara, K Sugano, A Kobayashi, Y Kanai, H Yamamoto, M Nakazono, H Fujimoto, T Kakizoe, K Fujimoto, S Hirohashi, <u>Y Hirao</u> : Loss of blood group A antigen expression in bladder cancer caused by allelic loss and/or methylation of the ABO gene Lab Invest 85(7):895-907, 2005
200	泌尿器科学	吉田克法	助教授	外科系臨床医学(泌尿器科・腎不全・移植・透析)	1 <u>K Yoshida</u> , T Yoneda, S Kimura, K Fujimoto, Y Hirao: Polyamines as an inhibitor on erythropoiesis of hemodialysis patients by in-vitro bioassay using the fetal mouse liver assay Ther Apher Dial in press 2006

					2	<u>K Yoshida</u> , T Yoneda, K Fujimoto, Y Hirao, N Konishi: Pentosidine and its deposition in renal tissue in renal transplantation Transplant proc. 37(10):4266-4272,2005
					3	<u>吉田克法</u> 、 <u>柏井浩三</u> 、 <u>岡谷 剛</u> 、 <u>青山秀雄</u> 、 <u>吉岡伸夫</u> 、 <u>斉藤守重</u> 、 <u>松本宗輔</u> 、 <u>三馬省二</u> 、 <u>田中正己</u> 、 <u>栗岡英行</u> 、 <u>椿 和央</u> 、 <u>花谷正和</u> 、 <u>井本 卓</u> 、 <u>天野 泉</u> 、 <u>白浜禧宣</u> 、 <u>田中宣道</u> 、 <u>原本順規</u> 、 <u>前川純子</u> 、 <u>大西徳信</u> 、 <u>妻谷憲一</u> 、 <u>浜野正義</u> 、 <u>本宮善恢</u> 、 <u>仲川嘉紀</u> 、 <u>森田 昇</u> 、 <u>益田真理</u> 、 <u>堀井康弘</u> 、 <u>大貫雅弘</u> 、 <u>雨宮 浩</u> 、 <u>吉江 貫</u> 、 <u>太田匡彦</u> 、 <u>田畑尚一</u> 、 <u>福井義尚</u> 、 <u>西浦公章</u> 、 <u>中辻史好</u> 、 <u>沢田 泉</u> 、 <u>藤井謙裕</u> 、 <u>林 需</u> 、 <u>齋藤能彦</u> 、 <u>平尾佳彦</u> 。奈良県における慢性透析患者の現況－1994年～2003年の統計的観察－。奈透析会誌。10(1):33-37,2005
201	泌尿器科学	藤本清秀	助教授	外科系臨床医学(泌尿器科腫瘍学)	1	A Hirayama, <u>K Fujimoto</u> , Y Matsumoto, Y Hirao. Nocturia in men with lower urinary tract symptoms is associated with both nocturnal polyuria and detrusor overactivity with positive response to ice water test. Urology. 65.6.2005.1064-1069
					2	K Yoshida, T Yoneda, <u>K Fujimoto</u> , Y Hirao, N Konishi. Pentosidine and its deposition in renal tissue in renal transplantation. Transplant proc. 37.10.2005.4266-4272
					3	<u>大園誠一郎</u> 、 <u>鶴 信雄</u> 、 <u>藤本清秀</u> 。特集：排尿障害の治療効果の評価 前立腺肥大症に伴う排尿障害の評価。排尿障害プラクティス。13.4.2005. 302-308
202	泌尿器科学	石橋道男	講師	外科系臨床医学(泌尿器科学 ・腎移植学、とくに膀胱移植術と慢性拒絶反応制御に関する研究 ・男性更年期障害の臨床研究)	1	<u>Ishibashi M</u> , Ito T, Sugitani A, Nakajima N, Abe A, Matsuno N., Hirao Y, Gotoh M, Tanaka M, Teraoka S, Matsuda H, Idezuki Y. and Kanazawa Y. Characteristics of pancreas transplantation currently performed in Japan. Transplant Proc 36.2004.1086-1089

					2	石橋道男、近藤秀明、千原良友、鳥本一匡、田中雅博、米田龍生、田中基幹、田中宣道、平山暁秀、藤本清秀、吉田克法、平尾佳彦 テストステロン補充治療試験からみたPADAM診断と治療効果 第94回日本泌尿器科学会総会.福岡.2006年4月14日
					3	石橋道男、アラン ワグナー、チャールズ ミオスコフスキー、キャタリン シルヴァン 臓器障害後の進行性病変に対する選択的予防治療薬特願 2000-289458 (2000年)
203	泌尿器科学	平山暁秀	学内講師	外科系臨床医学(泌尿器科・排尿障害)	1	A Hirayama, K Fujimoto, Y Matsumoto, S Ozono, Y Hirao: Positive response to ice water test associated with high-grade bladder outlet obstruction in patients with benign prostatic hyperplasia. Urology. 62.5. 2003.909-913
					2	A Hirayama, S Samma, A Yamaguchi, Y Fukui, Y Matsumoto, K Fujimoto, Y Hirao. Alpha-blocker test: Alternative to pressure-flow study of bladder outlet obstruction and detrusor contractility in patients without an enlarged prostate. Int J Urol. 11.1.2004.20-25
					3	A Hirayama, K Fujimoto, Y Matsumoto, Y Hirao. Nocturia in men with lower urinary tract symptoms is associated with both nocturnal polyuria and detrusor overactivity with positive response to ice water test. Urology, 65.6. 2005.1064-1069
204	泌尿器科学	米田龍生	学内講師	外科系臨床医学(泌尿器科・腎不全・移植・透析)	1	Yoneda T, Maruyama Y, Uji Y, Motomiya Y, Hashiguchi Y, Miura M, Kitajima I, Maruyama I. A possible role for leptin in normo- or hypoparathyroid uremic bone in postmenopausal dialysis women. J Bone Miner Metab. 19.2.2001.119-124
					2	米田龍生、吉田克法、松下千枝、池田朋博、その他7名.移植・血管外科.17.1.2005.56-61
					3	米田龍生、吉田克法、藤本清秀、平尾佳彦.透析患者の眼検診の検討.腎泌予防医

						誌.147.1.2006.109-111
205	泌尿器科学	田中宣道	助手	外科系臨床医学(泌尿器科学)	1	藤本清秀、吉井将人、 <u>田中宣道</u> 、田中基幹、その他6名. 腎細胞癌に対するmicrowave tissue coagulatorを用いた無阻血腎部分切除術. J Microwave Surg 23.2005.53-58
					2	藤本清秀、 <u>田中宣道</u> 、平尾佳彦. マイクロ波組織凝固装置を用いた腎部分切除術—術後再発と残腎機能—. 泌尿紀要 51.8.2005.511-515
					3	三宅牧人、 <u>田中宣道</u> 、松下千枝、田中雅博、田中基幹、藤本清秀、平尾佳彦. 会陰部より発生した近位型類上皮肉腫の1例. 日泌尿会誌 97.3.2006.602-606
206	泌尿器科学	田中雅博	助手	外科系臨床医学(泌尿器科学)	1	K Takashima, S Ozono, I Nakanou, M Ota, <u>M Tanaka</u> . Strain variation in renal carcinogenesis by N-ethyl-N-hydroxyethylnitrosamine in F1 (Wistar-Fischer) rats.Cancer letters.170.2.2001.125-130
					2	E Okajima, H Uemura, S Ohnishi, <u>M Tanaka</u> , et al. Expression of cyclooxygenase-2 in primary superficial bladder cancer tissue may predict risk of its recurrence after complete transurethral resection.Aktual Urol.34.4.2003.256-258
					3	<u>M Tanaka</u> , K Fujimoto, M Tanaka, N Tanaka, Y Hirao. Risk classification of removal cell carcinoma-NARA oncology Reseach Group Experience-. European Association of Urology. Paris. 2006.4.8
207	泌尿器科学	鳥本一匡	助手	外科系臨床医学(排尿機能に関する研究)	1	<u>Torimoto K</u> , Fraser MO, Hirao Y, de Groat WC, Chancellor MB, Yoshimura N. Urethral dysfunction in diabetic rats. J Urol.171.5.2004.1959-1964
					2	<u>Torimoto K</u> , Hirao Y, Matsuyoshi H, de Groat WC, Chancellor MB, Yoshimura N. $\alpha$ 1-Adrenergic mechanism in diabetic urethral dysfunction in rats. J Urol.173.3.2005.1027-1032
					3	Kamo I, Cannon TW, Conway DA, <u>Torimoto K</u> , Chancellor MB, de Groat WC, Yoshimura N. The role of bladder-to-urethral refluxes in urinary continence mechanisms in rats. Am J Physiol Renal Physiol. 287.3.2004.F434-441
208	耳鼻咽喉科学	細井裕司	教授	外科系臨床医学(難聴)	1	Hosoi H, Can we apply ultrasound to hearing aids for the profoundly deaf? Hearing Impairment, Springer, 2004, 237-

					240.
					2 Nishimura T, Nakagawa S, Sakaguchi T, Hosoi H, Ultrasonic masker clarifies ultrasonic perception in man, Hearing Research 175, 2003, 171-177
					3 特許第3422417号 発明の名称 体伝導聴覚機 特許権者 独立行政法人産業技術総合研究所、渡辺好章、細井裕司、協和電子工業株式会社、外池光雄、中川誠司 発明者 外池光雄、中川誠司、渡辺好章、細井裕司、岩下義春、橋本政一 平成15年4月25日
209	耳鼻咽喉科学	家根旦有	助教授	外科系臨床医学 (頭頸部外科)	1 Yane K, Hosoi H, Nakagawa H, Furutani K, Fuwa N. Superselective intraarterial chemotherapy through the superficial temporal artery for advanced head and neck cancers. New perspectives in cancer research and therapy (ed by Kuriyama, S and Yoshiji H). 2005, 297-307
					2 家根旦有: 遺伝子検査の臨床応用. 耳鼻臨床 98, 2005.673-680
					3 Yuki Kazue, Takahashi Akihisa, Ota Ichiro, Ohnishi Ken, Yasumoto, Jun-ichi, Yane Katsunari, Kanata Hirokazu, Okamoto Noritomo, Hosoi Hiroshi, Ohnishi Takeo: Sensitization by glycerol for CDDP-therapy against human cultured cancer cells and tumors bearing mutated p53 gene. Apoptosis 9, 2004. 853-859,
210	耳鼻咽喉科学	山中敏彰	講師	外科系臨床医学 (めまい平衡)	1 特集・めまい薬の上手な使い方 脳血管障害によるめまい MB ENT 53.2005. 116-121
					2 Inoue S, Yamanaka T, Kita T, et al.: Glutamate release in the rat medial vestibular nucleus following unilateral labyrinthectomy using in vivo microdialysis. Brain Res 991, 2003. 78-83
					3 山中敏彰. 【頭位性めまいをめぐる】後半規管型BPPVの病態と臨床像JOHNS22巻2号, 2006. 159-166
211	耳鼻咽喉科	岡本英之	助手	外科系臨床医	1 岡本英之, 家根旦有, 山中敏彰, 福田多介彦, 細

	学			学 (頭頸部外科)	井裕司.頭頸部癌に対するWeekly Docetaxel療法 癌と化学療法32(12), 2005. 1915-1918
					2 岡本英之, 家根旦有, 山中敏彰, 福田多介彦, 細 井裕司.頭頸部癌におけるTS-1の有用性. Jpn J Cancer Chemother 30(8, )2003. 1119-1124
					3 岡本英之, 山中敏彰, 村井孝行, 阪上詩乃, 清水 直樹, 細井裕司. 低酸素による遅発性障害に対す る前庭神経核ニューロンの耐性現象. 第64回日 本めまい平衡医学会総会・学術講演会.東京 2005.11.24-25
212	耳鼻咽喉科 学	村井孝行	助手	外科系臨床医 学 (めまい平衡)	1 村井孝行(奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科), 山中 敏彰, 細井裕司.PGE1の脳幹血流におよぼす影響. 頭頸部自律神経19巻,2004. 62-65
					2 村井孝行, 山中敏彰, 澤井八千代, 岡本英之, 福 田多介彦, 細井裕司起立性めまいの脳循環動態 の検討-MRAおよび超音波ドップラーからのアプ ローチー. 第64回日本めまい平衡医学会総会・学 術講演会. 東京. 2005.11.24-25
					3 村井孝行, 山中敏彰, 金澤成典, 岡本英之, 細井 裕司. 一過性脳幹部虚血による前庭神経核にお けるグルタミン酸レセプターおよびGABALレセプター mRNAの発現. 第61回日本めまい平衡医学会総 会. 富山. 2002.10.31-11.1
213	耳鼻咽喉科 学	福田多介彦	助手	外科系臨床医 学 (頭頸部外科)	1 福田多介彦, 谷口由希子, 細井裕司. 経皮的気管 穿刺針が原因と考えられた声門下狭窄の2例. 日 本気管食道科学会. 2005.04
					2 福田多介彦, 山中敏彰, 家根旦有, 細井裕司. 摘 出にFogartyカテーテルを用いた気管支異物症例. 日本気管食道科学会. 2004.04
					3 福田多介彦(奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科), 阪 上剛, 岡本英之, 金田宏和, 山中敏彰, 家根旦有, 細井裕司.当科における気道異物の臨床統計. 日 本気管食道科学会. 2003.04
214	耳鼻咽喉科 学	阪口剛史	助手	外科系臨床医 学 (音響と難聴)	1 阪口剛史, 平野孝仁, 渡辺好章, 西村忠己, 細井 裕司, 今泉敏, 中川誠司, 外池光雄.骨導超音 波の頭部内音場解析.電子情報通信学会論文誌 A, Vol. J84-A, No. 12, 2001.1541-1548.
					2 Sakaguchi T., Hirano T., Watanabe Y., Nishimura T., Hosoi H., Imaizumi S., Nakagawa S., and Tonoike M. Inner head acoustic field for bone-conducted sound calculated by FDTD method, Japanese

					Journal of Applied Physics, Vol. 41, No. 5B, 2002. 3604-3608.
					3 Takefumi Sakaguchi, Tadashi Nishimura, Yoshiaki Watanabe, Hiroshi Hosoi. Japanese Phoneme Recognition of Profoundly Deaf The Twenty-Ninth Annual Midwinter Research Meeting of the Association for Research in Otolaryngology, 29, 2006, 167
215	耳鼻咽喉科学	西村忠己	助手	外科系臨床医学 (難聴)	1 Nishimura Tadashi, Nakagawa Seiji, Sakaguchi Takefumi, Hosoi Hiroshi. Ultrasonic masker clarifies ultrasonic perception in man. Hearing Research 175, 2003. 171-177
					2 Nishimura Tadashi, Nakagawa Seiji, Sakaguchi Takefumi, Hosoi Hiroshi, Tonoike Mitsuo. Effect of a forward masker on the N1m amplitude: varying the signal delay. NeuroReport 14(6, )2003. 6891-893
					3 Nishimura Tadashi, Nakagawa Seiji, Sakaguchi Takefumi, Hosoi Hiroshi, Tonoike Mitsuo. Effect of stimulus duration for bone-conducted ultrasound on N1m in man. Neuroscience Letters. 327, 2002. 119-122
216	耳鼻咽喉科学	上條朋之	助手	外科系臨床医学 (頭頸部外科)	1 上條朋之, 西村忠己, 福田多介彦, 村井孝行, 岡本英之, 山中敏彰, 家根旦有, 細井裕司. 頭頸部癌におけるCDDP/5-FU/PEP併用療法の検討. 第29回日本頭頸部癌学会. 東京 2005.6.15-17
					2 Kamijyo Tomoyuki, Yokose Tomoyuki, Hasebe Takahiro, Yonou Hiroyuki, Hayashi Ryuichi, Ebihara Satoshi, Ochiai Atsushi. Image analysis of microvessel surface area predicts radiosensitivity in early-stage laryngeal carcinoma treated with radiotherapy. Clinical Cancer Research 7, 2001. 2809-2814
					3 上條朋之, 林隆一, 朝蔭孝宏, 松浦一登, 山崎光男, 宮崎眞和, 清野洋一, 木股敬裕, 桜庭実, 菱沼茂之, 齋川雅久, 大山和一郎, 海老原敏. 頸部食道がんの治療成績とその検討. 第27回日本頭頸部腫瘍学会. 金沢. 2003.6.25-27
217	放射線医学	吉川公彦	教授	内科系臨床医学 (放射線科)	1 吉川公彦, 打田日出夫, スtent, 医療材料・医療機器の安全性と生体適合性, 東京, シーエムシー

				学)	シ出版、2003、136-142
					2 吉川公彦、阪口昇二、東浦 渉、血管内治療のデバイス、血栓症ナビゲーター、東京株式会社メディカルレビュー社、2006年、260-261
					3 吉川公彦、阪口昇二、東浦 渉、高橋亜希、他7名、大動脈ステントグラフト治療における放射線科と血管外科のcollaboration、脈管学、45(9)、2005、583-588、
218	放射線医学	廣橋伸治	助教授	内科系臨床医学(放射線科学)	1 廣橋伸治、MR造影剤による肝機能の評価、機能・代謝画像診断法と分子画像、東京、南山堂、2003、224-230
					2 廣橋伸治、新しいSPIO(Resovist)の有用性、肝の最新MRI、東京、金原出版株式会社、2005、162-168
					3 廣橋伸治、RFA施行部のMR像：成犬肝ならびに剖検肝における組織学的対比、Selected Articles of MRI、8(1)、2005、7
219	放射線医学	中川裕之	講師	内科系臨床医学(放射線科学)	1 中川裕之、吉川公彦、高山勝年、坂本雅彦、他5名、頭頸部における経皮的血管形成術とstenting、IVR会誌、16(1)、2001、30-36
					2 中川裕之、吉川公彦、高山勝年、和田 敬、他6名、腕頭動脈狭窄に対するPalmaz stent 留置術—pull through techniqueの有用性の検討—、日本血管内治療学会誌、4、2003、14-16
					3 H Nakagawa,K Myouchin,T Wada,K Takayama、他5名、Selective catheterization through the superficial temporal artery for the head and neck tumor : comparison of percutaneous puncture and cut down method、XVIII SYMPOSIUM NEURORADIOLOGICUM、Australia、2006、3
220	放射線医学	阪口 浩	講師	内科系臨床医学(放射線科学)	1 阪口 浩、胆道ステント留置術. バルーン拡張術、IVRマニュアル、東京、医学書院、2002、213-219
					2 阪口 浩、肝細胞癌とIVR、肝・胆・膵疾患の最新医療、東京、先端医療技術研究所、2003、165-171
					3 阪口 浩、他治療(EMS,RT)との併用1.肝細胞癌 2.肝門部胆管癌に対するMS,RTとその併用、リザーバー療法、東京、南江堂、2003、184-187
221	中央放射線部	田岡俊昭	学内講師	内科系臨床医学(放射線科学)	1 T Taoka,M Sakamoto,S Iwasaki,H Nakagawa、他6名、Diffusion tensor imaging in cases with visual

				学)	field defect after anterior temporal lobectomy、AJNR、26、2005、797-803
					2 T Taoka,S Iwasaki,M Sakamoto,H Nakagawa、他5名、Diffusion anisotropy and diffusivity of white matter tracts within the temporal stem in alzheimer disease:evaluation of the`Tract of interest`by diffusion tensor tractography、AJNR、27、2006、1040-1045
					3 T Taoka,S Iwasaki,S Okamoto,M Sakamoto、他5名、Pituitary stalk compression by the dorsum sellae:possible cause for late childhood onset growth disorders、MRI、24、2006、651-656
222	放射線医学	阪口昇二	学内講師	内科系臨床医学(放射線科学)	1 阪口昇二、吉川公彦、出血に対するステントグラフト留置術(stent-grafting for bleeding)、IVRのキーワード175、東京、MEDICAL VIEW、2003、264-265
					2 阪口昇二、ASOの診断と治療、第4回痛みの臨床フォーラム、大阪、2005、11
					3 阪口昇二、吉川公彦、東浦 渉、森本賢吾、他5名、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療一癌径縮小に關与する因子の検討一、第65回日本医学放射線学会、パシフィコ横浜、2006、4月
223	放射線医学	伊藤高広	助手	内科系臨床医学(放射線科学)	1 伊藤高広、松尾祥弘、鎌田喜代志、浅川勇雄、他5名、経鼻上部消化管内視鏡検査の初期経験について、奈良医学雑誌、55、2004、57-62
					2 伊藤高広、松尾祥弘、吉川公彦、中西攝子、他11名、経鼻内視鏡検査による上部消化管検診の受容性に関する検討、日本消化器集団検診学会雑誌、43(1)、2005、20-27
					3 伊藤高広、丸上永晃、佐谷 徹、阪口 浩、他3名、自動注入システムによる小腸二重造影法一大視野FPD搭載装置の使用経験を含めて一、第65回日本医学放射線学会、パシフィコ横浜、2006、4月
224	放射線医学	西本優子	助手	内科系臨床医学(放射線科学)	1 西本優子、甲川佳代子、中島祐子、奥井友希子、他5名、MDCTによる肺嚢胞性病変診断における至適スライス厚:伸展固定肺を用いた基礎的検討、第274回日本医学放射線学会関西地方会、大阪、2003、6
					2 西本優子、甲川佳代子、中島祐子、吉川公彦、他4名、リンパ管進展を伴った悪性胸膜中皮腫の一例、第14回奈良県肺癌研究会、奈良、2003、6

					3	Y Nishimoto,M Takahashi,K Murata,K Kichikawa、 Detectability of various sizes of honeycombing cysts in an inflated and fixed lung specimen:the effect of CT section thickness、Korean J Radiol、 6(1)、2005、17-21
225	放射線医学	東浦 涉	助手	内科系臨床医学(放射線科学)	1	東浦 涉、阪口昇二、吉川公彦、平井都始子、末梢動脈エコーの意義、血管エコー テクニックと意義、東京、インナービジョン、2006、142-146
					2	東浦 涉、吉川公彦、阪口昇二、久保田 靖、他9名、腸骨・下肢動脈急性閉塞に対する血管内治療、脈管学、43、2003、225-228
					3	東浦 涉、吉川公彦、久保田 靖、阪口昇二、他3名、股関節屈曲における腸骨動脈の形態に及ぼすステントの影響—側面DSAによる検討—、日本血管内治療学会誌、5、2004、22-24
226	中央放射線部	田中利洋	助手	内科系臨床医学(放射線科学)	1	T Tanaka, Y Inaba, Y Arai, K Matsueda,他1名、 Mediastinal abscess successfully treated by percutaneous drainage using a unified CT and fluoroscopy system、The British Journal of Radiology、75、2002、470-473
					2	T Tanaka,Y Arai,Y Inaba,K Matsueda,他3名、 Radiologic Placement of Side-hole Catheter with Tip Fixation for Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy、JVIR、14、2003、63-68
					3	T Tanaka,H Sakaguchi,H Anai,K Yamamoto、他3名、 Catheter position for adequate intra-arterial chemotherapy for advanced pancreatic cancer:evaluation with CT during arterial injection of contrast material、JVIR、15(10)、2004、1089- 1097
227	集中治療部	佐々岡紀之	助手	麻酔科学	1	Sasaoka N, Kawaguchi M, Yoshitani K, Kato H, 他2名 Evaluation of genitofemoral nerve block, in addition to ilioinguinal and iliohypogastric nerve block, during inguinal hernia repair in children. Br J Anaesth. 94, 2005, 243-6
					2	Sasaoka N. Does the preconditioning with isoflurane rapidly induce ischemic tolerance against hypoxic-ischemic injury in the neonatal rat? American society of anesthesiologists. Atlanta. 2005. 10
					3	佐々岡紀之、古家仁. 麻酔科診療プラクティス17.

						東京. 文光堂. 2005. 2
228	麻醉科学	井上聡己	講師	麻醉科学	1	Satoki Inoue, Naoko Nishimine, Hitoshi Furuya. Unintentional Intrapleural Insertion of an Epidural Catheter:Should We Remove It or In Situ to Provide Perioperative Analgesia? Anestehsia and Analgesia 100, 266-268, 2005.
					2	Satoki Inoue, Daniel P.Davis, John C.Drummond, Daniel J.Cole, Piyush M. Patel The Combination of Isofluran and Caspase 8 Inhibition Results in Sustained Neuroprotection in Rats Subject to Focal Cerebral Ischemia Anestehsia and Analgesia. 102. 1548-55. 2006.
					3	Satoki Inoue, Masahiko Kawaguchi, Noriyuki Sasaoka, Katsuji Hirai, Hitoshi Furuya Effects of neuromuscular block on systemic and cerebral hemodynamics and bispectral index during moderate or deep sedation in critically ill patients Intensive Care Med. 32. 391-397. 2006.
229	麻醉科学	高橋正裕	助手	麻醉科学	1	Masahiro Takahashi, Masahiko Kawaguchi, Kenji Shimada, Toshikatsu Nakashima, Hitoshi Furuya Systemic Meloxicam Reduces Tactile Allodynia Development After L5 Single Nerve Injury in Rats Regional Anesthesia and Pain Medicine 30(4). 351-355. 2005. (1.766)
					2	
					3	
230	麻醉科学	川口昌彦	助教授	麻醉科学	1	Kurita N, Kawaguchi M, Hoshida T, Nakase H, Sakaki T, Furuya H. The effects of sevoflurane and hyperventilation on electrocorticogram spike activity in patients with refractory epilepsy. Anesth Analg. 2005;101(2):517-23
					2	Kawaguchi M, Furuya H, Patel PM. Neuroprotective effects of anesthetic agents. J Anesth 2005;19(2):150-6

					3	Kakimoto M, Kawaguchi M, Yamamoto Y, Inoue S, Horiuchi T, Nakase H, Sakaki T, Furuya H. Tetanic stimulation of the peripheral nerve before transcranial electrical stimulation can enlarge amplitudes of myogenic motor evoked potentials during general anesthesia with neuromuscular blockade. Anesthesiology 2005;102(4):733-8
231	麻酔科学	古家 仁	教授	麻酔科学	1	Kurita N, Kawaguchi M, Hoshida T, Nakase H, Sakaki T, Furuya H. The effects of sevoflurane and hyperventilation on electrocorticogram spike activity in patients with refractory epilepsy. Anesth Analg. 2005;101(2):517-23
					2	Kawaguchi M, Furuya H, Patel PM. Neuroprotective effects of anesthetic agents. J Anesth 2005;19(2):150-6
					3	Kakimoto M, Kawaguchi M, Yamamoto Y, Inoue S, Horiuchi T, Nakase H, Sakaki T, Furuya H. Tetanic stimulation of the peripheral nerve before transcranial electrical stimulation can enlarge amplitudes of myogenic motor evoked potentials during general anesthesia with neuromuscular blockade. Anesthesiology 2005;102(4):733-8
232	集中治療部	平井勝治	助教授	麻酔・蘇生学 (院内感染に関する研究)	1	平井勝治、ICUの環境整備—下足の履き替えとガウンや帽子の着用は必要か？—。日集中医誌、11:2004、180-181
					2	平井勝治、セフェム系抗生物質の単回静注と持続静注併用の有効性の検討—薬物動態からの検討。第32回日本集中治療医学会学術集会。東京、2005年2月。
					3	平井勝治、抗生物質の単回静注と持続静注併用の有効性の検討—薬物動態からの検討。第30回日本集中治療医学会学術集会。札幌、2003年2月。
233	麻酔科学	加藤晴登	助手	麻酔科学	1	加藤晴登, 佐々岡紀之, 吉谷健司, 鈴木敦裕. 高濃度セボフルラン吸入による麻酔導入が左室収縮能・拡張能に及ぼす影響—経胸壁心エコー法による評価—, 麻酔, 53, 2004, 34-39

					2	加藤晴登, 佐々岡紀之, 吉谷健司, 鈴木敦裕. プロポフォルによる麻酔導入が左室収縮能・拡張能に及ぼす影響—経胸壁心エコー法による評価—, 麻酔, 53, 2004, 761-766
					3	加藤晴登, 右衛門佐博千代, 鈴木敦裕. 難治性パージャー病に対し硬膜外脊髄刺激療法が著効した1症例, ペインクリニック, 23, 2002, 1738-40
234	麻酔科学	橋爪圭司	講師	麻酔科学	1	神経ブロックと画像 IV 神経根造影・神経根ブロック ペインクリニック, 26, 2005, 94-102
					2	当科ペインクリニックにおける他科対診依頼についての調査 日本慢性疼痛学会機関誌・慢性疼痛, 24, 2005, 47-50
					3	神経ブロックと画像 I 関節内注入法 ペインクリニック, 25, 2004, 1369-1378
235	麻酔科学	渡邊恵介	助手	麻酔科学	1	セボフルラーフェンタニル麻酔に亜酸化窒素ヲ併用する意義は低い 臨床麻酔, 29, 2005, 179-83
					2	DVTスコアとD-dimerを用いた術前DVT診断の取り組み 奈良県立奈良病院医誌, 9, 2005, 37-41
					3	針刺し後に神経因性疼痛をきたした5症例の検討 第35回日本慢性疼痛学会 2006, 24-25
236	麻酔科学	瓦口至孝	助手		1	
					2	
					3	
237	救急医学	奥地一夫	教授	外科系臨床医学(神経救急医学に関する研究)	1	Ohshige K, Shimazaki S, Hirasawa H, Okuchi K, 他8名. Evaluation of out-of-hospital cardiopulmonary resuscitation with resuscitative drugs: a prospective comparative study in Japan.. Resuscitation. 66, 2005, 53-61.
					2	Matsuyama T, Okuchi K, Seki T, Higuchi T. 他4名. Magnetic resonance images in hanging. Resuscitation. 69, 2006, 343-5.
					3	Okuchi K, Seki T, Nishiguchi T, Norimoto K, 他6名. Prediction about duration of unconsciousness period in diffuse axonal injury patients using MRI. The 3rd World Congress for Multidisciplinary Neurotraumatology. Nagoya, May 2005.

238	救急医学	西尾健治	助教授	外科系臨床医学(救急医学一般、敗血症およびDIC)	1	Tao Z, Wang Y, Choi H, Bernardo A, <u>Nishio K</u> , Sadler JE, Lopez JA, Dong JF. Cleavage of ultra-large multimers of Von Willebrand factor by C-terminal truncated mutants of ADAMTS-13 under flow. Blood. Mar 17; [Epub ahead of print] 2005
					2	<u>Nishio K</u> , Anderson PJ, Zheng XL, Sadler JE. Binding of platelet glycoprotein Ibalpha to von Willebrand factor domain A1 stimulates the cleavage of the adjacent domain A2 by ADAMTS13. Proc Natl Acad Sci U S A. Jul 20;101(29):10578-83. 2004.
					3	Zheng X, <u>Nishio K</u> , Majerus EM, Sadler JE. Cleavage of von Willebrand factor requires the spacer domain of the metalloprotease ADAMTS13. J Biol Chem. Aug 8;278(32):30136-41. 2003
239	救急医学	小延俊文	助手	外科系臨床医学(救急医学)	1	小延俊文、福島英賢 救急外来でみとる死 死をみとる1週間 医学書院 2002 66-73
					2	小延俊文他 鋭的頸部外傷による気道損傷 胸部外科 58(6) 2005 475-480
					3	小延俊文他 奈良県中・南和地区における病院前ショックパンツの現状 日本臨床救急医学会雑誌 8(5) 2005 369-372
240	救急医学	中村達也	助手	外科系臨床医学(外科学、救急医学)	1	中村達也他 重症肝損傷におけるDamage Control Surgery-非切除手術を中心に- 日本腹部救急医学会雑誌 25巻7号 2005 899-904
					2	中村達也他、腹腔内大量出血に対するDamage Control Surgery(DCS)の適応とタイミング 日本腹部救急医学会雑誌22巻7号 2002 1031-1038
					3	中村達也他 肝静脈・肝後面下大静脈損傷を伴うⅢb型肝損傷 日本腹部救急医学会雑誌 2001 21巻4号 2001 667-674
241	救急医学	畑 倫明	助手	外科系臨床医学(外科学、救急医学)	1	畑倫明、村尾佳則他 十二指腸潰瘍穿孔に対する腹腔鏡下大網充填術の有用性 日本臨床外科学会雑誌 62巻10号 2001 2375-2380
					2	畑倫明、村尾佳則他 奈良県立医科大学におけるドクターカーシステムの現状 日本臨床救急医学会雑誌 6巻3号 2003 281-286
					3	Michiaki Hata, Yoshinori Murao, et al Laparoscopic Treatment for Peripheral Duct Injury After Blunt Abdominal Trauma:Report of a Case Surgery Today 32 2002 659-662

242	救急医学	瓜園泰之	助手	外科系臨床医学(外科学、救急医学)	1	瓜園泰之他、外傷を契機に発症した甲状腺クリーゼの1例 日本臨床外科学会雑誌 66巻 2005 578-582
					2	瓜園泰之他、シートベルト着用に起因する小腸損傷の4例 日本臨床外科学会雑誌 66巻 2005 1634-1638
					3	瓜園泰之他、門脈ガスが短時間内に消失したNOMIの1例 日本腹部救急医学会雑誌 25巻 2005 669-672
243	救急医学	福島英賢	助手	外科系臨床医学(外科学、救急医学)	1	Hidetada Fukushima, et.al. Acute pulmonary edema associated with naphazoline ingestion. Clinical Toxicology. In press.
					2	福島英賢, 奥地一夫. 肺経由動脈熱希釈法による胸腔内血液容量・肺血管透過性測定. ICUとCCU 30(3); 2006, 179-185.
					3	福島英賢, 今西正己, 他. 院外心肺停止蘇生後症例のプレホスピタルケアに関する検討. 臨床救急医学会雑誌 5 (1); 2002, 43-47.
244	救急医学	谷口 晃	助手	外科系臨床医学(整形領域)	1	谷口晃 日本整形外科優秀ポスター賞 2001
					2	片山健、田中康仁、門野邦彦、谷口晃他 talocalcaneal coalitionia case showing the ossification process Foot Ankle Int 26 2005 490-493
					3	藤間保晶、田中康仁、大串始、谷口晃他 Early bone in-growth ability of alumina ceramic implants loaded with tissue engineered bone J Orthop Res 24 2006 595-603
245	救急医学	則本和伸	助手	外科系臨床医学(救急医学)	1	当院における小児救急搬送症例の検討 大阪医学 2003 22-24
					2	皮下気腫を合併した成人臍ヘルニア嵌頓の1例 日本臨床外科学会雑誌 8号 2004 232-235
					3	ハムスター咬傷によるアナフィラキシーショックの1例 日本臨床救急医学会雑誌 8号 2005 6-8
246	救急医学	西口貴司	助手	外科系臨床医学(救急医学)	1	拡張型心筋症を合併した進行性筋ジストロフィー患者に補助人工心臓を装着した1例 日本集中治療医学会雑誌 13 2006 151-155
					2	ダブルルーメン気管チューブを用いた左主気管支損傷の治療経験 日本外傷学会 2006
					3	外傷性窒息によるCPAの1例 奈良県救急医療懇話会 2006

247	救急医学	関 匡彦	助手	外科系臨床医学(救急医学)	1	関匡彦他、経皮経肝的治療にて改善した門脈上腸間膜静脈血栓症の1例 日本臨床医学会誌 8巻4号 2005 312-316
					2	関匡彦他、当救命センターにおける心肺停止症例とドクターカー出動症例の検討 第7回日本臨床救急医学会 2004
					3	関匡彦他、熱傷急性期の輸液管理における連続心拍出量測定装置(Picco)の使用経験 第32回日本救急医学会総会 2004
248	総合医療学	中村 忍	教授	内科系臨床医学(内科学一般、血液内科学)	1	Chen B, Tong Z, Ye Q, Nakamura S, Costabel U, Guzman J Expression of tumour necrosis factor receptors by bronchoalveolar cells in hypersensitivity pneumonitis. Eur Respir J 25(6): 1039-1043, 2005.
					2	Ohata M, Nakamura S, Fujita H, Isemura M Prognostic implications of p21 (Waf1/Cip1) immunolocalization in multiple myeloma. Biomedical Res 26(3): 91-98, 2005.
					3	Tsubakimoto A, Saito I, Mannami T, Naito Y, Nakamura S, Dohi Y, Yonemasu K Impact of metabolic syndrome on brachial-ankle pulse wave velocity in Japanese. Hypertension Res 29(1): 29-37, 2006.
249	総合医療学	藤本眞一	助教授	内科系臨床医学(内科学一般、循環器内科学)	1	前田光一、藤本眞一、団野大介、水野麗子、神野正敏、松村雅彦、藤本隆、中村 忍:臨床実習開始前の基本臨床技能教育における実習法の検討-担任制とローテーション制との比較-、医学教育 36(3): 193-198, 2005
					2	Yamaji K, Fujimoto S, Ikeda Y, Masuda K, Nakamura S, Saito Y, Yutani C.: Apoptotic myocardial cell death in the setting of arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy. Acta Cardiol 60(5):465-470, 2005.
					3	Danno D, Fujimoto S, Yamamoto Y, Mizuno R, Maeda K, Kanno M, Fujimoto T, Matsumura M, Nakamura S: Influence of patient/doctor relationship on the non-attendance rate of general practice, and investigation of reason for hospital

						non-attendance. General Medicine 16(1): 17-21, 2005
250	総合医療学	藤本 隆	講師	内科系臨床医学(膠原病・アレルギー・感染症内科学(自己免疫疾患の病態・成因に関する研究))	1	Niwa M, Fukuoka K, Fujimoto T, Maruyama IN Efficient isolation of cDNA clones encoding rheumatoid arthritis autoantigens by lambda phage surface display. J Biotechnol 114(1-2): 55-58, 2004
					2	Nishitani Y, Kubo A, Iwano M, Minamino N, Hamano T, Fujimoto T, Nishino T, Shiiki H, Yonemasu K, Dohi K Imbalance between interleukin-6 and adrenomedullin mRNA levels in peripheral blood mononuclear cells of patients with lupus nephritis. Clin Exp Immunol 124(2): 330-336, 2001
					3	出願人名: 武田誠司、古賀 震、原田 大、藤本隆、松尾克彦、丹羽幹夫 発明の名称: リウマチ性多発筋痛症抗体エピトープペプチド及びリウマチ性多発筋痛症の検査試薬 出願番号: 2004-297889 出願日: 平成16年10月12日
251	総合医療学	松村雅彦	講師	内科系臨床医学(内科学一般、消化器内科学)	1	Kojima K, Imazu H, Matsumura M, Honda Y, Umemoto N, Moriyasu H, Orihashi T, Uejima M, Morioka C, Komeda Y, Uemura M, Yoshiji H, Fukui H. Sclerotherapy for gastric fundal variceal bleeding: is complete obliteration possible without cyanoacrylate? J Gastroenterol Hepatol. Nov;20(11):1631-3.2005
					2	Danno D, Fujimoto S, Yamamoto Y, Mizuno R, Maeda K, Kanno M, Fujimoto T, Matsumura M, Nakamura S. Influence of the patient/doctor relationship on the non-attendance rate of general practice, and investigation of reasons for hospital non-attendance. Gen Med 6, 2005, 17-21
					3	前田光一、藤本眞一、團野大介、水野麗子、神野正敏、松村雅彦、藤本隆、中村忍: 臨床実習開始前の基本的臨床技能教育における実習法の検討ー担任制とローテーション制との比較ー. 医学教育36(3): 193-198, 2005.

252	総合医療学	神野正敏	講師	内科系臨床医学(内科学一般、血液内科学)	<p>1 Danno D, Fujimoto S, Yamamoto Y, Mizuno R, Maeda K, Kanno M, Fujimoto T, Matsumura M, Nakamura S. Influence of the patient/doctor relationship on the non-attendance rate of general practice, and investigation of reasons for hospital non-attendance. Gen Med 6, 2005, 17-21</p> <p>2 前田光一、藤本眞一、團野大介、水野麗子、神野正敏、松村雅彦、藤本隆、中村忍. 臨床実習開始前の基本的臨床技能教育における実習法の検討-担任制とローテーション制との比較-. 医学教育36、2005、193-198</p> <p>3 神野正敏 MALTリンパ腫 悪性リンパ腫・臨床と病理-ALTSGの研究から-、監修: 平野正美、編集: 成人リンパ腫治療研究会(ALTSG) 106-109頁、全227頁、先端医学社、東京、2005 リンパ芽球リンパ腫/白血病 悪性リンパ腫・臨床と病理-ALTSGの研究から-、監修: 平野正美、編集: 成人リンパ腫治療研究会(ALTSG) 146-150頁、全227頁、先端医学社、東京、2005</p>
253	総合医療学	前田光一	講師	内科系臨床医学(内科学一般、呼吸器内科学)	<p>1 Kasahara K, Maeda K, Mikasa K, Uno K, Takahashi K, Konishi M, Yoshimoto E, Murakawa K, Kita E, Kimura H: Clonal dissemination of macrolide-resistant and penicillin-susceptible serotype 3 and penicillin-resistant Taiwan 19F-14 and 23F-15 Streptococcus pneumoniae isolates in Japan: a pilot surveillance study. J Clin Microbiol 43(4): 1640-1645, 2005.</p> <p>2 Kasahara K, Kita E, Maeda K, Uno K, Konishi M, Yoshimoto E, Murakawa K, Mikasa K, Kimura H: Macrolide resistance of Streptococcus pneumoniae isolated during long-term macrolide therapy: difference between erythromycin and clarithromycin. J Infect Chemother 11(2): 112-114, 2005.</p>

					3	前田光一、藤本眞一、團野大介、水野麗子、神野正敏、松村雅彦、藤本隆、中村忍:臨床実習開始前の基本的臨床技能教育における実習法の検討ー担任制とローテーション制との比較ー. 医学教育36(3): 193-198, 2005.
254	病理診断学	野々村昭孝	教授	基礎医学 (人体病理学 ・外科病理学)	1	In vitro bone formation induced by immunosuppressive agent tacrolimus hydrate (FK506). Yoshikawa T, Nakajima H, Uemura T, Kasai T, Enomoto Y, Tamura T, <b>Nonomura A</b> , and Takakura Y. Tissue Engineering 11(3/4):609-617, 2005. (3.201)
					2	Activation of regenerating gene Reg in rat and human hearts in response to acute stress. Kiji T, Dohi Y, Takasawa S, Okamoto H, Nonomura A, Taniguchi S. Am J Physiol Heart Circ Physiol 289:H277-H284, 2005. (3.658)
					3	Nonomura A, Enomoto Y, Takeda M, Tamura T, Kasai T, Yoshikawa T, Nakamine H Invasive growth of hepatic angiomyolipoma: a hitherto unreported ominous histologic feature. Histopathology 48: 831-835, 2006. (2.952)
255	病理診断学	中峯 寛和	助教授	基礎医学 (血液病理学)	1	Yamamoto Y, Nakamine H, Nakamura S. Recurrent primary cutaneous large B-cell lymphoma after a long-term remission. Pathol Int (in press)
					2	中峯寛和, 吉野 正. 低悪性度B細胞リンパ腫. 悪性リンパ腫, 臨床と病理, ALTSGの研究から. 成人リンパ腫治療研究会(ALTSG), 編. 東京, 先端医学社, 2005, pp. 62-84.
					3	柴 亜伊子, 浅田秀夫, 宮川幸子, 中峯寛和, 他4名. CD30-positive anaplastic large cell lymphomaの1例. 皮膚の科学. 4, 2005, 462
256	病理診断学	笠井 孝彦	助手	基礎医学 (人体病理学 ・外科病理学)	1	Nobata K, Kasai T, Fujimura M, Mizuguchi M, Nishi K, Ishiura Y, Yasui M, Nakao S. Pulmonary sarcoidosis with usual interstitial pneumonia distributed predominantly in the lower lung fields. Intern Med. 2006 Jun;45(6):359-62. Epub 2006 Apr 17.

					2	Morimoto Y, Kim H, Oyabu T, Hirohashi M, Nagatomo H, Ogami A, Yamato H, Higashi T, Tanaka I, Kasai T. Effect of long-term inhalation of toner on extracellular matrix in the lungs of rats in vivo. Inhal Toxicol. 2005 Mar;17(3):153-9.
					3	異型腺腫様過形成と小型非粘液型細気管支肺胞上皮癌の腫瘍捺印細胞像-腫瘍細胞集団による鑑別:笠井孝彦, 宮崎玲子, 小野寺平, 杉本果林, 有倉一郎, 原武讓二:日本臨床細胞学会雑誌41巻6号 Page381-387(2002.11)
257	病理診断学	榎本 泰典	助手	基礎医学 (消化器病理学)	1	榎本泰三、稲次直樹、吉川周作、高村寿雄、増田勉、内田秀樹、大野 隆、園尾広志、山岡健太郎、山口貴也、野々村昭孝、榎本泰典大腸sm癌の内視鏡治療後の再発・転移に対する早期発見のためのフォローアップ法1) 健生会奈良大腸肛門病センター 2) 奈良県立医科大学 病理診断学講座胃と腸, vol39, No13 1765~1772
					2	リンパ節梗塞を伴った古典的Hodgkinリンパ腫の1例榎本泰典、中峯寛和、笠井孝彦、田村智美、武田麻衣子、野々村昭孝、島田啓司第95回 日本病理学会総会 平成18年4月30日~5月2日 京王プラザホテル
					3	Dysembryoplastic neuroepithelial tumorの3例榎本泰典、笠井孝彦、田村智美、武田麻衣子、野々村昭孝、奥田浩司、藤本憲太第94回 日本病理学会総会 平成17年4月~16日に パシフィコ横浜
258	病理診断学	武田麻衣子	助手	基礎医学 (小児病理学)	1	・巨細胞性心筋炎の1剖検例 奈良県立医科大学病理診断学講座:武田麻衣子, 笠井孝彦, 榎本泰典, 田村智美, 中峯寛和, 野々村昭孝.第95回日本病理学会総会(平成18年5月1日)
					2	・肉腫や肉腫様癌との鑑別が問題となった腔前庭部悪性黒色腫の1例. 奈良県立医科大学 病理診断学講座:武田麻衣子, 笠井孝彦,, 野々村昭孝同 病理病態学講座島田啓司, 小西登第44回日本臨床細胞学会秋期大会.(平成17年11月12日)
					3	・腎血管筋脂肪腫の一例. 奈良県立医科大学病理診断学講座:武田麻衣子, 笠井孝彦, 野々村昭孝.第46回日本臨床細胞学会春期大会(平成17

					年5月27日)
259	放射線腫瘍 医学	長谷川 正 俊	教授	内科系臨床医 学（放射線 腫瘍学に関す る研究）	<p>1 <u>Hasegawa M</u>, Kojima M, Shioya M, Tamaki Y, et al. (6). Treatment results of radiotherapy for malignant lymphoma of the orbit and histopathologic review according to the WHO classification. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 57, 2003, 172-176.</p> <p>2 Ishikawa H, Sakurai H, <u>Hasegawa M</u>, Mitsuhashi N, et al. (6). Expression of hypoxic-inducible factor 1alpha predicts metastasis-free survival after radiation therapy alone in stage III B cervical squamous cell carcinoma. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 60, 2004, 513-521.</p> <p>3 Shibamoto Y, Ogino H, <u>Hasegawa M</u>, Suzuki K, et al. (8). Results of radiation monotherapy for primary central nervous system lymphoma in the 1990s. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 62, 2005, 809-813.</p>
260	放射線腫瘍 医学	岩田 和朗	講師	内科系臨床医 学(放射線治 療の為の最適 化に関する研 究)	<p>1 Okei K, Wada T, Yamashita Y, Kuga K, <u>Iwata K</u>. Search for nuclearites using the TL stack detector. Journal of Physics G. Nuclear and Particle Physics. 27, 2001, 855-865.</p> <p>2 <u>Iwata K</u>, Yue NJ, Nath R. Two-dimensional dosimetry in the near field of the model 200 103Pd source for interstitial brachytherapy implants using a thermoluminescent sheet. Phys Med Biol. 49, 2004, 4049-4063.</p> <p>3 <u>Iwata K</u>, Yue NJ, Nath R, Near-field dosimetry of 125I sources for interstitial brachytherapy implants measured using thermoluminescent sheets. Med Phys. 31, 2004, 3406-3416.</p>
261	放射線腫瘍 医学	玉本 哲郎	講師	内科系臨床医 学(定位放射 線治療に関す る研究)	<p>1 <u>Tamamoto T</u>, Asakawa I, et al. (7). Heat-induced growth inhibition and apoptosis in transplanted human head and neck squamous cell carcinomas with different status of p53. International Journal of Hyperthermia. 19, 2003, 590-597.</p> <p>2 Mitsuhiro Kawashima, <u>Tetsuro Tamamoto</u>, et al. (18). Prospective Trial of Radiotherapy for Patients 80 Years of Age or Older with Squamous Cell Carcinoma of the Thoracic Esophagus. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 64, 2006, 1112-1121.</p>

					3	玉本哲郎, 浅川勇雄, 長谷川正俊, 吉村 均. 膵癌・胆道癌の診断と治療—最新の研究動向— B.胆道癌 VII.胆道癌の治療 進行・再発胆道癌の治療 放射線療法. 日本臨床. 第64巻 増刊号1, 2006年, 513-517.
262	放射線腫瘍 医学	真貝 隆之	助手	内科系臨床医学(呼吸器核医学に関する研究)	1	真貝隆之. 肺換気dynamic SPECTの定量評価の臨床的検討. 第64回日本医学放射線学会学術集会. 横浜市, 2005年4月.
					2	真貝隆之. <sup>99m</sup> Tc-Gas肺吸入シンチグラフィおよび <sup>99m</sup> Tc MAA肺血流シンチグラフィによる肺血栓塞栓症の評価 ~volume比による評価の試み~. 第12回呼吸器核医学研究会. 高松市, 2005年5月.
					3	真貝隆之. volume比を用いたテクネガス肺吸入シンチ肺血流シンチによる肺血栓塞栓症の評価. 第45回日本核医学会総会. 東京都, 2005年11月.
263	放射線腫瘍 医学	浅川 勇雄	助手	内科系臨床医学(癌における遺伝子型と放射線感受性に関する研究)	1	Asakawa I, Yoshimura H, et al. (8). Radiation-induced growth inhibition in transplanted human tongue carcinomas with different p53 gene status. Anticancer Research. 22, 2002, 2037-2044.
					2	Takahashi A, Asakawa I, et al. (9). p53-dependent hyperthermic enhancement of tumour growth inhibition by X-ray or carbon-ion beam irradiation. International Journal of Hyperthermia. 19, 2003, 145-153.
					3	Tamamoto T, Asakawa I, et al. (7). Heat-induced growth inhibition and apoptosis in transplanted human head and neck squamous cell carcinomas with different status of p53. International Journal of Hyperthermia. 19, 2003, 590-597.
264	中央臨床検査部	岡本康幸	教授	境界医学(病態検査学)	1	Mitani N, Koizumi A, Sano R, Masutani T他3名. Molecular typing of methicillin-resistant Staphylococcus aureus by PCR-RFLP and its usefulness in an epidemiological study of an outbreak. Jpn J Infect Dis 58: 250-252, 2005
					2	藪内博史, 巽雅嗣, 建島澄子, 他2名. 医学検査 54:908-911,2005
					3	Morita K, Kawamoto H, Takada H, Nakamura S他2名. Unusual $\gamma$ heavy chain disease protein in a patient with splenic marginal-zone lymphoma. Ann Clin Biochem. 43:161-4,2006.

265	中央臨床検査部	山崎正晴	助手	境界医学(病態検査学・消化器内科学)	1	山崎正晴, 福井博. 肝疾患クリニカルパス実例集. メディカルレビュー社, 東京, pp.86-94. 2005
					2	Namisaki T, Yoshiji H, Kojima H, Yoshii J, 他10名. Salvage effect of the vascular endothelial growth factor on chemically induced acute severe liver injury in rats. J Hepatol. 44:568-75, 2006.
					3	Yoshiji H, Kuriyama S, Noguchi R, Yoshii J, 他7名. Combination of vitamin K2 and the angiotensin-converting enzyme inhibitor, perindopril, attenuates the liver enzyme-altered preneoplastic lesions in rats via angiogenesis suppression. J Hepatol. 42:687-93, 2005.
266	輸血部	藤村吉博	教授	内科系臨床医学(血栓性微小血管障害症の研究)	1	Kokame K, <u>Fujimura Y</u> . 他2名. VWF73, a region from D1596 to R1668 of von Willebrand factor, provides a minimal substrate for ADAMTS-13. Blood 103: 607-612, 2004.
					2	Furukoji E, <u>Fujimura Y</u> , 他9名. Adenovirus-mediated transfer of human placental ecto-ATP diphosphohydrolase I to vascular smooth muscle cells suppresses platelet aggregation in vitro and arterial thrombus formation in vivo. Circulation 111: 808-815, 2005.
					3	Uemura M, <u>Fujimura Y</u> . 他9名. Localization of ADAMTS13 to the stellate cells of human liver. Blood 106:922-924, 2005.
267	輸血部	松本雅則	講師	内科系臨床医学(血栓性微小血管障害症の研究)	1	<u>Matsumoto M</u> , Fujimura Y. 他3人. The Japanese experience with TTP/HUS. Semin Hematol 41: 68-74, 2004.
					2	<u>Matsumoto M</u> , Fujimura Y 他16名. Molecular characterization of ADAMTS13 gene mutations in Japanese patients with Upshaw-Schulman syndrome. Blood 103:1305-1310, 2004.
					3	<u>Matsumoto M</u> , Fujimura Y. 他5人. Platelets treated with ticlopidine are less reactive to unusually large VWF multimers than are those treated with aspirin under high shear stress. Pathophys Haemost Thromb 35: 35-40, 2005.

268	中央手術部	下川 充	学内 講師			
269	中央手術部	神谷 達	助手			
270	中央手術部	竹田 政史	助手			
271	集中治療部	河野 安宣	助手			
272	リハビリテー ション部	堀川 博誠	助手			
273	中央内視鏡 ・超音波部	藤井 久男	助教授	外科系臨床医学(消化器外科学、大腸肛門病学、消化器内視鏡学)	1	Kojima Y, Nakagawa T, Katsui R, <u>Fujii H</u> , Nakajima Y, Takaki M. A 5-HT4 agonist, mosapride, enhances intrinsic rectorectal and rectoanal reflexes after removal of extrinsic nerves in guinea pigs. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 289, 2005, G351-G360.
					2	<u>藤井久男</u> . 症例から学ぶIBDの臨床. 東京都, メディカルビュー社, 2005年, 30-33.
					3	<u>藤井久男</u> . 大腸検査におけるインフォームド・コンセント. 日本大腸検査学会雑誌. 21, 2005年, 28-39.
274	中央内視鏡 ・超音波部	平井都始子	助教授	外科系臨床医学(超音波診断学、造影超音波)	1	<u>Hirai T</u> . Clinical application in the Abdomen. AFSUMB 2004. Japan. 2004.5.
					2	<u>平井都始子</u> , 齊藤弥穂, 佐谷 徹, 中島祐子. 総合臨床2005 Vol.54 増刊号 臨床医のための超音波診断アトラス. 大阪市, 永井書店, 2005年, 523-536.
					3	<u>平井都始子</u> , 中島祐子, 廣橋伸治, 丸上永晃. 癌・治療効果判定の画像診断. 東京都, 医療科学社, 2005年, 141-152.
275	中央内視鏡 ・超音波部	辻本 達寛	助手	外科系臨床医学(消化器内科学、肝臓病)	1	<u>Tsujiimoto T</u> , Kuriyama S, Yamazaki M, Nakatani Y, et al. Augmented hepatocellular carcinoma progression and depressed Kupffer cell activity in rat cirrhotic liver. Int J

				学、消化器内視鏡学)	<p>Oncol . 18 , 2001 , 41-47 .</p> <p>2 <u>Tsujimoto T</u>, Kuriyama S , Yoshiji H , Fujimoto M , et al . Ultrasonographic findings of amebic colitis . J Gastroenterol . 38 , 2003 , 82-86 .</p> <p>3 <u>Tsujimoto T</u>, Tsuruzono T , Hoppo K , Matsumura Y , et al . Effect of bromhexine hydrochloride therapy for alcoholic chronic pancreatitis . Alcohol Clin Exp Res . 29 , 2005 , 272S-276S .</p>
276	中央内視鏡・超音波部	丸上 永晃	助手	外科系臨床医学(腹部診断学、MR画像に関する研究)	<p>1 <u>丸上永晃</u> . Cine CTAでFNH様車軸様流入血管を呈したHCCの1例 . 第5回関西血流動態イメージ研究会 . 大阪市 , 2005年7月 ,</p> <p>2 <u>丸上永晃</u> . 実地医家のための画像診断実践ガイド . 東京都 , 文光堂 , 2005年 , 381-383 .</p> <p>3 <u>丸上永晃</u> . 転移性肝腫瘍の検出と鑑別におけるSPIO造影呼吸停止下拡張強調像の有用性 . 第65回日本医学放射線学会 . 横浜市 , 2006年4月 .</p>
277	周産期医療センター・新生児集中治療部門	高橋幸博	教授	内科系臨床医学(胎児・新生児医学、小児血液学)	<p>1 Kawaguchi C, Takahashi Y, Hanesaka Y, Yoshioka A.The in vitro analysis of the coagulation mechanism of activated factor VII using thrombelastogram. Thrombosis and Haemostasis 8,2002,768-772</p> <p>2 Honma K, Hasegawa T, Takeshita E, Watanabe K, Anzo M, Toyoura T, Jinno K, Oohashi T, Hamajima T, Takahashi Y, Takahashi T, Matuo N. Elevated urine pregnanetriolone definitively establishes the diagnosis of classical 21-hydroxylase deficiency in term and preterm.The Journal of Clinical Endocrinology &amp; Metabolism.89.2004.6087-6091</p> <p>3 Xue Yang, Sakamoto O, Matsubara Y, Kure S, Suzuki Y, Aoki Y, Yamaguchi S, Takahashi Y, Nishikubo T, Kawaguchi C, Yosioka A, Kimura T,Hayasaka K, Kohno Y, Iinuma K, Ohura T.Mutaton spectrum of PCCA and PCCB genes in Japanese patients with propionic acidemia.Molecular Genetics and Metabolism.81.2004.335-342</p>

278	周産期医療センター・新生児集中治療部門	西久保敏也	助教授	内科系臨床医学(胎児・新生児医学、小児血液学)	1	Xue Yang, Sakamoto O, Matsubara Y, Kure S, Suzuki Y, Aoki Y, Yamaguchi S, Takahashi Y, Nishikubo T, Kawaguchi C, Yosioaka A, Kimura T, Hayasaka K, Kohno Y, Iinuma K, Ohura T. Mutaton spectrum of PCCA and PCCB genes in Japanese patients with propionic acidemia. Molecular Genetics and Metabolism. 81, 2004, 335-342
					2	Nishikubo T, Yamakawa A, Kamitsuji H, Nakajima M, Takahashi Y, Nakayama M, Kitajima H, Fijimura. M. Identification of the motilin cells in duodenal epithelium of premature infants. Pediatric international. 47. 2005. 248-251
					3	西久保敏也、西野正人、高橋幸博. 低出生体重児におけるモチリンの生理的作用と意義. 奈良県立奈良病院医学雑誌. 10(1), 2006. 3-6
279	周産期医療センター・新生児集中治療部門	安原 肇	助手	内科系臨床医学(胎児・新生児医学)	1	安原 肇、樋口万緑、志田泰明、坂上哲也、森本広之、森山隆則、高瀬俊夫. 免疫グロブリン結合ASTがみられた女児例. 小児科 44(11): 1849-1852. 2003
					2	安原 肇、志田泰明、西口将之、坂上哲也、高川健、森本広之、槍山かおる、寺田勝彦、高瀬俊夫. 便粘液中好酸球が診断経過観察に有用であった新生児アレルギー性腸炎 小児科臨床 56. 2003. 2155-2159
					3	内田優美子、新居育世、安原 肇、川口千晴、高橋幸博. 先天性CMV感染症の治療効果と血中CMV抗原量およびCMV-DNA量. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 42(1). 2006. 105-110
280	周産期医療センター・新生児集中治療部門	新居育世	助手	内科系臨床医学(胎児・新生児医学)	1	新居育世、川口千晴、塙坂八重、井崎和史、内田優美子、安原 肇、金廣裕道、野村純子、佐道俊幸、大野木輝、高橋幸博、吉岡 章. 先天性横隔膜ヘルニア術後に合併した難治性乳び胸に対するOK-432(ピシパニールR)の治療経験. 周産期医学. 36(2) 2006. 255-257.
					2	新居育世、高橋幸博、川口千晴、道ノ前八重、井崎和史、内田優美子、安原 肇、原田直哉、森川肇、田中一郎、吉岡 章. Apert症候群の母子例.

					日本遺伝カウンセリング学会誌.26(2). 2006. 37-40
					3 内田優美子、新居育世、安原 肇、川口千晴、高橋幸博. 先天性CMV感染症の治療効果と血中CMV抗原量およびCMV-DNA量. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 42(1).2006.105-110
281	感染症センター	三笠 桂一	教授	内科系臨床医学(感染症に関する研究)	1 Keiichi Mikasa,Kei Kasahara,Eiji Kita. Macrolides and candar,arthritis and IBD. Antibiotics as Anti-Inflammatory and Immunomodulatory Agents.2005,227-245.
					2 Kei Kasahara,Eiji Kita,Koichi Maeda,Kenji Uno,Ken Takahashi,Mitsuru Konishi,Eiichiro Yoshimoto,Koichi Murakawa,Keiichi Mikasa,Hiroshi Kimura. Clonal Dissemination of penicillin susceptible serotype 3 and penicillin resistant Taiwan 19F-14 and 23F-15 Streptococcus pneumoniae in Japan .Apilot surveillance study.J Clin Microbiol.43,2005,1640-1645.
					3 Mitsuru Konishi,Ken Takahashi,Eiichiro Yoshimoto,Kenji Uno,Kei Kasahara,Keiichi Mikasa. Association between osteopenia/osteoporosis and the serum RANKL in HIV-infected patients.AIDS.19.11.2005.1240-1241.
282	感染症センター	古西 満	助教授	内科系臨床医学(感染症に関する研究)	1 Mari Shimura,Kenzo Tokunaga,Mitsuru Konishi,Yuko Sato,Chizuko Kobayashi,Tetsutaro Sata,Yukihito Ishizaka.Premature sister chromatid separation in HIV-1-infected peripheral blood lymphocytes.AIDS.19.13.2005.1434-1438.
					2 Kei Kasahara,Eiji Kita,Koichi Maeda,Kenji Uno,Ken Takahashi,Mitsuru Konishi,Eiichiro Yoshimoto,Koichi Murakawa,Keiichi Mikasa,Hiroshi Kimura. Clonal Dissemination of penicillin susceptible serotype 3 and penicillin resistant Taiwan 19F-14 and 23F-15 Streptococcus pneumoniae in Japan .Apilot surveillance study.J Clin Microbiol.43,2005,1640-1645.

					3	<u>Mitsuru Konishi</u> ,Ken Takahashi,Eiichiro Yoshimoto,Kenji Uno,Kei Kasahara,Keiichi Mikasa. Association between osteopenia/osteoporosis and the serum RANKL in HIV-infected patients.AIDS.19.11.2005.1240-1241.
283	感染症センター	善本 英一郎	講師	内科系臨床医学(感染症に関する研究)	1	Yukio Fujita,Kei Kasahara,Kenji Uno,Mitsuru Konishi,Koichi Maeda, <u>Eiichiro Yoshimoto</u> ,Koichi Murakawa,Keiichi Mikasa,Itsuto Amano,Takeshi Morii,Hiroshi Kimura.Amphotericin B-induced nephrogeic diabetes insipidus in a case of cryptococemia.Internal Medicine.2005.
					2	Kei Kasahara,Eiji Kita,Koichi Maeda,Kenji Uno,Ken Takahashi,Mitsuru Konishi, <u>Eiichiro Yoshimoto</u> ,Koichi Murakawa,Keiichi Mikasa,Hiroshi Kimura. Clonal Dissemination of penicillin susceptible serotype 3 and penicillin resistant Taiwan 19F-14 and 23F-15 Streptococcus pneumoniae in Japan .Apilot surveillance study.J Clin Microbiol.43,2005,1640-1645.
					3	Mitsuru Konishi,Ken Takahashi, <u>Eiichiro Yoshimoto</u> ,Kenji Uno,Kei Kasahara,Keiichi Mikasa. Association between osteopenia/osteoporosis and the serum RANKL in HIV-infected patients.AIDS.19.11.2005.1240-1241.
284	感染症センター	笠原 敬	助手	内科系臨床医学(感染症に関する研究)	1	Keiichi Mikasa, <u>Kei Kasahara</u> ,Eiji Kita. Macrolides and candar,arthritis and IBD. Antibiotics as Anti-Inflammatory and Immunomodulatory Agents.2005,227-245.
					2	<u>Kei Kasahara</u> ,Eiji Kita,Koichi Maeda,Kenji Uno,Ken Takahashi,Mitsuru Konishi,Eiichiro Yoshimoto,Koichi Murakawa,Keiichi Mikasa,Hiroshi Kimura. Clonal Dissemination of penicillin susceptible serotype 3 and penicillin resistant Taiwan 19F-14 and 23F-15 Streptococcus pneumoniae in Japan .Apilot surveillance study.J Clin Microbiol.43,2005,1640-1645.

					3 Mitsuru Konishi, Ken Takahashi, Eiichiro Yoshimoto, Kenji Uno, Kei Kasahara, Keiichi Mikasa. Association between osteopenia/osteoporosis and the serum RANKL in HIV-infected patients. AIDS. 19.11.2005. 1240-1241.
285	看護学科 哲学	池辺 寧	講師	哲学 (ハイデガー哲学に関する研究)	1 池辺寧、「ハイデガーにおける気づかいと自己性」、『奈良県立医科大学医学部看護学科紀要』第1号、2005年、11-20頁。 2 池辺寧、「ハイデガーの良心論」、『奈良県立医科大学看護短期大学部紀要』第8号、2004年、48-59頁。 3 池辺寧、「ケアリングと教育」、『総合看護』第37巻第2号、現代社、2002年、55-63頁
286	看護学科 英語	勝井伸子	講師	文学(アメリカ文学)	1 勝井伸子他. 共和国の振り子. 東京. 英宝社. 平成15年. 386頁 2 Nobuko Katsui Notes on a Fictional (Colossal) Figure of Sylvia Plath. Bulletin of Nara Medical University School of Nursing. Vol.1.2005 3-10 3 Nobuko Katsui Reading Wintering: A Novel of Sylvia Plath. Bulletin of Nara Medical University School of Nursing. Vol2..2006 7-16
287	看護学科病 態医学	飯田順三	教授	内科系臨床医学(児童思春期精神医学に関する研究)	1 Author1, Iida J., Author3, Author4, Association between minor physical anomalies and lateral ventricular enlargement in childhood and adolescent onset schizophrenia. Acta Psychiatrica Scandinavica 108, 2003, 147-151 2 飯田順三. 注意欠陥/多動性障害-AD/HDの診断・治療ガイドライン-. 1版 東京 武田正一郎 平成15年 10頁 3 飯田順三 現代児童青年精神医学 1版 大阪 永井忠雄 平成14年 7頁
288	看護学科 基礎看護学	三毛美恵子	講師	看護学(看護教育に関する研究)	1 三毛美恵子, 山川正信, 須藤聖子. 女子学生における骨粗鬆症予防のための知識や運動と骨密度の関係. 日本看護研究学会雑誌. 28(1). 2005. 53-62. 2 三毛美恵子, 青山美智代, 須藤聖子, 林有学, 他1名. 確信度を加味した基礎看護技術習得状況の分析. 日本看護学教育学会誌. (15). 2005. 139.

					3	三毛美恵子, 青山美智代, 須藤聖子, 林有学, 他1名. 床上排泄の援助をうける患者心理の理解に関する研究. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要. (1). 2005. 3.
289	看護学科 基礎看護学	青山美智代	講師	看護学(看護 教育に関する 研究)	1	青山美智代, 伊藤明子, 向坂智子, 三毛美恵子, 須藤聖子, 大久保千里: 反省的思考による学生の看護実践の認 識-基礎看護学における学内演習と臨地実習実習の連 関-日本看護研究学会雑誌 VOL.27, No.2, 2004, 101~ 109.
					2	青山美智代, 三毛美恵子, 林有学, 須藤聖子, 伊藤明子: 確信度を加味した基礎看護技術習得度評価の意義, 日 本看護学教育学会第15回学術集会, 埼玉, 2005.7.
					3	伊藤明子, 星和美, 山崎裕美子, 青山美智代: 新看護学7 基礎看護学2, 基礎看護技術, 第13版1刷, 医学書 院, 2006, 418
290	看護学科 基礎看護学	須藤聖子	助手	看護学(基礎 看護学)	1	須藤聖子, 青山美智代, 三毛美恵子, 林有学, 他2名. 施設見学実習における看護学生のソーシャルサポート と学習意欲の関係. 奈良県立医科大学看護短期大学 部紀要. (6). 2002. 58-64.
					2	三毛美恵子, 山川正信, 須藤聖子. 女子学生における 骨粗鬆症予防のための知識や運動と骨密度の関係. 日本看護研究学会雑誌. 28(1). 2005. 53-62.
					3	三毛美恵子, 青山美智代, 須藤聖子, 林有学, 他1名. 確信度を加味した基礎看護技術習得状況の分析. 日本 看護学教育学会誌. (15). 2005. 139.
291	看護学科 基礎看護学	林 有学	助手	看護学(看護 教育およびキ ャリアに関する 研究)	1	林有学, 松村喜世子, 大久保千里. 看護学生の看護対 象者への関心・見方に関する研究-高齢者の看護場面 の写真を通して-. 日本看護学会論文集(看護教育). 34号, 2003年, 204~206.
					2	林有学, 米山京子. 看護師のキャリア形成を規定する 要因. 日本看護学会論文集(看護管理). 36号, 2006 年, 267~269.
					3	林有学, 松村喜世子, 石飛悦子, 米山京子. 看護師の 職業的キャリア成熟度測定尺度の開発. 日本看護学会 論文集(看護管理). 36号, 2006年, 380~382.
292	看護学科 成人看護学	小河 育恵	教授	看護学	1	小河育恵編者: 成人看護学実習ガイド, 初版, 岡 山県, ふくろ出版, 2006.05
					2	吉川日和子, 小河育恵, 高山成子, 麻生佳愛: 高 齢難病患者の日常生活と主観的幸福感, 日本難

					病看護学会誌, 10(3), 2006.
				3	高山成子, 小川育恵, 高柳知子, 吉川日和子:在宅高齢者の通所サービス利用による日常生活活動の変化—利用開始時, 3ヶ月後, 1年後の変化について—, 17-24, 人間と科学, 6(1), 2006.
293	看護学科 成人看護学	岩本 淳子	講師	看護学	1 岩本淳子 松村喜世子 大塚眞代 堀口陽子:ヘンダーソン看護論における構成要素の演習評価 奈良医大看護短期大学部紀要vol4 2002.3. 2 大林末子 岩本淳子 橋口智子 渡邊フサ子:看護師の成長・発達の育成に関する支援システムの方向性 第35回日本看護学会論文集 看護管理2004.3 3 岩本淳子、車谷典男、岡本 希:住民の主観的健康観と生活習慣、健診結果との関係—奈良県橿原市の健康づくりに関するアンケート調査結果の分析— 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要Vol.2 2006.3
294	看護学科 成人看護学	杉崎 一美	講師	看護学(臨床看護学)	1 杉崎一美、小河育恵:成人看護学実習(急性期)における関連図活用の学習効果、奈良県立医科大学医学部看護学科紀要、VOL2,2006.p1~6 2 Fumiko Kobayashi, Ryoko Nimura, Hitomi Sugisaki, Keiko Nagami, et al. : Changes in the Ability of Critical Thinking of Students at a Nursing College in 1999,17th Annual Pacific Nursing Research Conference , Hawaii USA 2004.3 3 池田美智江、永井とし子、杉崎一美:当院看護師が理想とする外来看護の構築と患者の認識、第34回日本看護学会論文集 —看護管理— 2004,p285~287
295	看護学科 成人看護学	大塚 眞代	助手	看護学(看護教育学)	1 大塚眞代:看護学生の障害に対する認識と教育への活用—実習レポートの分析— 日本人権教育研究学会第6回研究大会, 兵庫, 2005.8 2 3
296	看護学科 成人看護学	奥田 淳	助手	看護学(看護教育学・臨床看護学)	1 奥田 淳, 玉田 章:救命救急センターへの救急搬送見学の学習効果, 奈良県立医科大学看護短期大学部紀要, vol. 8, 67-74, 2004.3 2 松浦 一, 島田雅代, 福本智美, 善家トシ子, 奥田 淳:気管内挿管されている患者の体位変換によるカフ内圧の変化, 第36回日本看護学会論文集—成人看護 I —, 2006.3

					3	松浦 一, 島田雅代, 福本智美, 善家トシ子, 奥田 淳: 気管内挿管されている患者の体位変換によるカフ内圧の変化, 第36回日本看護学会—成人看護 I—, 新潟県, 2005.10
297	看護学科 成人看護学	大久保仁司	助手	看護学	1	
					2	
					3	
298	看護学科 老年看護学	守本とも子	教授	看護学(老年看護学)	1	Tomoko Morimoto, Andrea Streit Schreiner The Relationship Between Poststroke Pain and Numbness Symptoms and Depression The Japanese Journal of Health Behavioral Science 17:131-148, 2002.
					2	Tomoko Morimoto, Andrea Streit Schreiner Caregiver Burden and Health-Related QOL among Japanese Stroke Caregivers International Journal of Age and Ageing 32:218-223, 2003.
					3	A. S,Schreiner ,T. Morimoto,Y Arai,& S.Zarit Assessing family caregiver's mental health using a statistically derived cut-off score for the Zarit Burden Interview. International Journal of Aging & Mental Health, March 2006;10(2):107-111
299	看護学科 老年看護学	吉村雅世	講師	看護学(老年看護学)	1	吉村雅世:看護ケアにナラティブを導入した老年患者の語りの構造及び変化の研究, 第29回日本看護研究学術集会, 大阪国際会議場, 2003.7.24.
					2	吉村雅世, 内藤直子:看護ケアにナラティブ・アプローチを導入した老年患者の語りの変化の研究, 日本看護科学会誌, 24巻, 4号, 平成16年12月, P3-12.
					3	吉村雅世, 内藤直子, 近藤さつき, 余野博子, 橋口智子:高齢者の病の語りに見る主観的幸福感の研究, 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要, Vol. 1, 2005.3, P36-45.
300	看護学科 老年看護学	岡本啓子	講師	看護学(老年看護学)	1	岡本啓子, 高井俊子:在宅看護実習施設における受け入れ負担の質と実習方法との関連性, 奈良県立医科大学看護短期大学部紀要, Vol. 7, 2003.3, P56-64.
					2	岡本啓子:在宅療養児における医療的ケアについて, 奈良県立医科大学看護短期大学部紀要, Vol. 8, 2004.3, P89-96.

					3	岡本啓子, 松嶋紀子:地域保健が捉える学校保健との連携について, 第12回日本養護教諭教育学会学術集会, くまもと県民交流館パレア, 2004.10.10.
301	看護学科 小児看護学	江上芳子	教授	看護学 (小児看護学)	1	日本看護学教育学会第13回学術集会、長野市、2003年8月、「看護基礎教育における看護技術および認知領域面の教育のあり方に関する研究—2報:教育を要する看護技術と看護学の教育のあり方—」
					2	日本看護学教育学会第13回学術集会、長野市、2003年8月、「看護基礎教育における看護技術および認知領域面の教育のあり方に関する研究—4報:教育を要する看護技術と必要な認知領域面の内容—」
					3	江上芳子、「気づきから始まる看護『乱暴な行動をする患児への介入』」、Vol22. No4. 平成13年4月、pp52—59.
302	看護学科 小児看護学	森 ウメ子	助教授	看護学(小児看護に関する研究)	1	森 ウメ子. 小児慢性疾患を持つ子どもの発達課題達成感. 奈良県立医科大学看護短期大学部紀要. 第6巻, 2002年, p111-118.
					2	嶋 緑倫, 森 ウメ子, 吉岡 章. 血友病とは;その概念と臨床像. 小児看護. 第25巻. 2002年. p1466-1470.
					3	森 ウメ子. 乳幼児を持つ母親の太陽紫外線に対する認識. 奈良県立医科大学看護短期大学部紀要. 第7巻, 2003年, p47-55.
303	看護学科 精神看護学	上平悦子	講師	看護学(精神看護学)	1	上平悦子、精神看護学における家族に関する学びの内容—学生のレポートを分析して—、奈良県立医科大学医学部看護学科紀要 .1:30-35, 2005
					2	上平悦子、柿坂彰吾、論文タイトルからみた家族に関する研究の分析、第36回日本看護学会論文集 —精神看護— 163~165、2005.
					3	上平悦子、上野栄一、精神看護学実習におけるプロセスレコードの分析、奈良県立医科大学医学部看護学科紀要、2:34~39、2006
304	看護学科 精神看護学	木村洋子	講師	看護学(精神看護学)	1	木村洋子, 渡辺香織:看護学生が自覚する心身の疲弊について—バーンアウト尺度とGHQによる分析—, 奈良県立医科大学看護短期大学部紀要, 15, 2001, 50-54
					2	小田心火・木下八千代・木村洋子・谷本千亜紀・永石喜代子・橋本みどり・平澤久一・矢吹明子・山田

					巧:自己理解・他者理解を深めるプロセスレコード, 第1版, 日総研, 2002年
				3	長谷川雅美・林 優子監修:疾患と看護過程実践ガイド, 第1版, 医学芸術社, 2005年, 1017
305	看護学科 地域看護学	城島哲子	教授	看護学(地域 看護)	1 三津谷恵・城島哲子「地域看護学実習直前・中間・直後学生のセルフストレスチェックの意義」第63回日本公衆衛生学会総会(松江)2004
				2	久保田真澄・城島哲子「健康づくり活動」に取り組む住民の意思決定に関わる要因」日本地域看護学会(大阪)2004
				3	田中克枝・佐藤愛・城島哲子「祖母・母・娘世代における母性性・育児観に関する検討(第3報)第1子の子育てにおける育児困難性の比較」母性衛生学会(東京)2004
306	看護学科 地域看護学	高井俊子	講師	看護学 (地域看護の専門性、乳がん看護に関する研究)	1 高井俊子. 親子の健康教室実践事例から評価のあり方を考える. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要. VOL1, 2005年, 52-59.
				2	高井俊子, 岡本啓子. 在宅看護をグループ学習で学ぶ重要性. 看護教育. 第46巻第12号, 2005年, 1120-1126.
				3	高井俊子. 乳がん患者のグループ支援—奈良県の現状から支援のあり方を検討する—. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要. VOL2, 2006年, 26-33.
307	看護学科 地域看護学	入江安子	講師	看護学(地域 看護)	1 入江安子. 保健師の家族看護介入能力に関する研究. 家族看護. 2(2). 2004. 138-147
				2	入江安子. ファミリーレジリエンスの概念分析. 四天王寺国際仏教大学. 43. 2003. 95-106
				3	入江安子. 知的発達障害児を抱えるファミリーレジリエンスを育成する家族介入モデルの開発. 博士学位論文. 2005. 1-237
308	看護学科 地域看護学	牧野裕子	講師	看護学 (在宅療養者のQOLに関する研究, 産業保健)	1 池田信子, 漆崎育子, 金川克子, 新道京子, 平野かよ子, 他52名. 新版保健師業務要覧. 第1版. 東京, 日本看護協会出版会, 2005年. 総頁634.
				2	牧野裕子, 車谷典男, 鴻池義純, 他3名. 働く女性の妊娠・出産・育児—就労継続のために—. 第45回近畿産業衛生学会. 奈良. 2005年10月

					3	石野レイ子, 牧野裕子. 手術療法を受けた患者の退院支援の研究—外科系病棟看護師長の退院指導の実際と病院内・外の連携に関する認識—. 第25回日本看護科学学会学術集会, 青森, 2005年10月.
309	看護学科母性看護・助産学	脇田満里子	教授	看護学(母性看護学)	1	脇田満里子、小島康生、入澤みち子 妊娠・出産が母親の心理におよぼす影響—夫からのサポートに着目して—. 母性衛生44(2):244-249,2003.
					2	小島康生、入澤みち子、脇田満里子 第二子妊娠期間中における母親—第一子関係. 母性衛生44(2):289-299,2003.
					3	脇田満里子 マタニティブルー症状を呈した褥婦5事例の検討. 奈良県立医科大学看護短期大学部紀要,第7号:24-31,2003.
310	看護学科母性看護・助産学	上田恵子	助教授	看護学(母性看護・助産学)	1	上田恵子、浅見恵梨子. 女子学生の食生活と葉酸に関する意識調査. 母性衛生. Vol.45(4). 2004. 399-404.
					2	渡邊香織、上田恵子. 月経周辺期症状と社会的要因. 奈良県母性衛生学会雑誌. 18号. 2004. 14-15.
					3	上田恵子. 妊娠中の葉酸摂取指導の実態調査. 母性衛生. Vol.46(1). 2004. 46-52.
311	看護学科母性看護・助産学	渡邊香織	講師	看護学(母性看護・助産学)	1	Kaori Watanabe, Atsuko Kita, Relationships between characteristics of various aspects of perimenstrual symptoms, self-efficacy, and health-promoting behavior. Asian Journal of nursing studies,7(3),2004,p24-35
					2	渡邊香織、喜多淳子. 文献的検討による月経周辺期症状の仮説的看護介入モデルの構築. 神大保健紀要、20、2004. P95-108
					3	渡邊香織、木村洋子. パーンアウトと日常生活および職業同一性・self-efficacyとの関連. 日本看護学会論文集(看護教育)、32、2003. P101-103
312	看護学科母性看護・助産学	浅見恵梨子	講師	看護学(母性看護・助産学)	1	グロリアM.ブレチェック、ジョアンC. マクロスキー編、早川和生監訳、看護介入. 第2版. p52~64、p83~94. 東京、医学書院、2004. 618頁
					2	上田恵子、浅見恵梨子. 女子学生の食生活と葉酸に関する意識調査. 母性衛生. Vol.45(4). 2004. 399-404.

					3	浅見恵梨子、井端美奈子、中崎由香里、高橋律子、What should Japanese midwives do at 21st century? 第6回世界周産期学会. 2003
313	看護学科母性看護・助産学	江南宣子	講師	看護学(母性看護・助産学)	1	江南宣子、脇田満里子. 継続事例実習におけるミニミニ両親学級の企画運営について. 第20回日本助産学会学術集会、東京ビッグサイト、2006. 3
					2	江南宣子. 産痛時のタッチケアが産婦におよぼす心身への影響と効果についての研究. 大阪教育大学大学院発達人間論叢、第9号、2006. 9-20
					3	江南宣子、脇田満里子. 特集 産褥期の観察・アセスメントとケア「産後健診時におけるアセスメント」. ペリネイタルケア、第23巻第1号 2004. 27-31
314	教育開発センター	森田孝夫	教授	教育学(医学教育、教育測定学)	1	
					2	
					3	
315	先端医学研究機構・RI実験施設	森 俊雄	助教授	環境学(紫外線高感受性遺伝病における発がんと神経障害の研究)	1	K. Sugasawa, <u>T. Mori</u> , 他9名. UV-induced ubiquitylation of XPC protein mediated by UV-DDB-ubiquitin ligase complex. Cell, 121 (2005) 387-400.
					2	R. Nishi, <u>T. Mori</u> , 他6名. Centrin 2 stimulates nucleotide excision repair by interacting with xeroderma pigmentosum group C protein. Mol. Cell. Biol., 25 (2005) 5664-5674.
					3	S. Sano, <u>T. Mori</u> , 他12名. Signal transducer and activator of transcription 3 is a key regulator of keratinocyte survival and proliferation following ultraviolet irradiation. Cancer Res., 65 (2005) 5720-5729.
316	先端医学研究機構・組換え DNA 実験施設	杉浦 重樹	助教授	基礎医学(トランスポーターに関する研究)		Nozawa, T., Minami, H., <u>Sugiura, S.</u> , Tsuji, A., and Tamai, I Role of organic anion transporter OATPB1(OATP-C) in hepatic uptake of irinotecan and its active metabolite SN-38 : In vitro evidence and effect of single nucleotide polymorphisms. Drug Metabolism and Disposition 33(3), 2005, 434-439

					2	Nozawa, T., <u>Sugiura, S.</u> , Nakajima, M., Goto, A., Yokoi, T., Nezu, J., Tsuji, A., and Tamai, I. Involvement of OATP transporters in the transport of troglitazone sulfate: Implications for understanding troglitazone hepatotoxicity Drug Metabolism and Disposition. 32(3), 2004, 291-294
					3	Nozawa, T., <u>Sugiura, S.</u> , Hashimoto, Y., Tsuji, A., and Tamai, I. Role of Anion Exchange Transporter PAT1 (slc26a6) on the Intestinal Absorption of Organic Anions. Journal of Drug Targeting 12(2), 2004, 97-104
317	先端医学研究機構・動物実験施設	久保 薫	講師	実験動物学 (炎症・アレルギー疾患モデル動物の開発と薬理学的解析)	1	<u>Kaoru Kubo</u> , Taizo Kita, Takahiro Tsujimura and Toshikatsu Nakashima Effect of nicotine-induced corticosterone elevation on nitric oxide production in the passive skin Arthus reaction in rats. J Pharmacol Sci 94: 2004, 31-38.
					2	<u>Kaoru Kubo</u> , Taizo Kita, Itaru Narushima, Takeshi Tanaka, Toshiaki Nakatani and Toshikatsu Nakashima Nicotine-induced inflammatory decreasing effect on passive skin Arthus reaction in paraventricular nucleus-lesioned wistar rats. Pharmacology & Toxicology 92: 2003 125-130.
					3	久保 薫(分担執筆) 疾病の成り立ちと回復の促進薬理学 (編著 中嶋敏勝), 東京, 医歯出版社, 2005年, 総頁267ページ
318	先端医学研究機構・医療情報学分野	堤 幹宏	教授	情報学(医療情報学)	1	George J, Tsutsumi M, Takase S: Expression of hyaluonic acid in N-nitrosodimethylamine induced hepatic fibrosis in rats. Int. J. Biochem. Cell Biol. , 36:307-319, 2004.
					2	Fukumura A Tsutsumi M, Tsuchishima M, Takase S: Correlation between adenosine triphosphate content and apoptosis in liver of rats treated with alcohol. Alcohol. Clin. Exp. Res. , 27:12s-15s, 2003
					3	Tsutsumi M, Takase S: Effect of fenofibrate on fatty liver in rats treated with alcohol. Alcohol. Clin. Exp. Res. , 25:75s-79s, 2001

319	先端医学研究機構・生命システム医科学分野	坪井 昭夫	教授	神経科学(匂いの受容と識別の分子機構の解明)	<p>1 Tsuboi, A., Miyazaki, T., Imai, T. and Sakano, H.: Olfactory sensory neurons expressing class I odorant receptor genes converge their axons on an antero-dorsal domain of the olfactory bulb in the mouse. <i>Eur. J. Neurosci.</i>, <b>23</b>, 2006, p.1436-1444.</p> <p>2 Kobayakawa, K., Hayashi, R., Morita, K., Miyamichi, K., Oka, Y., Tsuboi, A. and Sakano, H.: Stomatin-related olfactory protein, SRO, specifically expressed in the murine olfactory sensory neurons. <i>J. Neurosci.</i>, <b>22</b>, 2002, p.5931-5937.</p> <p>3 Ishii, T., Serizawa, S., Kohda, A., Nakatani, H., Shiroishi, T., Okumura, K., Iwakura, Y., Nagawa, F., Tsuboi, A. and Sakano, H.: Monoallelic expression of the odourant receptor gene and axonal projection of olfactory sensory neurones. <i>Genes Cells</i>, <b>6</b>, 2001, p.71-78.</p>
-----	----------------------	-------	----	------------------------	--